



# TOKYO 2020

東京2020 第48回理事会 資料

## 決議事項

---



# 事務局規程等の改正について

2021年12月22日

# 事務局規程の改正＜総務局・広報局の統合＞

## 1 目 的

総務局・広報局については、大会終了後の業務の円滑な遂行と効果的な広報体制の構築を目的に、両局を統合することとし、組織改正並びにこれに伴う事務局規程の一部を改正する。

## 2 改正内容

- 事務局規程第2条第1項に定める事務局の組織から「広報局」を削除＜第2条関連＞
- 同規程第7条に定められている広報局の所管業務を削除し、広報局の所管業務を、同規程第5条の総務局の所管業務に統合＜第5条及び第7条関連＞

## 3 施行予定日

2022年1月1日

# 危機管理基本規程の改正

## 1 目 的

東京2020大会終了後の組織委員会の体制の見直し等に合わせ、関係規程の文言整理を行う。

## 2 改正内容

- 危機管理基本規程第3条（基本方針）について、事業活動の内容を改める（大会の準備に関わる旨を削除）。
- 同規程第5条（危機管理責任者）について、チーフ・セキュリティ・オフィサーの役割を改める。

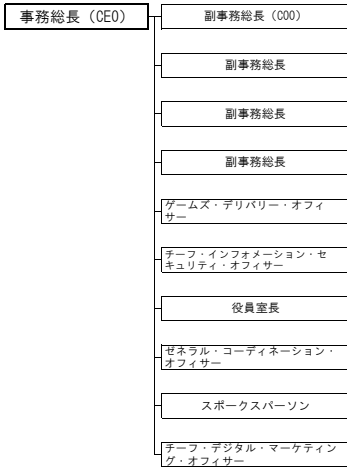
## 3 施行予定日

2021年12月22日

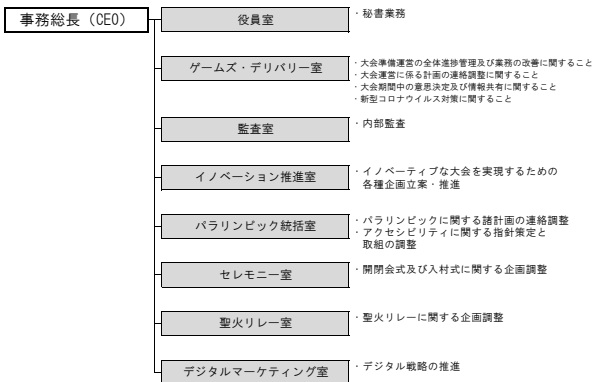


## 2021年度 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 事務局・組織概要（案）

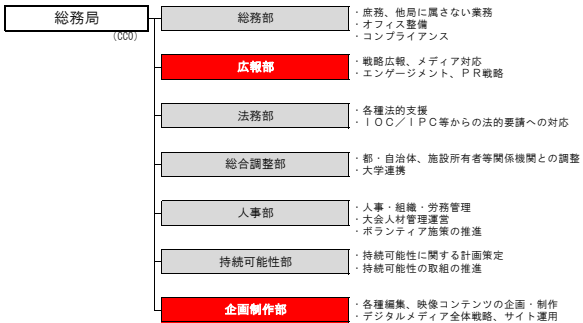
## 収入・特別収入



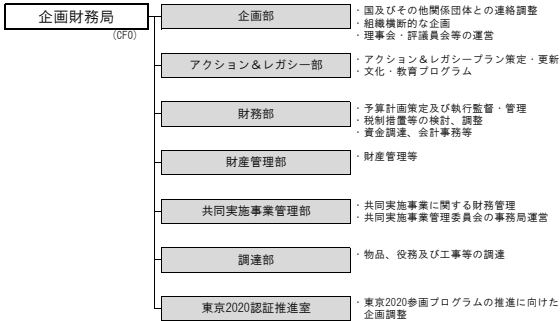
## 大会運営本部組織図



## 事務局



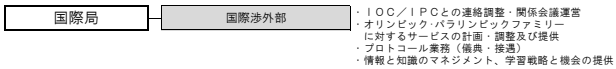
## 企画財務局



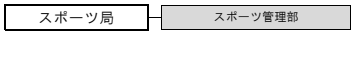
## マーケティング局



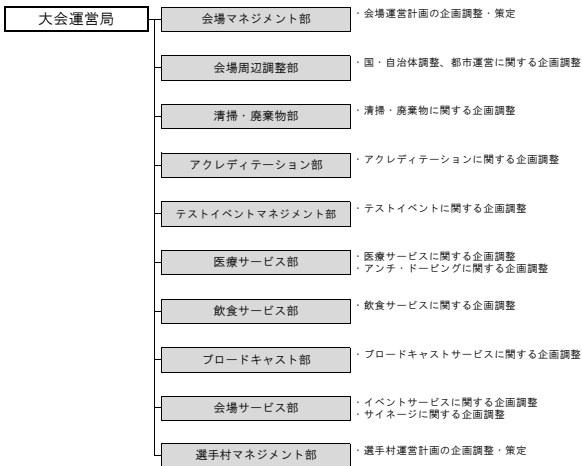
## 国際局



## スポーツ局



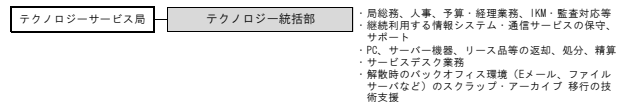
## 大会運営局



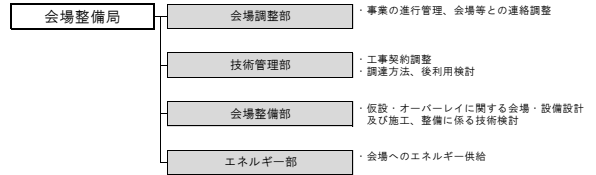
## 警備局



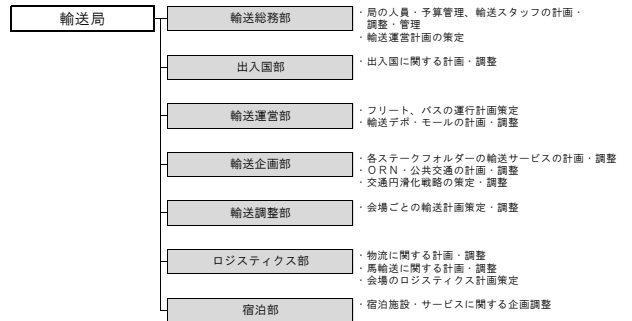
## テクノロジーサービス局



## 会場整備局



## 輸送局





# TOKYO 2020

東京2020 第48回理事会 資料

## 報告事項

---



# 大会後の業務終了に向けた状況について

2021年12月22日

## 【1】目標

- 大会後まで必要な業務プロセスや組織人員体制等を整理し、業務遂行の共通の指針として活用  
⇒ 速やかに業務を終了し、円滑に解散。また、レガシー等を適切に承継

## 【2】目標達成への主な取組

- （1）予め大会後に必要な業務の見通しを立て、計画的に実施
- （2）的確な財務運営・財産管理
  - ア 資産物品は、大会前から使用後の取扱いを検討。大会後は迅速に引渡し
  - イ 大会後の執行体制が縮小する中であっても、多数の契約(債権債務)を各組織が連携し確実に管理
  - ウ 大会前から予算執行状況を定期的に管理し、健全な財務運営を推進。決算を公表するなど、透明性を確保
- （3）大会の記録・記憶を関係機関に円滑に承継・成果の発信
  - ア 公式報告書等を取りまとめ、発信
  - イ 現物資産等は、大会前から関係機関と協議して、アーカイブ資産等として承継し、長期的な利活用等を推進
  - ウ 文書資産は、関係機関と連携して保管方法等を検討し、大会後は、関係法令等に基づく保管やアーカイブ組織等への承継・保管を実施

## 【3】組織人員体制等

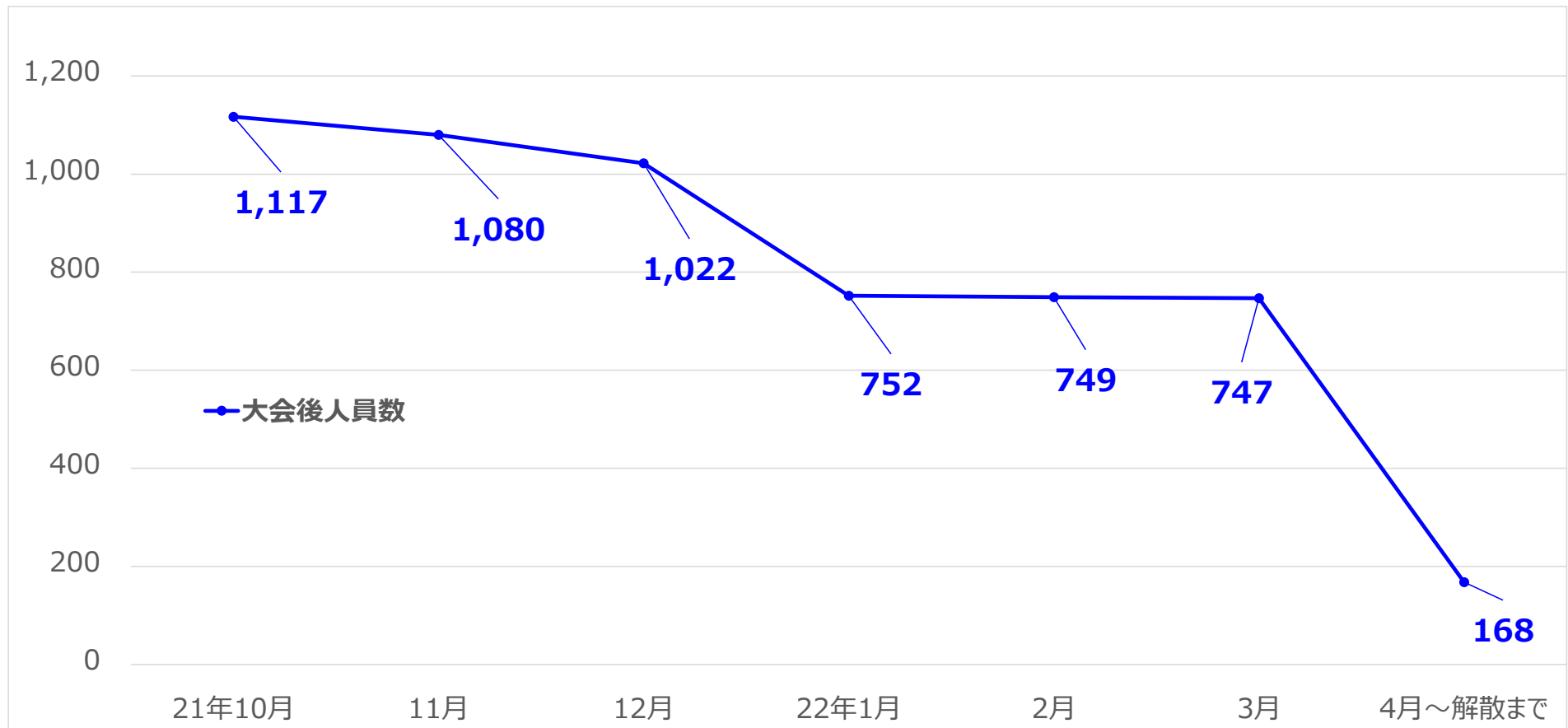
- 大会後の組織人員体制について、各組織の業務の状況を踏まえた効率的な体制を構築
- 各組織の業務の進捗状況について、経営層が確認するなど、解散まで適切に管理
- 残務が終了した後は、関係法令を踏まえて解散し、理事会を清算人会に改め、清算期間に移行

# 業務終了までのスケジュール

| 「大会後の業務完了に向けた取組方針」<br>における主な取組 | 今後の予定                            |            |             |         |
|--------------------------------|----------------------------------|------------|-------------|---------|
|                                | 2021年                            | 2022年      |             |         |
|                                | 10月                              | 1月         | 4月          |         |
|                                |                                  |            |             | 理事会     |
| 【大会の記録・記憶の承継】                  |                                  |            |             |         |
| 文書等の保管・承継                      | 保管（随時）                           |            |             | 承継      |
| アーカイブ資産の収集等                    | 収集・移管                            | →          | 移管完了        |         |
| 公式報告書による承継・発信                  |                                  |            | 公式報告書の作成・提出 |         |
| 【組織人員体制】                       |                                  |            |             |         |
| 組織・人事執行体制                      | 職員数段階的縮小                         |            |             | 法人解散    |
|                                | FA等の段階的廃止                        |            |             |         |
| 【的確な財務運営・財産管理】                 |                                  |            |             |         |
| 資産物品の管理・処分                     | 有効活用先への引渡し等                      | 財産処分手続きの完了 |             |         |
| 契約（債権債務）管理                     | 大会後の支払い等                         | 主要な契約の完了   | 大会決算        |         |
| 【計画的な業務遂行】                     |                                  |            |             |         |
| 適切な進行管理                        | 「大会後の業務完了に向けた取組方針」に基づき、引き続き業務を遂行 |            |             | → 業務の終了 |

## 大会終了後人員数の推移

2021年12月13日  
総務局人事部



※人員数は資料作成時点の数字であり、今後若干の変動の可能性あり



# 大会経費の見通しについて

2021年12月22日

# 大会経費の見通し

大会経費の見通しは、簡素化をはじめとする支出抑制に向けたこれまでの取組や無観客開催に伴う契約の見直しなどにより1兆4530億円となり、大会経費V5（バージョン5）の1兆6440億円を1910億円下回る見通しとなった。加えて、新たな変異株の出現や国内外の新型コロナウイルスの感染状況を踏まえた観客数の取扱いの決定といった、昨年12月のV5発表以降に生じた事象に対して、本年12月21日の東京2020組織委員会、東京都、国の三者による「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の大会経費の取扱いについて」の合意に基づき、東京都及び国が新たな予算措置を講ずることなく対応できる見通しとなった。

合意において、V5発表以降の後発事象について、従前に合意されていた経費の負担割合の考え方にに基づき、国は共同実施事業のパラリンピック経費と新型コロナウイルス感染症対策関連経費に係る支出を行い、その上で東京都は、開催都市として安全・安心な大会の円滑な実施の観点から、V5の範囲内で共同実施事業負担金（安全対策）を支出することになった。

組織委員会決算の見通しは、東京大会のほとんどの競技が無観客で実施されたことによるチケット売上の減収等により、収入はV5に対して867億円減の6343億円となる一方、上述の取組等による支出の抑制239億円や東京都が支出する共同実施事業負担金（安全対策）628億円により、支出は収入と同額の6343億円となった。

この結果、組織委員会の収入減を含めた後発事象に対応した上でなお、国と東京都が負担するその他の経費のうち、国分はV5を271億円、東京都分は772億円下回る見通しとなった。

なお、本大会経費の見通しは、競技会場の仮設撤去・原状回復工事や観客数の取扱いを踏まえた契約の見直しなどに取り組んでいる現時点での予算執行状況に基づいて作成したものである。

組織委員会は、今後とも引き続き経費節減や収入確保に努めた上で、大会経費の詳細について明らかにしていく。



## 大会経費の見通し・分担

(単位 億円)

|                  |                   | V5             |                |                |                   | 見通し              |                  |                 |                    |                 |                   |                 |                 |                   |                    |                  |
|------------------|-------------------|----------------|----------------|----------------|-------------------|------------------|------------------|-----------------|--------------------|-----------------|-------------------|-----------------|-----------------|-------------------|--------------------|------------------|
|                  |                   | 組織委員会          | その他            |                |                   | 支出計              | 組織委員会            | その他             |                    |                 | 支出計               |                 |                 |                   |                    |                  |
|                  |                   |                |                | 東京都            | 国                 |                  |                  |                 | 東京都                | 国               |                   |                 |                 |                   |                    |                  |
| 会場関係             |                   | 2,310<br>(600) | 6,970<br>(600) | 5,470<br>(300) | 1,500<br>(300)    | 9,280<br>(1,200) | 2,395<br>(514)   | <+85><br><▲86>  | 6,245<br>(514)     | <▲725><br><▲86> | 4,748<br>(257)    | <▲722><br><▲43> | 1,497<br>(257)  | <▲3><br><▲43>     | 8,640<br>(1,027)   | <▲640><br><▲173> |
|                  | 恒 久 施 設           | —              | 3,460          | 2,260          | 1,200             | 3,460            | —                | <—>             | 3,500              | <+40>           | 2,260             | <—>             | 1,240           | <+40>             | 3,500              | <+40>            |
|                  | 仮 設 等             | 1,280          | 2,610          | 2,410          | 200               | 3,890            | 1,338            | <+58>           | 1,984              | <▲626>          | 1,786             | <▲624>          | 198             | <▲2>              | 3,321              | <▲569>           |
|                  | エ ネ ル ギ ー イ ン フ ラ | 250            | 470            | 420            | 50                | 720              | 215              | <▲35>           | 415                | <▲55>           | 380               | <▲40>           | 35              | <▲15>             | 630                | <▲90>            |
|                  | テ ク ノ ロ ジ ー       | 780            | 430            | 380            | 50                | 1,210            | 842              | <+62>           | 346                | <▲84>           | 323               | <▲57>           | 24              | <▲26>             | 1,188              | <▲22>            |
| 大会関係             |                   | 4,900<br>(300) | 1,200<br>(300) | 1,050<br>(150) | 150<br>(150)      | 6,100<br>(600)   | 4,576<br>(244)   | <▲324><br><▲56> | 834<br>(244)       | <▲366><br><▲56> | 712<br>(122)      | <▲338><br><▲28> | 122<br>(122)    | <▲28><br><▲28>    | 5,410<br>(489)     | <▲690><br><▲111> |
|                  | 輸 送               | 480            | 370            | 350            | 20                | 850              | 384              | <▲96>           | 190                | <▲180>          | 168               | <▲182>          | 23              | <+3>              | 575                | <▲275>           |
|                  | セ キ ュ リ テ ィ       | 340            | 580            | 550            | 30                | 920              | 268              | <▲72>           | 480                | <▲100>          | 453               | <▲97>           | 28              | <▲2>              | 748                | <▲172>           |
|                  | オ ペ レ ー シ ョ ン     | 1,680          | 250            | 150            | 100               | 1,930            | 1,618            | <▲62>           | 157                | <▲93>           | 89                | <▲61>           | 69              | <▲31>             | 1,775              | <▲155>           |
|                  | 管 理 ・ 広 報         | 840            | 0              | 0              | 0                 | 840              | 777              | <▲63>           | 3                  | <+3>            | 1                 | <+1>            | 1               | <+1>              | 780                | <▲60>            |
|                  | マ ー ケ テ ィ ン グ     | 1,360          | 0              | 0              | 0                 | 1,360            | 1,332            | <▲28>           | 0                  | <+0>            | 0                 | <+0>            | 0               | <+0>              | 1,332              | <▲28>            |
|                  | そ の 他             | 200            | 0              | 0              | 0                 | 200              | 197              | <▲3>            | 3                  | <+3>            | 2                 | <+2>            | 2               | <+2>              | 200                | <▲0>             |
| 新型コロナウイルス感染症対策関連 | —                 | 960            | 400            | 560            | 960               | —                | <—>              | 480             | <▲480>             | 160             | <▲240>            | 320             | <▲240>          | 480               | <▲480>             |                  |
| 緊急対応費            | —                 | 100            | 100            | —              | 100               | —                | <—>              | —               | <▲100>             | —               | <▲100>            | —               | <—>             | —                 | <▲100>             |                  |
| 小 計              | 7,210<br>(900)    | 9,230<br>(900) | 7,020<br>(450) | 2,210<br>(450) | 16,440<br>(1,800) | 6,971<br>(758)   | <▲239><br><▲142> | 7,559<br>(758)  | <▲1,671><br><▲142> | 5,620<br>(379)  | <▲1,400><br><▲71> | 1,939<br>(379)  | <▲271><br><▲71> | 14,530<br>(1,516) | <▲1,910><br><▲284> |                  |
| 共同実施事業負担金（安全対策）  | —                 | —              | —              | —              | —                 | ▲ 628            | <▲628>           | 628             | <+628>             | 628             | <+628>            | —               | <—>             | —                 | <—>                |                  |
| 支 出 計            | 7,210<br>(900)    | 9,230<br>(900) | 7,020<br>(450) | 2,210<br>(450) | 16,440<br>(1,800) | 6,343<br>(758)   | <▲867><br><▲142> | 8,187<br>(758)  | <▲1,043><br><▲142> | 6,248<br>(379)  | <▲772><br><▲71>   | 1,939<br>(379)  | <▲271><br><▲71> | 14,530<br>(1,516) | <▲1,910><br><▲284> |                  |

(注1) 上記の見通しは、引き続き、収入確保に努めつつ、2022年春頃までかかる競技会場の仮設撤去・原状回復工事や、観客数の取扱いを踏まえた契約の見直しなどに取り組んでいる中、2021年11月末時点の予算執行状況を集計したもの。

(注2) 共同実施事業負担金(安全対策)628億円は、V5予算及び今回の組織委員会、東京都、国による三者合意(「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の大会経費の取扱いについて」)に基づき、東京都が支出するもの。

(注3) V5予算の国のパラリンピック経費については、その他分から東京都分を差し引き、内訳を記載している。

(注4) 計数については、それぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは合致しないものがある。

(注5) ( ) は、うちパラリンピック経費分、< > は、V5予算比増減額である。

## 組織委員会決算の見通し

### 収 入

| 項 目      | V5    | 決算見通し        |
|----------|-------|--------------|
| IOC負担金   | 850   | 865 <+15>    |
| TOPスポンサー | 560   | 561 <+1>     |
| 国内スポンサー  | 3,500 | 3,506 <+6>   |
| ライセンス    | 140   | 144 <+4>     |
| チケット売上   | 900   | 4 <▲896>     |
| その他      | 350   | 471 <+121>   |
| 増収見込     | 760   | 792 <+32>    |
| 小 計      | 7,060 | 6,343 <▲717> |
| 収支調整額    | 150   | — <▲150>     |
| 収 入 計    | 7,210 | 6,343 <▲867> |

### 支 出

(単位 億円)

| 項 目             | V5    | 決算見通し        |
|-----------------|-------|--------------|
| 会場関係            | 2,310 | 2,395 <+85>  |
| 仮設等             | 1,280 | 1,338 <+58>  |
| エネルギーインフラ       | 250   | 215 <▲35>    |
| テクノロジー          | 780   | 842 <+62>    |
| 大会関係            | 4,900 | 4,576 <▲324> |
| 輸送              | 480   | 384 <▲96>    |
| セキュリティ          | 340   | 268 <▲72>    |
| オペレーション         | 1,680 | 1,618 <▲62>  |
| 管理・広報           | 840   | 777 <▲63>    |
| マーケティング         | 1,360 | 1,332 <▲28>  |
| その他             | 200   | 197 <▲3>     |
| 小 計             | 7,210 | 6,971 <▲239> |
| 共同実施事業負担金(安全対策) | —     | ▲ 628 <▲628> |
| 支 出 計           | 7,210 | 6,343 <▲867> |

(注1) 上記の決算見通しは、引き続き、収入確保に努めつつ、2022年春頃までかかる競技会場の仮設撤去・原状回復工事や、観客数の取扱いを踏まえた契約の見直しなどに取り組んでいる中、2021年11月末時点の予算執行状況を集計したもの。

(注2) 共同実施事業負担金(安全対策)628億円は、V5予算及び今回の組織委員会、東京都、国による三者合意(「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の大会経費の取扱いについて」)に基づき、東京都が支出するもの。

(注3) <>は、V5予算比増減額である。

## 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の 大会経費の取扱いについて

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「大会」という。）の予算については、令和元年 12 月、組織委員会予算 V 4（以下「V 4 予算」という。）が決定されており、組織委員会、東京都、国の経費分担については、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の役割（経費）分担に関する基本的な方向について」（平成 29 年 5 月 31 日関係自治体等連絡協議会決定。以下「大枠の合意」という。）に基づき、V 4 予算の中に計上されたところである。その後、令和 2 年 3 月に新型コロナウイルス感染症の影響により大会が延期されたことに伴い必要となる追加経費を含め、大会の予算については、令和 2 年 12 月に決定された組織委員会予算 V 5（以下「V 5 予算」という。）が決定されており、追加経費の負担については、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の追加経費の負担について」（令和 2 年 12 月 4 日組織委員会公表。以下「追加経費負担の合意」という。）に基づき、V 5 予算の中に計上されている。

その後、新たな変異株の出現など国内外の新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期すとともに、観客数の取扱いが決定されたところである。

以上の経緯及び V 5 予算決定以降の状況等を踏まえ、組織委員会、東京都、国の役割（経費）分担について、下記のとおりとする。

### 記

1. 組織委員会は、大会経費全体について、既に決定している支出を上回ることのないよう、観客数の取扱いを踏まえた契約の見直しも含め、経費節減や収入確保に努める。また、引き続き、大会経費の決算を明らかにするとともに、共同実施事業等における経費執行の説明責任を果たす。
2. 国内外の新型コロナウイルスの感染状況を踏まえた観客数の取扱いの決定に伴い、公費負担の対象となるパラリンピック経費の基本的な

考え方「①経費の内容がパラリンピック競技・選手に深く関わるものであること」、「②オリンピックとパラリンピックの双方の競技・選手に関わる経費については、経費の内容等を踏まえ適切に按分されたものであること」、「③経費の内容等が公費負担の対象として適切なものであること」(※)に合致することとなった事業に関する経費については、パラリンピック経費として、その負担割合を大枠の合意のとおりとする。

(※)「パラリンピック経費の基本的考え方」(平成29年12月22日第3回共同実施事業管理委員会確認事項。)

3. 新型コロナウイルス感染症対策のうち、国内外の感染状況の変化に対応して講じられた措置に関する経費については、追加経費負担の合意のとおりとする。
4. その上で、東京都は、開催都市として、組織委員会経費の共同実施事業に係るものについて、安全・安心な大会の円滑な実施の観点から、V5予算の共同実施事業負担金の範囲内で対応する。
5. 東京都と国は、共同実施事業の経費のうち、公費負担の対象となるものについて、引き続き、その適切な執行を確認する。

令和3年12月21日

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会事務総長 武藤 敏郎  
東京都副知事 潮田 勉  
内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部  
事務局長 豊岡 宏規



# 組織委員会の文書等に関する保存・継承 について

2021年12月22日

# 組織委員会の文書等に関する保存・継承について

○ 大会文書については、法令やアーカイブ資産協定を踏まえ、以下のいずれかに分類し、適切に保存・継承していく

※ 大会に関するすべての権利は、開催都市契約(HCC)に基づきIOCに帰属

組織委員会が、法人運営及び大会運営のために作成・受領し、組織的に用いた文書

## 法令等に基づき、清算人が保存する文書等

### ◆ 一般法人法241条

清算人は、清算法人の帳簿並びに事業及び清算に関する重要な資料について、清算結了から10年間保存しなければならない。

(例) 会計帳簿、財務諸表、  
金額に関わらずすべての契約書、  
すべての稟議書 など

### ◆ 労働基準法、国税通則法など

(例) 賃金台帳、出勤簿、源泉徴収票など

### ◆ 高度なセキュリティ情報や個人情報など

※ 財務諸表等は内閣府等のHPにて閲覧可能

※ それ以外も裁判所の許可があれば閲覧可能

## HCCに基づき、アーカイブ組織(JOC)に継承する文書等

### ◆ 開催都市契約(HCC) 等

OCOGは、都やJOCの役割を含め、大会の記録及びアーカイブを長期保存する計画を策定する。

#### ＜アーカイブ資産協定＞

アーカイブ資産とは、組織委がJOC、都等の支援を得て、アーカイブの価値を有するものとして特定した資産(最終リストはIOCが承認)

(例) 会場運営計画、会場別ブロックプラン  
飲食提供基本戦略、アクション&レガシープラン  
COCOM資料、MOCデイリーレポート  
持続可能性報告書

※ 利活用が可能

※ 内容によっては、利用者を限定するものあり



# TOKYO 2020

12月22日

## 東京2020大会の振り返りについて【抜粋版】

# INDEX

### 1. 大会概要

|     |    |                 |
|-----|----|-----------------|
| 1.1 | 6  | 振り返り（要約）        |
| 1.2 | 9  | 東京2020モデル       |
| 1.3 | 11 | 東京大会の概要         |
| 1.4 | 12 | 大会ビジョン・大会モットー   |
| 1.5 | 14 | 大会エンブレム         |
| 1.6 | 15 | 大会マスコット         |
| 1.7 | 16 | 大会開催を振り返っての総括評価 |

### 2. 競技

|     |    |                          |
|-----|----|--------------------------|
| 2.1 | 18 | 競技スケジュール                 |
| 2.2 | 19 | オリンピック・パラリンピック競技会場一覧     |
| 2.3 | 20 | 競技運営の振り返り オリンピック/パラリンピック |
| 2.4 | 91 | 世界新記録                    |
| 2.5 | 92 | 日本選手団の活躍                 |
| 2.6 | 94 | スポーツの価値                  |
| 2.7 | 95 | 新競技、新種目                  |

### 3. 大会延期・無観客

|     |     |      |
|-----|-----|------|
| 3.1 | 98  | 大会延期 |
| 3.2 | 106 | 無観客  |

### 4. メディア等での取り上げ、国内・世界の評価

|     |     |                        |
|-----|-----|------------------------|
| 4.1 | 126 | 東京大会の視聴率・世論調査等         |
| 4.2 | 127 | 国際メディアによる評価            |
| 4.3 | 128 | 国内メディアによる評価            |
| 4.4 | 133 | 報道各社の世論調査              |
| 4.5 | 134 | 放送                     |
| 4.6 | 138 | 公式デジタルメディア成果           |
| 4.7 | 139 | メディアコミュニケーション          |
| 4.8 | 140 | Tokyo2020 メディア・ブリーフィング |

### 5. 大会参加者

|     |     |                     |
|-----|-----|---------------------|
| 5.1 | 148 | アスリート、メダル、セッション、関係者 |
| 5.2 | 149 | 海外・国内の関係者総数         |
| 5.3 | 150 | 海外から来日する大会関係者数      |
| 5.4 | 153 | NOC・NPC一覧           |
| 5.5 | 157 | 出入国の状況              |

### 6. 観客・チケット

|     |     |            |
|-----|-----|------------|
| 6.1 | 159 | チケット販売の経緯  |
| 6.2 | 160 | チケット販売枚数   |
| 6.3 | 161 | チケット枚数の詳細  |
| 6.4 | 162 | 入場者数       |
| 6.5 | 163 | 学校連携観戦の様子  |
| 6.6 | 165 | 有観客セッション一覧 |

### 7. 大会デザイン

|     |     |                  |
|-----|-----|------------------|
| 7.1 | 167 | 東京2020スポーツピクトグラム |
| 7.2 | 169 | 大会ルック            |

### 8. 大会運営総括

|     |     |                     |
|-----|-----|---------------------|
| 8.1 | 173 | MOC(メインオペレーションセンター) |
| 8.2 | 177 | 会場運営体制              |
| 8.3 | 178 | MOC対応事業             |
| 8.4 | 187 | 大会運営体制概要            |
| 8.5 | 189 | IOC/IPC会議           |

### 9. 競技・会場運営

|      |     |                        |
|------|-----|------------------------|
| 9.1  | 192 | 東京2020大会の特徴            |
| 9.2  | 193 | 競技会場の運営振り返り            |
| 9.3  | 194 | 競技運営状況 オリンピック          |
| 9.4  | 195 | 競技日程変更概要 オリンピック        |
| 9.5  | 196 | 競技運営状況 パラリンピック         |
| 9.6  | 197 | 競技日程変更概要 パラリンピック       |
| 9.7  | 198 | 気象情報センターからの情報提供        |
| 9.8  | 199 | IFフリーフィングの開催           |
| 9.9  | 202 | 競技会場運営状況               |
| 9.10 | 206 | スポーツプレゼンテーション(SPP)・表彰式 |
| 9.11 | 208 | 競技会場外の運営振り返り           |
| 9.12 | 209 | オリンピック/マラソン競技          |
| 9.13 | 210 | パラリンピック/マラソン競技         |
| 9.14 | 212 | オリンピックマラソン・競歩の会場変更     |
| 9.15 | 214 | テストイベント実施概要            |
| 9.16 | 215 | 実施テストイベント数             |
| 9.17 | 216 | テストイベント実施スケジュール        |



# INDEX

## 10. 新型コロナ対策

|       |     |                  |
|-------|-----|------------------|
| 10.1  | 221 | 新型コロナ対策概要        |
| 10.2  | 227 | ブレイブック           |
| 10.3  | 232 | コロナ対策の検討経緯       |
| 10.4  | 243 | 事前のワクチン接種        |
| 10.5  | 246 | 検査体制と検査結果サマリ     |
| 10.6  | 252 | 医療サービスの提供        |
| 10.7  | 254 | 入国・出国・空港・輸送の対応   |
| 10.8  | 263 | 選手村での対策          |
| 10.9  | 269 | 競技会場での対策         |
| 10.10 | 273 | パラリンピックでの対策      |
| 10.11 | 277 | 暑さ対策とコロナ対策の両立    |
| 10.12 | 279 | 海外関係者の対策         |
| 10.13 | 283 | 大会ボランティア・スタッフの対策 |
| 10.14 | 285 | 聖火リレー・沿道競技での対策   |
| 10.15 | 291 | IDCC・保健衛生拠点の活動   |
| 10.16 | 299 | 情報公開・情報共有        |
| 10.17 | 301 | 大会時の感染状況等と取組の結果  |

## 11. 医療サービス

|       |     |                        |
|-------|-----|------------------------|
| 11.1  | 312 | 会場医療                   |
| 11.2  | 313 | 選手村医療（総合診療所、ピレシブプラザ）   |
| 11.3  | 314 | 選手村医療（総合診療所における対応）     |
| 11.4  | 316 | 大会指定病院について（概要）         |
| 11.5  | 317 | 受診者数／入院者数              |
| 11.6  | 318 | 医療スタッフについて（概要）         |
| 11.7  | 319 | 海外医師関連業務について（概要）       |
| 11.8  | 320 | 選手村へのコンドームの提供について      |
| 11.9  | 321 | 大会中に生じた課題と対応           |
| 11.10 | 324 | 東京2020大会医療データの研究利用について |

## 12. アンチ・ドーピング

|      |     |                      |
|------|-----|----------------------|
| 12.1 | 326 | ドーピング検査              |
| 12.2 | 327 | 検査体制の整備              |
| 12.3 | 328 | ドーピング分析              |
| 12.4 | 329 | アウトリーチ活動及びインテリジェンス活動 |

## 13. 暑さ対策

|      |     |                      |
|------|-----|----------------------|
| 13.1 | 331 | 暑さ対策等                |
| 13.2 | 332 | 大会期の暑さの状況            |
| 13.3 | 334 | 大会期の暑さ関連情報・対応        |
| 13.4 | 335 | 東京2020大会における暑さ対策     |
| 13.5 | 336 | 会場別実施状況              |
| 13.6 | 338 | 取組内容                 |
| 13.7 | 348 | 暑さ対策とコロナ対策の両立の観点（概要） |

## 14. 会場

|      |     |                                 |
|------|-----|---------------------------------|
| 14.1 | 350 | 会場整備について                        |
| 14.2 | 351 | 会場計画の見直し                        |
| 14.3 | 352 | 競技会場一覧                          |
| 14.4 | 354 | 東京2020競技会場 仮設オーバーレイ イメージ（屋外・屋内） |
| 14.5 | 356 | 会場写真                            |
| 14.6 | 379 | 練習会場一覧                          |

## 15. 選手村・宿泊

|       |     |                     |
|-------|-----|---------------------|
| 15.1  | 383 | 選手村概要               |
| 15.2  | 384 | 選手村（本村）における飲食提供     |
| 15.3  | 390 | フィットネスセンターにおける新たな取組 |
| 15.4  | 392 | 選手村（分村）概要           |
| 15.5  | 393 | 選手村におけるコロナ対策（概要）    |
| 15.6  | 394 | 選手村運営に当たったコロナ対策     |
| 15.7  | 396 | 選手村スケジュール           |
| 15.8  | 397 | 選手村滞在期間の方針          |
| 15.9  | 398 | 大会中に生じた課題と対応        |
| 15.10 | 399 | 選手村運営の総括            |
| 15.11 | 400 | 選手の声                |
| 15.12 | 402 | 大会関係者宿泊の概要          |
| 15.13 | 406 | 宿泊関係者の協力について        |

## 16. 出入国・空港対応

|      |     |                   |
|------|-----|-------------------|
| 16.1 | 408 | 大会関係者の入国調整        |
| 16.2 | 409 | 空港対応の概要           |
| 16.3 | 410 | 円滑な入国を支えたオペレーション  |
| 16.4 | 411 | 入国前陰性証明について       |
| 16.5 | 412 | 出国前検査・陰性証明書発行について |

TOKYO 2020

# INDEX

## 17. 輸送

|       |     |                 |
|-------|-----|-----------------|
| 17.1  | 415 | 輸送オペレーションの概要    |
| 17.2  | 416 | 輸送の体制           |
| 17.3  | 417 | 関係者輸送ルート        |
| 17.4  | 418 | 車両基地（デポ）        |
| 17.5  | 419 | 輸送サービス（バス・フリート） |
| 17.6  | 421 | 交通マネジメント        |
| 17.7  | 425 | 輸送にあたってのコロナ対策   |
| 17.8  | 427 | 地方会場における輸送の取組   |
| 17.9  | 428 | ロジスティクスオペレーション  |
| 17.10 | 430 | 輸送総括            |

## 18. 警備

|      |     |                 |
|------|-----|-----------------|
| 18.1 | 433 | 警備・セキュリティ対策（概要） |
| 18.2 | 434 | 警備 実績概要         |
| 18.3 | 435 | GSCCの運営         |
| 18.4 | 436 | 大会中に生じた課題と対応    |

## 19. テクノロジー・サイバーセキュリティ

|      |     |                       |
|------|-----|-----------------------|
| 19.1 | 439 | テクノロジー・サイバーセキュリティ総括   |
| 19.2 | 440 | 大会中に発生した課題と対応         |
| 19.3 | 441 | 大会期間中に取組まれたインシデントの統計値 |
| 19.4 | 442 | 競技運営に関わるテクノロジー        |
| 19.5 | 443 | 大会運営に関わる情報システム        |
| 19.6 | 447 | 大会を支えるインフラ・機器         |
| 19.7 | 449 | サイバーセキュリティの対応         |

## 20. 技術力の発信・イノベーションへの取組

|      |     |                           |
|------|-----|---------------------------|
| 20.1 | 452 | 技術力の発信（概要）                |
| 20.2 | 453 | 東京2020大会でのイノベーションへの取組の考え方 |
| 20.3 | 454 | 先端技術の活用＜警備＞               |
| 20.4 | 455 | 先端技術の活用＜SPP＞              |
| 20.5 | 460 | イノベーション施策の概要（既述分以外）       |

## 21. ボランティア・スタッフ・外部組織の協力

|      |     |                    |
|------|-----|--------------------|
| 21.1 | 466 | 大会ボランティアの募集・マッチング  |
| 21.2 | 469 | スタッフ・ボランティア向け事前研修  |
| 21.3 | 470 | 大会ボランティア数          |
| 21.4 | 471 | ボランティアの活躍          |
| 21.5 | 473 | 大会ボランティアへの称賛の声     |
| 21.6 | 475 | 大会スタッフ向け暑さ対策       |
| 21.7 | 476 | スタッフ・ボランティア向けコロナ対策 |

|       |     |                           |
|-------|-----|---------------------------|
| 21.8  | 477 | 大会中に生じた課題と対応【ボランティア・職員体制】 |
| 21.9  | 479 | 大会ボランティアのアンケート結果          |
| 21.10 | 481 | 都市ボランティア                  |
| 21.11 | 482 | 関係自治体との連携                 |
| 21.12 | 485 | ホストタウンにおける取組について          |
| 21.13 | 491 | 国内競技団体協議会（NF協議会）について      |
| 21.14 | 493 | 防衛省・自衛隊の協力について            |

## 22. 大会パートナー等

|      |     |                            |
|------|-----|----------------------------|
| 22.1 | 497 | 天皇陛下と秋篠宮皇親殿下の開閉会式への御臨席等    |
| 22.2 | 498 | 大会来賓（海外）について               |
| 22.3 | 499 | オリンピック／パラリンピックファミリー及び要人の対応 |

## 23. 大会パートナー等

|      |     |                         |
|------|-----|-------------------------|
| 23.1 | 503 | パートナー一覧（オリンピック／パラリンピック） |
| 23.2 | 505 | パートナーサポートによる主な事業        |
| 23.3 | 509 | パートナーアンケート              |
| 23.4 | 512 | オフィシャルコントリビューター         |

## 24. 開閉会式

|      |     |      |
|------|-----|------|
| 24.1 | 514 | 開閉会式 |
|------|-----|------|

## 25. 聖火リレー

|      |     |          |
|------|-----|----------|
| 25.1 | 529 | 聖火リレーの概要 |
|------|-----|----------|

## 26. 平和

|      |     |                    |
|------|-----|--------------------|
| 26.1 | 539 | 休戦決議・ムラール          |
| 26.2 | 540 | 難民選手団              |
| 26.3 | 541 | パラリンピック アフガニスタンの選手 |

## 27. 復興

|       |     |                            |
|-------|-----|----------------------------|
| 27.1  | 543 | 復興の取組概要                    |
| 27.2  | 544 | 東日本大震災の被災3県における聖火リレーの実施    |
| 27.3  | 545 | 福島あづま球場                    |
| 27.4  | 546 | 宮城スタジアム                    |
| 27.5  | 547 | ビクトリーブーケ                   |
| 27.6  | 549 | 選手村等での被災地の食材の提供            |
| 27.7  | 550 | 大会期間中の国内外メディアへの復興オリパラの情報発信 |
| 27.8  | 552 | 復興ブース関連の報道一覧               |
| 27.9  | 553 | 被災地復興支援連絡協議会の開催状況          |
| 27.10 | 554 | 各種プログラムによる東北復興の取組          |
| 27.11 | 555 | 関連報道                       |

TOKYO 2020



# INDEX

| 28. パラリンピック |     |                                 |
|-------------|-----|---------------------------------|
| 28.1        | 557 | パラリンピックの価値・共生社会の実現              |
| 28.2        | 558 | パラリンピックへの環境整備に向けた課題提起と最終確認      |
| 28.3        | 561 | クラス分け                           |
| 28.4        | 562 | 観客（学校観戦・大会関係者含む）向けの情報保障         |
| 28.5        | 564 | コロナ対策に関わるIPCとの連絡調整              |
| 28.6        | 565 | アクセシビリティに配慮した輸送サービス             |
| 28.7        | 566 | パラリンピック大会時の車両タイプ・リフト付きバス乗降用スロープ |

|              |     |                             |
|--------------|-----|-----------------------------|
| 29. 共生社会・D&I |     |                             |
| 29.1         | 569 | 共生社会の実現に向けた取組について           |
| 29.2         | 571 | D&Iの浸透                      |
| 29.3         | 572 | ウェアアクセシビリティの向上              |
| 29.4         | 573 | ジャパンワークガイドによるアクセシブルルート情報の提供 |
| 29.5         | 574 | アクセシビリティ・ガイドラインの策定          |
| 29.6         | 575 | ジェンダー平等                     |
| 29.7         | 577 | （参考）オリンピックにおける女子選手参加割合（夏季）  |

|           |     |                          |
|-----------|-----|--------------------------|
| 30. 持続可能性 |     |                          |
| 30.1      | 579 | 大会の持続可能性の概要              |
| 30.2      | 580 | 持続可能な社会の実現に向けた取組         |
| 30.3      | 581 | 都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト  |
| 30.4      | 582 | プラスチックを再生利用した表彰台         |
| 30.5      | 583 | 日本の木材活用リレー               |
| 30.6      | 584 | 東京2020聖火リレーにおける持続可能性への配慮 |
| 30.7      | 585 | 調達物品・廃棄物の材料等へのリサイクル      |
| 30.8      | 586 | 水素関連事業                   |
| 30.9      | 587 | カーボンマイナス大会               |
| 30.10     | 588 | 持続可能性に配慮した調達コード          |
| 30.11     | 589 | 大会中に生じた課題と対応             |

|       |                              |                  |
|-------|------------------------------|------------------|
| 31.   | エンゲージメントと参画、オリンピック・パラリンピック教育 |                  |
| 31.1  | 591                          | アクション&レガシー       |
| 31.2  | 593                          | 東京2020参画プログラム    |
| 31.3  | 597                          | ライブサイト事業         |
| 31.4  | 598                          | 若者の参画について        |
| 31.5  | 599                          | エンブレム選定          |
| 31.6  | 600                          | マスコット投票          |
| 31.7  | 604                          | 東京2020公式ライセンス商品  |
| 31.8  | 605                          | オフィシャルショップ       |
| 31.9  | 606                          | オリンピック・パラリンピック教育 |
| 31.10 | 608                          | フワラーレーンプロジェクト    |
| 31.11 | 609                          | 教育関係資産の継承        |

|             |     |                             |
|-------------|-----|-----------------------------|
| 32. 日本文化の発信 |     |                             |
| 32.1        | 611 | 第138次IOC総会冒頭行事、表彰状、選手団記念品 等 |
| 32.2        | 612 | 日本文化コーナー、東京2020大会記念品プロジェクト  |
| 32.3        | 613 | 東京2020公式ライセンス商品             |
| 32.4        | 614 | アイヌと沖縄に関する取組                |
| 32.5        | 615 | 東京2020 NIPPONフェスティバル        |
| 32.6        | 617 | 日本の食文化の発信                   |
| 32.7        | 618 | 日本人の姓名をローマ字表記する際の順序について     |

|       |        |                      |
|-------|--------|----------------------|
| 33.   | 準備・継承等 |                      |
| 33.1  | 620    | 大会準備におけるガバナンス体制（国内側） |
| 33.2  | 621    | 組織体制の推移              |
| 33.3  | 622    | 組織委員会内のガバナンス（特徴）     |
| 33.4  | 623    | 大会準備のガバナンス（経緯・進捗管理）  |
| 33.5  | 625    | 適正な調達の実施             |
| 33.6  | 628    | 共同実施事業の仕組みと運営        |
| 33.7  | 629    | 大会使用財産の有効活用          |
| 33.8  | 630    | 効率化・簡素化について          |
| 33.9  | 635    | 生涯予算                 |
| 33.10 | 637    | 大会経費の見直し             |
| 33.11 | 640    | 大会資産の継承              |
| 33.12 | 643    | 2020大会文書の適切な保管・継承    |
| 33.13 | 644    | 関連法令の改正について          |

|                |     |                     |
|----------------|-----|---------------------|
| 34. 各団体からのコメント |     |                     |
| 34.1           | 647 | IOC・IPC等からの主なコメント   |
| 34.2           | 648 | 国内競技団体（NF）からの主なコメント |
| 34.3           | 650 | 国際スポーツ団体からの主なコメント   |
| 34.4           | 658 | 各国選手団等からのコメント       |
| 34.5           | 662 | 東京大会に対する評価（選手・海外一般） |

## TOKYO 2020

## 振り返り（要約）

- 【総括－1】
  - ✓ 東京2020大会は、新型コロナという人類が経験したことのない困難の中、大会の一年延期、原則として無観客となるなど、前例のない大会となったが、専門的な知見に基づく所要の対策を関係機関と連携し徹底して講じ、安全・安心に運営を行うことができた。
  - ✓ 大会前は、コロナ感染の状況が見通せない中、厳しい意見もあったが、大会が開催されると、クラスター等を生じさせなかった運営に対しては世界のアスリートや大会関係者から、東京・日本だからこそ開催できたとの高い評価を受け、また、オリンピック・パラリンピックのアスリートの躍動する姿を見た国内、そして世界の人々からは、困難を乗り越え、大会を行ってよかったとの評価を得た。
  - ✓ 安全・安心を確保するため延期・無観客という形になったが、四年に一度、世界中のアスリートが一堂に集うという、世界各国が代々継いできたこの大会を、コロナ禍であっても東京で絶やすことなく、開催し引き継ぐという責務を果たすことが出来た。
  - ✓ 従来の慣例に囚われず、変えるべきは変えて柔軟に運営したからこそ、オリンピック・パラリンピックの変わらぬ価値を引き継ぐことが出来、大会にとって真に必要なものは何かを見出し、大会の新たな姿も示すことができた。厳しい条件下、準備作業は困難を伴うものもあり、賛否が分かれることもあった。こうした成果・学びを整理し、東京2020モデルとして、今後のスポーツイベントに継承していきたい。
- 【大会ビジョンなど－1】
  - ✓ 大会ビジョンは、「スポーツには世界と未来を変える力がある。全員が自己ベスト、多様性と調和、未来への継承」。
  - ✓ 大会モットーは、「United by Emotion」。
  - ✓ 大会エンブレムは、14,000件を超える一般公募から選ばれた組市松紋。
  - ✓ 大会マスコットは、全国の小学校の8割、500万人の小学生在が決めたミライツとソメイティ。
- 【競技－2】
  - ✓ オリンピックは33競技、205ヶ国・地域と難民選手団、11,417人の選手が参加。
  - ✓ パラリンピックは22競技、163ヶ国・地域と難民選手団、4,403人（過去最多）の選手が参加。
  - ✓ 「都市」「若者」「女性の参画」をキーワードに新競技・種目が導入され、今後のオリンピック・パラリンピックの新たな潮流を開いた。
- 【延期・無観客－3】
  - ✓ 史上初の延期。新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、2020年3月末に1年延期を決定。4月に延期後の運営体制を構築、5月に3つのフェーズ（骨格）を7月まで。簡素化を9月まで。コロナ対策を9月以降）で進めることについて関係者で合意。
  - ✓ 観客については、2020年12月のコロナ対策調整会議の中間とりまとめで「来春まで」に決定とし、翌3月に海外観客について受け入れ断念。
  - ✓ 国内観客については、国内のスポーツイベント等における上限規制に準じた対応を基本としつつ、専門家を交えた検討を行い、6月に人流を抑制する適切な措置を講じた上で、国内ルールに沿い、一定の観客を入れるという方針を五者で決定。7月に入り、緊急事態宣言が再度発出される事態となり、安全安心を確保する観点から、原則無観客という方針とした（一部の会場で、一般観戦、学校観戦が行われた）。
  - ✓ 大会期間中は人流が抑制され、オリ・パラを契機とした感染拡大は認められなかった。そして、9月から12月にかけて国内の感染は大きく減少した。
- 【メディア等での取り上げ、国内・世界の評価－4】
  - ✓ オリ開会式の平均視聴率は56.4%、開会式は46.7%。20%を超えた競技も多く、全体として高い視聴率を記録。
  - ✓ 大会前の世論調査では2021年の大会開催に否定的な意見が多数派。大会終了後は、約6割から8割の方が「よかった」と評価。
  - ✓ 大会の意義については、機会をとらえて説明し、コロナ延期後もメディアで説明を重ねたが、実際の大会を目にする前の言葉・文字による説明のみでは十分行き渡らない面もあった。
  - ✓ 他方、こうした傾向は大会が開始され、実際のアスリートの競技を目にするると変化。新聞の社説等でも、大会前と比べ、大会開始以降は開催意義をポジティブに論じる傾向が増え、特にパラリンピック後その傾向が顕著になった。
- 【大会参加者数など－5】
  - ✓ 海外からの大会参加者は、オリ3.3万人、パラ1.0万人。従来の4分の1以下の水準。
- 【観客・チケット－6】
  - ✓ 大会延期前時点ではオリ・パラ併せて約865万枚が販売。最終的には観客が入ったのは85セッションで約59,000人（うち学校観戦約20,400人）。
- 【大会デザイン－7】
  - ✓ ビクトグラムは1964年の東京オリンピックで生まれたものであり、今大会ではそれを継承・進化させ、開会式でも話題になった。大会ルックは、エンブレムを基に日本の伝統色で制作され、競技・非競技施設、ユニフォーム、チケット、商品、ショップ、メダル等を彩った。
- 【大会運営全般、競技・会場運営－8、9】
  - ✓ 大会時の情報共有と事案調整のハブとなるMOC（メイン・オペレーション・センター）は、2019年2月の大会準備の最終段階に大会を見据え活動を開始。延期後はその対応のハブともなった。大会時には、入国サポート、スクリーニング検査、ブレイブの違反者対応、濃厚接触者対応、輸送、暑さや悪天候対応、帰国サポート等に組織横断的に取り組んだ。
  - ✓ オリ42会場、パラ21会場の競技会場運営について全体として大きな問題は生じなかった。
- 【新型コロナウイルス感染症対策－10】
  - ✓ 徹底した水際対策と、国内では大会関係者とその他の交わりを極力避けるバブル方式を参考にした感染防止対策を実施。
  - ✓ 大会関係者のワクチン接種（概ね8割が接種）、出国前96時間以内に2回（1回は72時間以内）の検査、空港検疫での検査と合わせて入国前に検査3回を義務化、徹底した検査（選手は毎日）、来日後14日間の行動管理の徹底、陽性者の迅速な隔離等。
  - ✓ 対策は206か国の選手等に対する統一ルールとして、「ブレイブック」として整理。2月、4月、6月と対話を、公表等透明性を確保しつつ、仕上げていった。北京大会でも採用されるなど、東京大会のレガシーの一つ。
  - ✓ 専門家からも、大会の直接の影響により感染拡大したことはない旨の評価を得、安全な大会を遂行できた。

# 振り返り（要約）

- ✓ また、間接的影響・心理的影響を含め、大会の開催が感染拡大の原因になるのではないかと指摘があったが、実効再生産数は大会前の7月22日をピークに大会後まで一貫して低下しており、実態としては大会開始前から増加スピードにプレーキが効き始めていた。
- ✓ 海外大会関係者の入院数はピーク時2名、全体で6名であり、地域への影響は最小限度にとどめることが出来たと考えられる。

## 【医療サービス、アンチ・ドーピング—11、12】

- ✓ 医療サービスについては、新型コロナウイルス感染症の厳しい状況下で、できる限り地域の医療に負担をかけないことが重要であったところ、2021年5月には、医療体制の徹底した見直しを行った。その上で、全ての会場で医療サービス提供を実現することができ、全体として概ね順調に医療体制を運営、アスリート等の安全・安心な状況を維持できた。
- ✓ 選手村医療においては、コロナに対応した発熱外来の設置、多様な来所者を想定したバリアフリー対応、スポーツ医療に対応した医療機器の導入、女性アスリートの総合的なサポートを行う「女性アスリート科」の設置などの新しい取組を行った。
- ✓ アンチ・ドーピングについても計画どおり、24時間体制で適正に実施された。

## 【暑さ対策—13】

- ✓ 暑さ対策としては、競技開始時間の変更、アスリートや関係者向けの対応、熱中症に対応した情報発信の強化等を行った。
- ✓ 一定の熱中症患者は発生したが、対策実施により重症者は少なく抑えられた。コロナ感染は収束すれば対策は不要となるが、暑さ対策は今後の大会でも必要と見込まれる。

## 【会場—14】

- ✓ 43の競技会場、IBC／MPC、選手村、練習会場等、期限内にすべて完成。現場の安全確保、施設の維持管理も含め、延期へも適切に対応。

## 【選手村・宿泊—15】

- ✓ 選手村は、開村までに必要な準備が整えられ、スムーズに選手団を迎え入れることができた。プライベートスペース以外での飲酒、村内巡回バスの接触事故など幾つか課題も発生したが、各国選手団長からは大きな要望が出なかったことや、選手のSNSやIOCのアンケートなどで選手村に対し前向きな評価を得た。
- ✓ 選手以外の大会関係者への宿泊に関しては、約400の宿泊施設において1日当たり最大40,000室を確保。大会延期により約1,000のステークホルダーに対して改めて配宿。大会直前にはコロナ対策として宿泊施設の集約化も必要となり、対応を実施。

## 【出入国・空港対応—16】

- ✓ 水際対策のため、入国後14日間の宿泊場所・用務先等を記載した「本邦活動計画書」を政府に提出し、承認された者のみ一定の隔離期間の下に特別の入国が認められた。入国手続きとして初めての措置であり、途中若干の混乱も見られたが、総じてスムーズな入国となった。空港検疫において陽性者、濃厚接触候補者とされた者に対しても、関係機関と連携し丁寧な対応を行った。

# 振り返り（要約）

## 【開・開会式—24】

- ✓ 準備段階におけるジェンダー、障がい者、人種・民族等に関するスタッフによる過去の言動に関し、辞任等の混乱が生じたが、開・開会式本番では、オリンピックでは伝統と革新、パラリンピックでは多様性などの強いメッセージを発信。

## 【聖火リレー—25】

- ✓ オリンピックについては、通常より期間が長い121日間で実施。延期後は安全最優先の観点から、公道で実施できない場合、会場内で聖火をつなぐ「点火セレモニー」などの代替措置を実施。予定していた都道府県全てで聖火をつなぐことができた。
- ✓ パラリンピックについては13日間で実施。全国47都道府県で集火された聖火と、パラリンピック発祥地（ストークマンデビル）で採火された火が集火式で一つとなった。

## 【平和—26】

- ✓ オリンピック休戦決議については、186ヶ国の賛同を得て提案され、全会一致で採択。また、難民選手団の参加、大会期間中に政情不安定となったアフガニスタンの選手がパラリンピックに参加するなど、平和の祭典としての意義を示した。

## 【復興—27】

- ✓ 復興はオリンピック・パラリンピックの招致段階からの源流であった。その理念が十分反映されていないとの声も地元であったが、聖火リレーのグランドスタートを福島県のJビレッジで行う、福島あづま球場で野球・ソフトボールを行うなど、東日本大震災の被災地の復興を後押しし、被災地が復興を遂げつつある姿を世界に発信。

## 【パラリンピック—28】

- ✓ 夏季としては史上初の2回目のオリ・パラ同時開催。競技会場周辺のバリアフリー化などの「ユニバーサルデザインの街づくり」、学習指導要領の改正等による「心のバリアフリー」など、共生社会の実現に向けた取組を進めた。大会においても、オリンピックをベースに、移行期間にパラリンピックに合わせた調整を行い、細やかかつスムーズな運営。今後ともオリ競技とパラ競技の協同が有効。

## 【D&I—29】

- ✓ 東京大会は史上最高の女子選手の参加割合となった。また、開会式の入場行進における男女共同旗手、過去最多の男女混合種目の実施、性的ハラスメント目的の撮影等を禁止行為に明記する等の取組を通じ、男女平等の推進に取り組んだ。
- ✓ 大会を間近に控えた時期のジェンダーを巡る議論や言動は、「多様性と調和」の大会ビジョンを掲げる大会において、改めて男女平等や多様性の社会的課題としての重要性を再認識する契機となり、「東京2020D&Iアクション」に繋がった。

## 【持続可能性—30】

- ✓ 大会準備段階から重要な柱であった。このため、カーボンマイナス大会の実現、参加型の取組による資源循環の推進（金銀銅のメダルを都市鉱山から制作するメダル・プロジェクト、選手村ビレッジプラザでの「日本の木材活用リレー」、使用済みプラスチックで製造した表彰台など）、水素エネルギーの活用を実施した。大規模な大会故、弁当の廃棄等いくつか課題も出たが、可能な限り迅速に対応。

## 【輸送—17】

- ✓ 大会輸送と都市活動の両立を図るため、道路・交通管理者、交通事業者等と連携した体制を構築し、大規模な交通マネジメントを実施。道路交通では、TDM、首都高速道路の料金施策、TSMを展開し、安全で円滑な輸送を実現。
- ✓ 複雑な大会輸送オペレーションはIT化で対応。輸送サービスの開始当初は一部混乱が生じたが、大会中盤から終盤に向けてオペレーションは安定。

## 【大会警備—18】

- ✓ 大会警備は、警備員、自衛隊の協力を得て、自主警備を中心に実施。加えて、警察・消防・海上保安庁からも最大の人員装備が投入され、大会関係者及び観客の安全・安心を確保。

## 【テクノロジー・サイバーセキュリティ—19】

- ✓ テクノロジーについても、幾つかの事案は生じたが、いずれも迅速な対応解決・対応を行い、総じて安定運用を実現。

## 【技術力・イノベーションの発信—20】

- ✓ コロナ禍の下での観戦支援として、競技を終えた選手と家族や友人をリアルタイムでモニターで繋ぐ取組（アスリート・モーメント）。また、臨場体験、5G、ARプロジェクションマッピング等、全世界に新しい視聴体験を提供。リモートでの新たなスポーツの楽しみ方を提示。

## 【ボランティア、関係団体の協力—21】

- ✓ 大会延期後にあっても、国内外から約7万人が参加。「大会の顔」として選手や関係者、国内外のメディアのサポートや運営に献身的に貢献。この活動に対しては、一様に称賛する声が寄せられている。大会後に行ったボランティア向けのアンケートでは83%の方が「今後もスポーツ・ボランティア活動を継続したい」と回答。
- ✓ 東京大会は多くの競技が開催都市以外で行われた。関係自治体31団体は、大会競技の準備・運営への協力に加え、機運醸成イベント、都市装飾・スペキュラクターの設置、シティキャストの募集・運営、コロナ禍の下での安全・安心な大会の実現に尽力。

## 【国内外要人—22】

- ✓ 天皇陛下におかれては、大会の名譽総裁にご就任いただき、オリ・パラの開会式で開会をご宣言。皇嗣殿下は、オリ・パラの開会式で、陛下の御名代としてご臨席。国際要人については、将来の組織委員会の開催国から、大統領、大統領夫人、国家体育总局長等に来賓をいただいた他、様々な国・地域や国際機関からも来賓が来日。

## 【パートナー等—23】

- ✓ パートナーについては、その協賛金がオリ・パラ史上最大となるなど、全82社に物心両面で多大な貢献をいただいた。大会後にはパートナーアンケートを実施し、評価できる点、課題・改善点として挙げられる点を整理いただいた。

## 【エンゲージメントと参画、オリ・パラ教育—31】

- ✓ 参画と対話も組織委員会の大会準備段階からの重要な柱であった。このため、東京2020参画プログラムを策定し、16万件を超えるアクションを認証し、延べ1億7千万人が参加。
- ✓ 子供の大会参加の機会をできる限り創出するかたちで、オリ・パラ教育も推進、全国の約8割の小中学生が参加したマスコット投票、大会時の各会場エリアを彩ったフラワーレーンプロジェクトの他、130万人の参加を計画した学校連携模範等。

## 【日本文化の発信—32】

- ✓ 選手入賞者の表彰状を和紙で製作したり、全国47都道府県の伝統工芸品をライセンス化したりする取組を通じ、世界に日本の伝統工芸の良さを発信。また、開・開会式の演出や札幌のマラソン・競歩のスタート地点での演出として、アイヌや沖縄の伝統舞踊を披露。

## 【準備・継承—33】

- ✓ 組織委として、ガバナンスやコンプライアンスの強化に取り組み、調達についても公平・公正・透明性の確保のため、各種の取組を実施。また、会場見直し、アジェンダ2020やニューノーム、各段階の予算策定等により、効率化と簡素化を実現してきた。
- ✓ 大会後も、大会資産の継承、大会文書の適切な保管と継承等に取り組んでいく。

## 【東京2020モデル】

- ✓ 今後の日本国内、世界でのスポーツイベントに向け、東京大会で得られた成果・学びを「東京2020モデル」として、内外に積極的に継承。
- ✓ 安全・安心（全てのアスリートがベストの力を出せるように）：アスリートや大会関係者の安全安心は大会の根幹。仮にコロナ禍が収まったとしても、暑さ対策を含め、東京大会の安全安心な大会運営のノウハウは、北京大会で踏襲され、今後のモデルとなろう。
- ✓ 新たなスポーツ（若い世代の力が発揮できるように）：長野大会で採用されたスノーボードは冬の主軸の一つ。東京大会での都市型競技はロス大会で正式採用。リモートでの楽しみ方は今後更に発展が見込まれる。今後とも将来を見据えた変革が求められる。
- ✓ 多様性、持続可能性、参画。オリとパラの協同（互いを認め合う）：コロナ禍という困難を乗り越えた東京大会は様々な障壁を乗り越える共生社会の象徴。メダル・プロジェクトのように持続可能性と参画を結びつける取組はSDGsの根幹であり、今後の大会のモデルとなろう。また、オリ・パラがそれぞれの強みを活かしながら、協同を促進。
- ✓ 簡素化・効率化、透明性（今後の大会に選択肢を提示）：東京大会はコロナ禍もあり、これまで拡大の一途だった大会を見直し、スポーツ大会の原点に回帰したシンプルな大会となった。また、対話と参画、透明性を重視して大会準備・運営を行った。その取組は今後の大会の在り方の選択肢となる。
- ✓ 1964から2020へ（未来への継承と柔軟性）：2020大会の姿は1964年とも最近の大会とも異なるが、柔軟に変えたからこそ、変わらぬスポーツの価値を絶やさず引き継ぐことができた。時代や社会の要請に即した大会としていくことが重要。

## 東京2020モデル ～今後のスポーツイベントの新たなモデルとして～

- 東京大会は、コロナ禍という困難の中、延期・無観客という決断を経て、関係者の尽力があって開催することができた大会。
- 苦難を乗り越えて開催された大会の意義としては、以下のように区分できる。
  - ① スポーツを通じた平和・友情・連帯など、**そもそものオリンピック・パラリンピックの意義**。
  - ② 招致以来目指してきた、時代に即応した**新たな意義**。
  - ③ 加えて、**コロナという困難を乗り越えることで、改めて見えた意義と新たな姿**。
- このうち、東京大会として新たに打ち立てた具体的な意義（主に上記②と③）は下記の通り。
  - ・ **コロナ対策と暑さ対策**。クラスターは発生せず、また感染拡大は起こらず。専門的知見の活用、ステークホルダーとの丁寧な対話、透明性。アウトプットとしてのプレイブック。
  - ・ 若者にアピールする**都市型のスポーツを導入**。オンサイトだけでなく、**リモートでの観戦**の在り方を提供。SNS等の一層の活用。
  - ・ ジェンダーイクオリティ等、**D&Iの促進**。パラリンピックも社会に大きなインパクトを与えた。メダルプロジェクトは**持続可能性と参画**、マスコットは子供の参画。**関係自治体との協働**。
  - ・ 延期前から既存会場の活用、アジェンダ2020、ニューノーム等で**効率化**を推進。また、準備段階の様々な重要事項につき、第三者を交えた委員会方式や一般からの公募を採用。延期後は大会参加関係者の縮減、サイドイベントの縮減等の**簡素化**を行い、スポーツに特化。
  - ・ 基本理念は1964と共通。他方、2020は**価値観も多様化**し、またコロナ禍という人類共通の困難な状況の開催という**新たな状況の下での開催**。

## 東京2020モデル ～今後のスポーツイベントの新たなモデルとして～

今後の日本国内、世界でのスポーツイベントに向け、東京大会で得られた成果・学びを下記の通り「**東京2020モデル**」として、内外に積極的に継承していきたい。

### ◆安全・安心：全てのアスリートがベストの力を出せるように

アスリートや大会関係者の安全安心は大会の根幹。仮にコロナ禍が収まったとしても、暑さ対策を含め、東京大会の安全安心な大会運営のノウハウは、北京大会で踏襲され、今後のモデルとなろう。

### ◆新たなスポーツ：若い世代の力が発揮できるように

長野大会で採用されたスノーボードは冬の主軸の一つ。東京大会での都市型競技はロス大会で正式採用。リモートでの楽しみ方は今後更に発展が見込まれる。今後も将来を見据えた変革が求められる。

### ◆多様性、持続可能性、参画。オリンピックとパラリンピックの協同。：互いを認め合う

コロナ禍という困難を乗り越えた東京大会は様々な障壁を乗り越える共生社会の象徴。メダルプロジェクトのように持続可能性と参画を結びつける取組はSDGsの根幹であり、今後の大会のモデルとなろう。また、オリンピック・パラリンピックがそれぞれの強みを活かしながら、協同を促進。

### ◆簡素化・効率化、透明性：今後の大会に選択肢を提示

東京大会はコロナ禍もあり、これまで拡大の一途だった大会を見直し、スポーツ大会の原点に回帰したシンプルな大会となった。また、対話と参画、透明性を重視して大会準備・運営を行った。その取組は今後の大会の在り方の選択肢となる。

### ◆1964から2020へ：未来への継承と柔軟性

延期・無観客を含め2020大会の姿は1964年とも最近の大会とも異なるが、柔軟に変えたからこそ、変わらぬスポーツの価値を絶やさず引き継いだ。時代や社会の要請に即した大会とすることが重要。



スポーツには  
世界と未来を変える力がある。

1964年の東京大会は日本を大きく変えた。2020年の東京大会は、  
「すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）」、  
「一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）」、  
「そして、未来につなげよう（未来への継承）」  
を3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベーティブで、  
世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

## 大会開催を振り返っての総括評価

### ○参加選手の評価（IOC調べ）

- ・選手村：80%が非常に良い又は良いとの評価
- ・競技会場・練習会場：79%が良いとの評価
- ・東京大会のコロナ対策：89%が事前に十分な説明があったとの評価
- ・選手村におけるコロナ対策：82%が良いとの評価

[Source: Sport & Entertainment; Tokyo 2020 Athletes & Entourage Research; Jul-Sep 2021]

### ○世界の評価（IOCが世界17の地域で調査）

- ・65%が東京大会は成功裏に終わったとの評価
- ・59%が東京大会はコロナ禍のトンネルに希望の光となったとの評価
- ・60%が東京大会は良いレガシーを残すだろうという評価

[Source: : Publicis Sport & Entertainment; Tokyo 2020 Post-Games Surveys; August 2021]

### ○世界のメディアの報道

- ・「五輪を開催するには最適の場所だったし、日本がとても良くやっていて嬉しい。日本はとても素晴らしい仕事をした」（NBC放送（8月2日）、ケネディ元駐日大使インタビュー）
- ・「この街の人々は非常に寛大で忍耐強い。この東京の人たちの配慮と親切は、この過酷な時代に必要なものを示す教訓だ」（ガーディアン紙（8月6日）電子版）
- ・「実際に始まってみると、期待を裏切らなかった。固定観念を覆すような記録破りのパフォーマンスが繰り広げられ、色鮮やかな別れを告げた」（AFP通信（9月6日））
- ・「到着前は想像できなかったが、毎日体温を測ったり証明書を用意したりして、東京にいる間ずっと守られていて安全だと感じていた」（BBC（9月6日））

○日本の世論調査では、大会後、約6割から8割の方が「よかった」と評価。（朝日新聞、読売新聞、共同通信、NHK）

# オリンピック アーチェリー

|                                                                                  |      |              |           |           |           |           |           |           |           |           |          |          |          |          |          |          |          |          |
|----------------------------------------------------------------------------------|------|--------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
|  | 競技日程 | 23日<br>7月    | 24日<br>7月 | 25日<br>7月 | 26日<br>7月 | 27日<br>7月 | 28日<br>7月 | 29日<br>7月 | 30日<br>7月 | 31日<br>7月 | 1日<br>8月 | 2日<br>8月 | 3日<br>8月 | 4日<br>8月 | 5日<br>8月 | 6日<br>8月 | 7日<br>8月 | 8日<br>8月 |
|                                                                                  | 会場   | 夢の島公園アーチェリー場 |           |           |           |           |           |           |           |           |          |          |          |          |          |          |          |          |

## 東京2020大会における競技概要

- 都立夢の島公園内に競技会場を新設。決勝会場は仮設であるが、予選会場は恒設施設として、大会や体験教室に利用される予定。
- 51か国・地域から128名の選手が参加し5種目を実施。
- 男女1人ずつがペアになって競う、新種目の混合団体を東京2020大会にて初めて導入。

🏆 メダル決定日 ○ 競技日

## 競技運営の状況

- 台風の接近に伴い、7月27日の競技時間の一部変更や翌日以降への延期を行った。
- コロナ対策として、従来はランキングラウンドにおいて2人で1的を使用し、的から引き抜き点数を確認する作業も協働で行っていたところ、1人1的とすることで接触機会を低減した。
- 日本が男子団体と男子個人で銅メダルを獲得。特に、男子団体は日本ではこの種目初めてのメダル獲得となった。



# スポーツの価値

- 世界各国から、国籍、性別、性的指向等を超え集ったアスリートにより、コロナを含めた困難を乗り越える力、競い合い、称え合い、スポーツマンシップ等のスポーツの持つ価値を具現化。
- こうしたスポーツの価値・大会の意義については、機会を捉えて説明し、コロナ延期後もメディアで説明を重ねてきたが、実際の大会を目にする前の言葉・文字による説明のみでは十分行き渡らなかった面もあった。
- 他方、こうした傾向は大会が開始され、実際のアスリートの競技を目にすると変化し、新聞の社説でも、大会前と比べ、大会の開始以降は開催意義をポジティブに論じる傾向が増え、特にパラリンピック後はその傾向が顕著になった。「大会を開催してよかった」との世論調査の結果（オリンピック6割、パラリンピック7割）が報じられた。
- こうした評価を基に、今後、スポーツの意義を再認識し、スポーツをする、見る、支える機会の拡大・深化させていく必要。
- また、オリンピックの意義、パラリンピックの意義、それぞれあるが、東京大会は双方を一体とすることで、より強いメッセージの伝達、効率的な運営を達成できたと考える。引き続き、両者が一体となって、スポーツの振興、社会へのインパクトを促進していけないか。

# 新競技・新種目

## ◆ 新競技

| 大会      | 追加競技                                                          |
|---------|---------------------------------------------------------------|
| オリンピック  | 東京2020提案の5競技（野球・ソフトボール、空手、スケートボード、スポーツクライミング、サーフィン）を追加競技として実施 |
| パラリンピック | 東京大会から新たに採用されたバドミントンおよびテコンドーを実施                               |

## ◆ 新種目

| オリンピック競技                                                       | 内容                                                 |
|----------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| バスケットボール、自転車（BMX）                                              | 若者を重視した種目を追加<br>（3×3バスケットボール男子・女子、BMXフリースタイル男子・女子） |
| 水泳、アーチェリー、陸上競技、ボクシング、カヌー、自転車（トラック）、フェンシング、柔道、ボート、射撃、卓球、トライアスロン | ジェンダーバランスを考慮し、男女混合種目や女子種目等を追加                      |

- 新競技として開催側がイニシアチブをとり、「スポーツクライミング」「サーフィン」「スケートボード」などを追加。またこれに呼応し、国際競技団体側も新種目として「3×3バスケットボール」「BMXフリースタイル」を導入。都市とスポーツという新たなジャンルを切り開き、今後のオリンピック競技の新たな潮流となる可能性。一体感をもたらすスポーツプレゼンテーション。
- 新種目を中心に若い世代アスリートの活躍も際立った。
- スポーツ離れが進む若者への多様なスポーツの普及、大規模会場だけでなく、都市部におけるスポーツ競技イベントの新たな在り方・楽しみ方につなげていく。

14

TOKYO 2020

# 大会延期

## ◆ 大会延期に関する経緯

### 2020年 年明け 組織運営体制を大会運営体制へと移行

- 1月30日 WHOが、新型コロナウイルス感染症について「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態(PHEIC)」に該当すると発表。
- 3月11日 WHOが、新型コロナウイルス感染症について「パンデミック（世界的な大流行）」に至っているとの認識を公表。
- 3月12日 オリンピック聖火リレー聖火採火式（翌13日、ギリシャ国内の聖火リレーを中止）、3月20日 航空自衛隊松島基地到着
- 3月22日 組織委員会会長、IOC会長による電話会談
  - ー IOCは、組織委員会、日本国政府、東京都と議論を開始し、延期を含め4週間以内に結論を出すことを発表
- 3月24日 総理大臣、組織委員会会長、IOC会長、東京都知事らによる電話会談
  - ー 世界中のアスリートが最高のコンディションでプレーでき、観客の安心・安全を確保することが最も重要
  - ー 遅くとも2021年の夏までに東京オリンピック・パラリンピックを開催するということで合意
- 3月24日 国内の聖火リレーの延期を発表（26日開始予定）
- 3月26日 「新たな出発本部」の設置
- 3月30日 組織委員会会長、IOC会長、東京都知事、オリンピック・パラリンピック担当大臣で新日程合意
  - オリンピック：2021年7月23日から8月8日
  - パラリンピック：2021年8月24日から9月5日



航空自衛隊松島基地への聖火到着



延期を発表したIOCのニュースリリース



「新たな出発本部」発足

15

TOKYO 2020





## 無観客に関する検討経過

### 2020年12月2日 コロナ対策調整会議中間整理

—観客数の上限について、内外の感染状況や現在行っている観客数を引き上げた場合の実証の結果なども踏まえ、国内の上限規制に準拠することを基本として、最終的な決定は、来春までに行う方針

2021年1月7日 東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県を対象に緊急事態宣言が発出（2回目、当初の期限は2月7日）

2月2日 緊急事態宣言（2回目）を10都道府県で延長（当初の期限は3月7日）

2月3日～ プレイブックv1の公表

### 3月3日 五者協議（政府、東京都、組織委員会、IOC、IPC）

—海外観客の日本への受入れを3月中に判断することで合意

3月5日 7日までの緊急事態宣言（2回目）を21日まで延長

### 3月20日 五者協議

—海外観客の日本への受入れ断念。4月に国内観客の上限について方向性を決めていく方針を確認。

4月25日 緊急事態宣言（3回目、当初の期限は5月11日）

### 4月28日 五者協議

—国内観客の上限については、6月に国内のスポーツイベント等における上限規制に準拠することを基本に行うことに合意

4月28日～ プレイブックv2の公表

### 4月30日 専門家ラウンドテーブル（RT）（第1回）

### 5月28日 専門家RT（第2回）

・大会観戦による感染への影響：定量分析（東京大学） 他

### 6月11日 専門家RT（第3回）

・観客行動分析と対応

・国内での人流シミュレーション

・競技会場における対策の効果（東京大学、産業総合研究所） 他

## 無観客に関する検討経過

6月15日～ プレイブックv3の公表

### 6月18日 専門家RT（第4回）

・専門家有志による提言を尾身新型コロナウイルス感染症対策分科会会長から受領し、検討

・開会式リスクアセスメント評価（東京大学）

・大会関係者数、医療事業者数・観客ガイドライン等検討状況 他

### 6月21日 五者協議

—観客数の上限を「収容定員50%以内で1万人」とすること、7月12日以降緊急事態宣言等が発動された場合は措置内容を踏まえた対応を基本とすること等を合意

—組織委員会がコロナ対策ガイドライン（案）を提示。（マスク着用、直行・直帰等をルール化）

### 6月23日 関係自治体等連絡協議会

7月 8日 7月12日からの緊急事態宣言発令の政府決定

### 五者協議・関係自治体等連絡協議会 オリンピック無観客の決定

（当初は一都三県を無観客とする内容）

※7月の緊急事態宣言後も他の興行はルールに従って観客を入れて開催

7月 9日 北海道が無観客に。

7月10日 福島が無観客に。

7月12日 東京都を対象に4度目の緊急事態宣言が発令（当初期限は8月22日、最終的に9月30日まで延長）

3県を対象にまん延防止等重点措置の延長（8月2日緊急事態宣言発令、9月30日まで）

### 8月16日 四者協議（政府、東京都、組織委員会、IPC）・東京2020パラリンピック競技会場所在自治体懇談会

パラリンピック無観客の決定（学校連携観戦を除く）



## 無観客

- 観客については、2020年12月のコロナ対策調整会議中間整理において、下記の通り整理された。
  - ・観客数の上限については、内外の感染状況や現在行っている観客数を引き上げた場合の実証の結果なども踏まえ、国内の上限規制に準拠することを基本として、最終的な決定は、来春までに行う方針を整理。
  - ・外国人観客の取扱いについては、「観客の安全」と「地域の安全」の両立を図る観点を踏まえ、検討する。具体的な措置の内容については、感染症の専門的知見も踏まえつつ、来春までに決定すること。
- 上記方針の下で検討を続け、まず海外からの観客については、水際対策の関係もあり、またフライトや宿泊の予約も関わることから、2021年3月に政府、東京都、組織委員会、IOC、IPCの五者協議で受け入れせずという決定を行い、アナウンスした。
- その際、国内観客については、4月中に対応を固める方針であったが、変異株による国内感染の状況も踏まえ、観客数に係る判断は大会1か月前となる6月に国内のスポーツイベント等における上限規制に準拠することを基本に行うこととし、その旨を4月にアナウンスした。
- その間、データやシミュレーションを下に、専門家を交え、広く議論が行われた。組織委員会でも、専門家ラウンドテーブルにゲストの専門家を招き、東京都や国などとともに検討を重ねた。国内の専門家有志から、緊急事態宣言等の措置とオリンピック・パラリンピックの有観客開催は内外に矛盾したメッセージを発することになることから適切な措置を講じるべき等の提言も出され、この提言についても専門家ラウンドテーブルで議論をした。その議論の様子は会議後、記者会見・資料配布等を行い、内外にそのプロセスを明確にすることに努めた。

## 無観客

- オリンピック・パラリンピック大会を特別扱いせず、国内上限規制の一般ルールに服すべきという立場から、観客数に一定の上限を設定した上で観客を入れるというルールに服するのか、より厳しくするのが大きな議論となった。
- 6月、人流を抑制する適切な措置を講じた上で、プロ野球やJリーグなどと同様一定の観客を入れるという方針を五者で決定した。
- その後、7月に緊急事態宣言が再度出されるに至り、一般ルールとしては観客は上限5000人というルールであったが、内外の状況を総合勘案し、原則無観客という方針とした。（一部の会場で、一般観戦、学校観戦が行われた。）
- 既にチケットは販売しており、学校観戦も計画されている中、一般ルールを超えての原則無観客という方針決定はギリギリの難しい判断であったが、結果的に安全安心の観点からコロナ対策を優先させるメッセージは強く打ち出されることになった。加えて、政府、都、関係自治体から自宅観戦の重ねての呼びかけなどが行われた。
- 大会期間中は人流が抑制され、オリンピック・パラリンピックを契機とした感染拡大は認められなかった。そして9月から12月にかけて国内の感染は大きく減少した。

# 国内メディアによる評価

## 【大会開幕前の社説（50音順）】

| 媒体 | 見出し                                 | 記事抜粋                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----|-------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 朝日 | 夏の東京五輪 中止の決断を首相に求める（5/26）           | 新型コロナウイルスの感染拡大は止まらず、東京都などに出されている緊急事態宣言の再延長は避けられない情勢だ。この夏にその東京で五輪・パラリンピックを開くことが理にかなうとはとても思えない。人々の当然の疑問や懸念に向き合おうとせず、突き進む政府、都、五輪関係者らに対する不信と反発は広がるばかりだ。<br>冷静に、客観的に周囲の状況を見極め、今夏の開催の中止を決断するよう菅首相に求める。                                                                                   |
| 産経 | 東京五輪 開催の努力あきらめるな 菅首相は大会の意義を語れ（5/28） | 今夏の東京五輪・パラリンピック開催に向けて政府や東京都、大会組織委員会は努力を続けてほしい。それは新型コロナウイルスの感染を抑え、社会・経済を前に進める上でも大きな一歩になる。<br>政府や組織委が掲げる「安全・安心な大会運営」は、前提であって答えではない。開催意義をあいまいにしたまま「安全・安心」を繰り返しても、国民の理解は広がらない。菅義偉首相にはそこを明確に語ってもらいたい。                                                                                   |
| 東京 | 専門家の警鐘 なぜ真剣に向き合わぬ（6/9）              | 感染症の専門家が鳴らす警鐘に政府はなぜ真剣に向き合おうとしないのか。危機感が欠如していると言わざるを得ない。<br>政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会の尾身茂会長が、東京五輪・パラリンピックの開催に伴う感染拡大への懸念を繰り返し表明している。<br>政府からの諮問がない中、感染症の専門家があえて提言に踏み込むのは異例だ。首相はその危機感と向き合い、共有すべきである。                                                                                        |
| 日経 | 五輪への道筋を示す明確な発信を急げ（5/23）             | 東京五輪の開会式が2カ月後に迫った。新型コロナウイルスの感染拡大が収束しないなか、各種の世論調査では、再延期や中止を求める声が過半数に及ぶ。菅義偉首相は国会で「安全・安心な大会の実現に全力を尽くす」と意欲をみせるが、言葉は抽象的だ。東京都、大会組織委員会も含め、安全・安心の具体策を示したとはいえない。<br>多くのアスリートや国民の不安を払拭すべく「どんな形なら開催できるのか」という喫緊の課題に、納得のいく指針を打ち出すタイムリミットに来ている。問題意識を国際オリンピック委員会（IOC）と共有し、迅速な決定と明確な情報の発信につとめるべきだ。 |
| 毎日 | 東京五輪まで2カ月 「安全・安心」の根拠見えぬ（5/23）       | 日本ではワクチン接種が遅れ、変異株の感染が拡大している。緊急事態宣言の対象地域も広がっている状況だ。だが、主催者側は開催ありきの姿勢で、IOCのジョン・コーツ副会長は緊急事態宣言下でも開催可能と明言した。感染リスクをだれが評価するかもはっきりせず、国民との溝は広がるばかりだ。<br>「安全・安心」と強調するのであれば、政府や組織委、IOCは専門家の知見に基づく根拠を明確に示さなければならない。具体的な説明がない限り、内外の理解を得ることはできない。                                                 |
| 読売 | 東京五輪 開催へ感染防止策を徹底せよ（5/27）            | 東京五輪の開幕まで2カ月を切った。新型コロナウイルスの流行は、いまだ収束していない。政府は、安全な大会の実現に向けた道筋を明確に示さなければならない。<br>この1年間、各種大型施設やイベント会場などでは様々な感染対策を講じてきた。これらの蓄積された知見を、大会での対策徹底に生かしてもらいたい。                                                                                                                               |

# 国内メディアによる評価

## 【8月24日パラリンピック開幕時の社説（50音順）】

| 媒体 | 見出し                               | 記事抜粋                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----|-----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 朝日 | 東京パラ大会 安全対策に万全期して                 | 挙行する以上は、来訪者と市民の健康を守り抜くのが政治・行政の務めだ。五輪開催で世の中の空気を緩めた轍（てづ）を踏むことのないよう、メッセージの発信や付随するイベントにも細心の注意を払わねばならない。<br>パラ選手には、肺や心臓などに基礎疾患や重い障害を抱える人がいて、コロナに感染すれば健康者よりも重篤な症状を招く危険性が高い。体温調整が難しい障害もあり、熱中症への警戒も怠ることはできない。<br>純粋なスポーツとしてパラに関心を寄せ、楽しむ人も広がっている。選手たちの安全と健闘を心から祈る。                                              |
| 産経 | パラ大会開幕 ないものを嘆くのではなく あるものを活かすことを学ぶ | 「パラリンピックの父」と呼ばれる英ストーク・マンデビル病院のルードウィヒ・グットマン医師は「失ったものを数えるな。残された機能を最大限に生かそう」との言葉を残し、これが大会の精神となっている。「経営の神様」松下幸之助翁にも「ないものを嘆くな。あるものを活（い）かせ」の名言がある。いわんとする哲学は同じであり、パラ大会のテーマは、経営の理念にも、あらゆる事業にも通底する。そしてパラ大会が観戦者に期待するのは、偏見の棄却や共生への覚醒、気づきだ。同じ物語が東京で紡がれることを切望する。オリンピックは、十分に東京と世論を温めた。さあ、人類の祭典が始まる。存分に楽しみ、興奮し、応援しよう。 |
| 東京 | 東京パラ開幕へ 命と健康を最優先に                 | 東京パラリンピックが24日に開幕する。首都圏は新型コロナウイルスの感染爆発に入り、五輪以上に慎重な運営が必要となる。命と健康を最優先に、選手らの感染対策を徹底し、学校と連携した児童生徒の観戦も中止すべきだ。<br>大会には約160の国・地域から、肢体不自由や視覚障害、知的障害などの選手約四千四百人が参加する。力の限界に挑み、メッセージを発する13日間は、「多様性と調和」という理念を実感する場となるだろう。                                                                                           |
| 日経 | パラ大会を共生社会への大きな一歩に                 | 障害のあるアスリートらが参加する国際的な競技大会、東京パラリンピックが24日、開幕する。約160の国と地域から約4400人が集い、22の競技で鍛え抜いた力と技を披露する。東京五輪と同様、新型コロナウイルスの影響で1年延期されていた。<br>さまざまなハンディキャップを日ごろのトレーニングや創意で乗り越え、自らの限界に挑む選手らの姿は、共生社会の実現へ向けた数多くのヒントや気付きを私たちに与えてくれるはずだ。大会を機に、誰もが個性や持てる能力を存分に発揮し、分断や差別のない世界を築くための歩みを着実に進めていきたい。                                   |
| 毎日 | パラリンピックあす開幕 共生社会の姿映す大会に           | 厳しい状況下での開催となるが、こんな時に行うからこそ、改めて大会の意義が問われる。<br>今大会には世界各国から約4400人の選手が参加する見通しだ。ボッチャやゴールボールなど、パラリンピック独自のスポーツも含め22競技が行われる。<br>大会ビジョンは五輪と同じ「多様性と調和」だ。鍛え上げられたパラアスリートの熱戦を通じ、共生社会のあるべき姿を考えたい。                                                                                                                    |
| 読売 | 東京パラ開幕 共生社会考える契機にしよう              | 東京は、1964年大会に続き、夏のパラリンピックを2度開催する初めての都市になる。その間、世界の競技人口は大きく増え、レベルも向上した。<br>パラリンピックは、障害者のリハビリの延長として始まった。競技用の車いすなどを開発する技術は、高齢者らが日常生活で使う用具の改良にも役立ってきた。<br>今大会が、障害の有無や性別、国籍などにかかわらず、すべての人が尊重し合える社会への一歩になってほしい。                                                                                                |

## 報道各社の世論調査

- 大会前の2021年3月～5月の時点では2021年の大会開催に否定的な意見が多数派（「中止」の意見は共同59.7%、朝日43%、読売59%、NHK33.4%）。
- オリンピック終了後（2021年8月以降）は、多くの方のご意見が「大会が開催されてよかった」に変化（共同62.9%、朝日56%、読売64%、NHK78.4%（「とてもよかった」と「まあよかった」の合計））。

|      | 2021年3月～5月 |       | 2021年8月以降  |       |    |
|------|------------|-------|------------|-------|----|
| 共同通信 | 観客数を制限して開催 | 12.6% | よかった       | 62.9% | ※1 |
|      | 無観客で開催     | 25.2% |            |       |    |
|      | 中止         | 59.7% | よくなかった     | 30.8% |    |
| 朝日新聞 | 今夏に開催      | 14.0% | よかった       | 56%   | ※1 |
|      | 再延期        | 40%   |            |       |    |
|      | 中止         | 43%   | よくなかった     | 32%   |    |
| 読売新聞 | 観客数を制限して開催 | 16%   | 思う         | 64%   | ※2 |
|      | 無観客で開催     | 23%   |            |       |    |
|      | 中止         | 59%   | 思わない       | 28%   |    |
| NHK  | 今夏に開催      | 31.7% | とてもよかった    | 26.7% | ※3 |
|      | 再延期        | 33.7% | まあよかった     | 51.7% |    |
|      | 中止         | 33.4% | あまりよくなかった  | 15.7% |    |
|      |            |       | まったくよくなかった | 5.6%  |    |

※1「東京五輪が開催されて、よかったと思いますか、よくなかったと思いますか」という質問に対する回答（5月16日・8月16日●共同通信）、（5月17日・8月9日●朝日新聞）。また、朝日新聞の大会前の世論調査において、今夏に開催する場合の観客をどうするかについても尋ねられており、「通常の観客で開催」が3%、「観客数を制限して開催」が33%、「無観客で開催」が59%の回答であった。

※2「東京五輪が開催されてよかったと思うか」という質問に対する回答（5月10日・8月10日●読売新聞）。

※3「日本で2度目となる夏のオリンピック・パラリンピックが開催されたことについてどう思いますか」という質問に対する回答（2021年3月17日～4月19日・9月8日～10月15日の間に実施したNHK世論調査）。

- 大会の意義については、機会をとらえて説明し、コロナ延期後もメディアで説明を重ねたが、実際の大会を目にする前の言葉・文字による説明のみでは十分行き渡らない面もあった。
- 他方、こうした傾向は大会が開始され、実際のアスリートの競技を目にすると変化。新聞の社説等でも、大会前と比べ、大会開始以降は開催意義をポジティブに論じる傾向が増え、特にパラリンピック後はその傾向が顕著になった。

24

TOKYO 2020

## メディアコミュニケーション（大会中）

### 1 MPC記者会見（組織委員会主催／IOC・IPC共催）・・・計42回（オリ24回、パラ18回）

IOC/IPCと組織委員会双方のスポークスパーソンから、大会関係者の新型コロナウイルス感染状況や各種対策状況をはじめとした各種大会情報の発信やメディアとの質疑応答を行ったほか、多様なテーマを設定してゲストスピーカーを招聘。

#### \*主なゲストスピーカーテーマ

|         |                                                                                                                                                |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| オリンピック  | 暑さ・コロナ対策、復興、大会運営とアジェンダ2020、スポーツイノベーション、ポートレイト、難民選手団、デジタル・ファンエンゲージメント、新種目、アスリートのメンタルヘルス、ボランティア、選手村、ピクトグラム、ブロードキャスト、マーケティング、レガシー、持続可能性、オペレーション総括 |
| パラリンピック | 暑さ・コロナ対策、IPCスペシャルアンバサダー、セレモニー、パラリンピック教育、クラシフィケーション、パワー・オブ・スポーツ、マラソン、アクセシビリティ                                                                   |

### 2 大会関係者の新型コロナウイルス感染症状況や各種対策状況の発信

デイリー状況を公式サイト上で発表のうえ、MPC記者会見においても発信、質疑応答を行い丁寧に対応。

### 3 プレスリリース（7/1～9/5）・・・計78本

### 4 Newsdesk問合せ、取材依頼対応件数（7/1～9/5）

・・・計10,469件

（TEL2,368件、メール7,322件、対面779件）



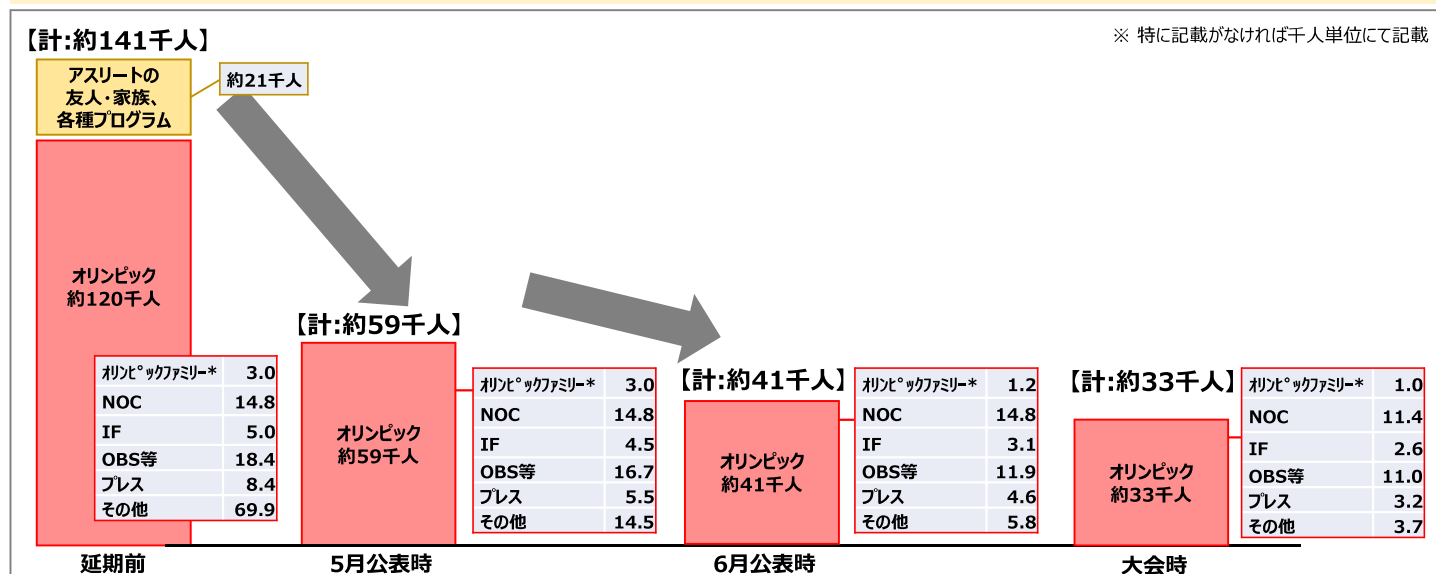
25

TOKYO 2020

# 海外から来日する大会関係者数：オリンピック大会時

- 簡素化や海外観客の受入れ断念、その後の大会関係者縮減要請の結果、海外から来日する大会関係者の数は、4分の1以下（約14.1万人 ⇨ 約3.3万人）\*となった。

\*アスリート、一般観客を除く。推計値。



\*IOC委員、IOC職員（IOCのコントラクターを含む）、世界ドーピング防止機構（WADA）、スポーツ仲裁裁判所（CAS）、将来の組織委員会など

## 入場者数

### オリンピック

| 合計 | 約43,300人 |
|----|----------|
| 宮城 | 約19,300人 |
| 茨城 | 約3,400人  |
| 静岡 | 約20,600人 |

※うち学校連携観戦 約4,700人

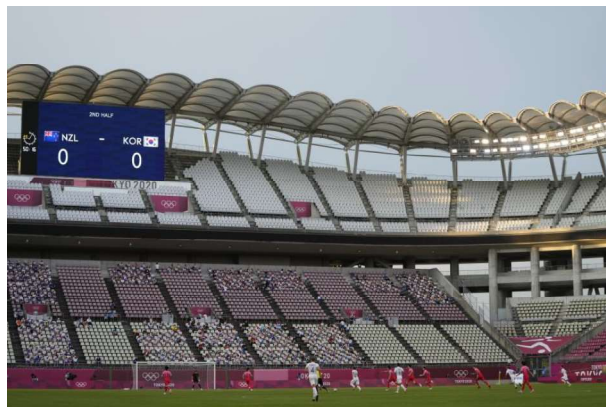
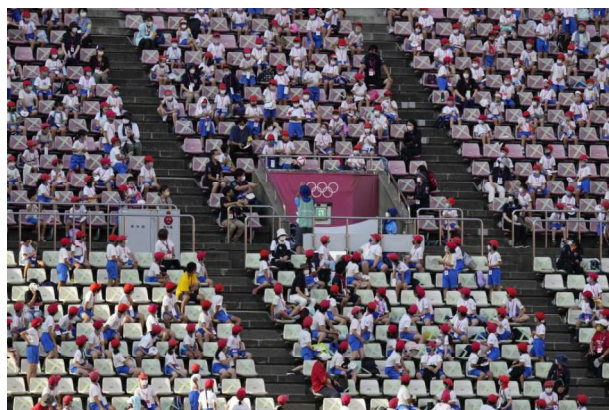
### パラリンピック

| 合計 | 約15,700人 |
|----|----------|
| 東京 | 約12,100人 |
| 埼玉 | 約300人    |
| 千葉 | 約3,300人  |

※学校連携観戦のみ



# 学校連携観戦の様子（オリンピック）



28

TOKYO 2020

## 東京2020オリンピック



## 東京2020パラリンピック

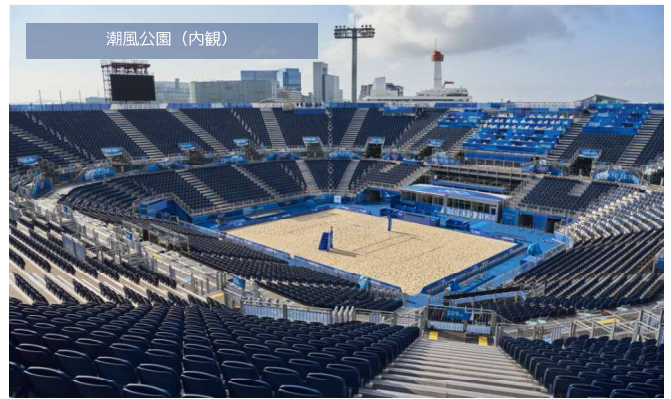


29

TOKYO 2020



## 大会ルック 会場装飾②

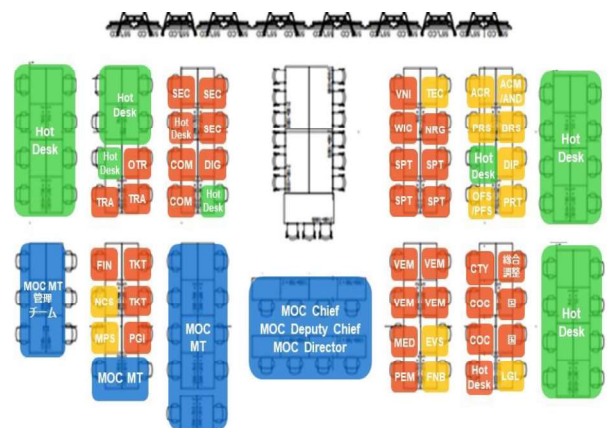


## MOC（メインオペレーションセンター）

- MOCとは大会運営本部のことである。MOCの主な役割は、大会全体を俯瞰するため大会情報を集約し、大会運営に関わる様々な関係者間の情報共有のハブとなるとともに、主として上申された事案に関する調整を行うことで、円滑な大会運営をサポートすること。
- MOCで対応した主な課題として、輸送対応・台風/落雷/暑さへの対応、濃厚接触者対応などがある



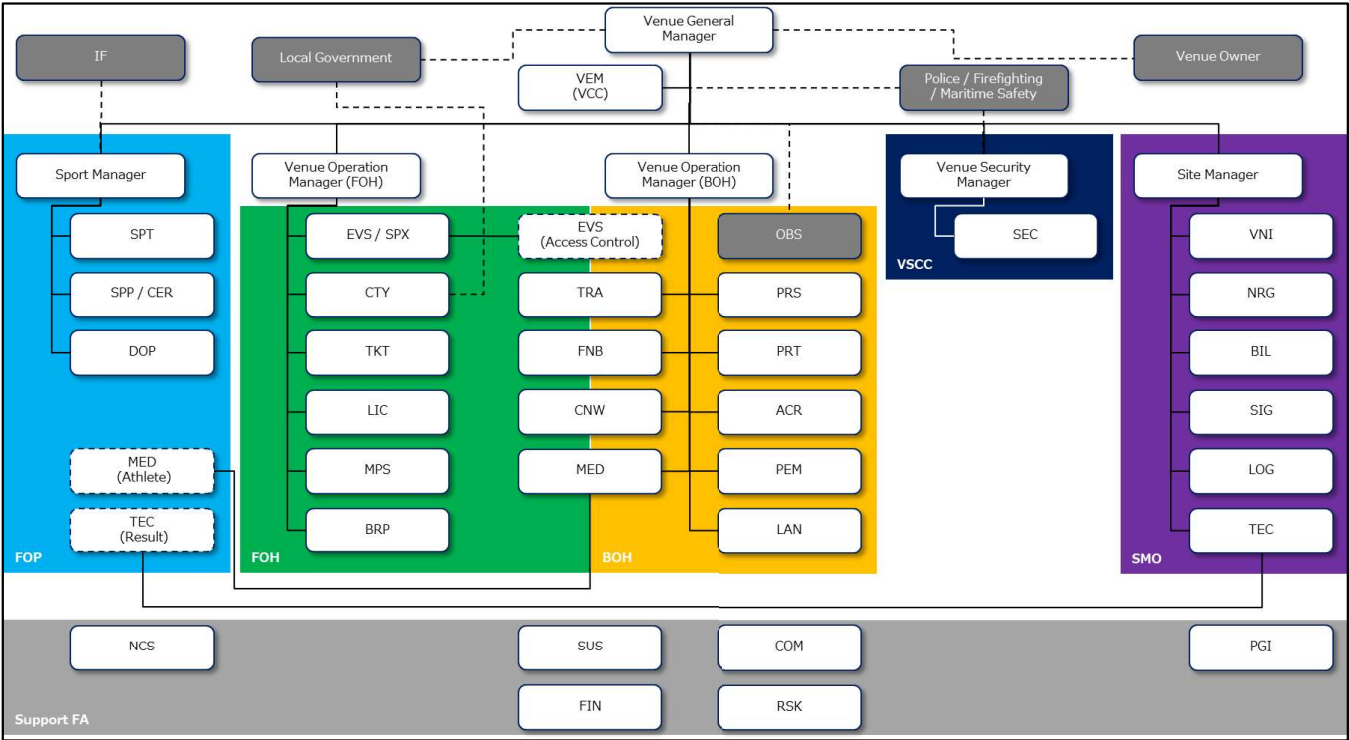
MOCでの会議の様子



MOCルームレイアウト



# 会場運営体制



※上記を基本に競技や会場の特性に応じて会場毎に体制を構築

## MOC対応事案の変遷

- 大会期間中に発生した事案の多くは会場運営/競技運営に関するもので、原則として各会場等で解決がなされた。一方、大会運営全体に及ぶもの、IOC/IPCとの連携や幹部レベルでの対応が必要な重要な事案についてMOCで対応を行った。MOCで対応した主な事案は以下のとおりである。

| 時期                              | 主な対応内容                                                 |
|---------------------------------|--------------------------------------------------------|
| 7月1日～<br>(大会関係者入国対応)            | 空港オペレーション強化、関係者入国サポート、海外の空港からの問い合わせ対応                  |
| 7月中旬～<br>(大会直前準備/大会運営対応)        | 台風など悪天候への対応、関係者輸送対応、スクリーニング検査、濃厚接触者対応、プレイブックルール違反者への対応 |
| 8月上旬～<br>(オリンピック関係者出国対応)        | スクリーニング検査、出国にかかる検査証明対応                                 |
| 8月中旬～<br>(パラリンピック関係者入国対応)       | 関係者入国サポート、濃厚接触者対応、アクセシビリティ対応                           |
| 8月下旬～大会終了まで<br>(大会運営対応/関係者出国対応) | 落雷など悪天候への対応、濃厚接触者対応、プレイブックルール違反者への対応                   |

## MOC対応事案（男子サッカーにおける濃厚接触者対応）

### 2：輸送の調整

東京⇄札幌の都市間輸送については、チャーター機を手配し、機内前後で濃厚接触者と非濃厚接触者を分離。また、市中移動（ホテル⇄空港/練習会場/競技会場）についても、TAバスに加えて濃厚接触者専用バスを手配し、動線分離に配慮した対応を行った。

#### 【対応スケジュール】

| 日程       | 主な活動                                     |
|----------|------------------------------------------|
| 7月26日（月） | ・ 選手村から宿泊先ホテルまでの輸送<br>・ 練習会場への輸送         |
| 7月27日（火） | ・ 練習会場への輸送                               |
| 7月28日（水） | ・ 男子サッカー 予選リーグ グループA 試合6<br>南アフリカ × メキシコ |
| 7月29日（木） | ・ 宿泊先ホテルから選手村までの輸送                       |

※上記期間は、組織委員会スタッフが南アフリカ選手団に帯同し、動線分離や選手団のサポートを実施。

## 競技会場の運営振り返り

- 会場および会場周辺の運営の最終責任者となるベニューゼネラルマネージャー（VGM）、会場において競技を統括するスポーツマネージャーを早期に任命。
- その下で、会場チーム体制への移行（局・FA毎の体制から会場毎に構成される体制への転換）等を段階的に進め、テストイベント等でシミュレーションやトレーニングを実施。
- 結果、大会期間中、オリンピック42会場、パラリンピック21会場において、全体として大きな問題が生じることなく、概ね円滑な会場運営を行うことができた。

## 競技運営状況（オリンピック）

- 7/21～8/8まで、19日間にわたり競技を実施（※開会式前、開会式日含む）
- 33競技/339種目を42競技会場で実施
- 大会期間中、台風・雷・雨・暑さなど、様々な気象条件での開催となったが、IOC、IF、会場チーム、FCCが連携し、臨機応変に競技日程変更（全10回）を行うなどして、大会期間中に全ての競技を終了
- 一方、マラソンやサッカーなどの一部競技においては、日程変更が直前となったため、アスリート等の一部関係者から批判の声もあった。
- 練習会場は、各競技の開始5日前から計80会場が稼働

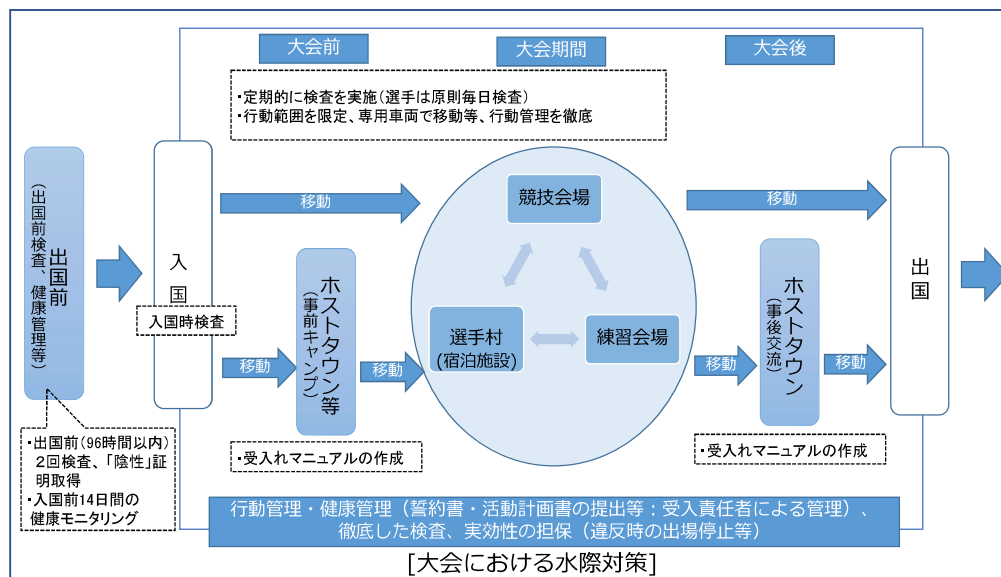
## 競技運営状況（パラリンピック）

- 8/25～9/5まで、12日間にわたり競技を実施（※開会式日含まない）
- 22競技/539種目を21競技会場で実施
- 大会期間中、雷・雨・暑さなど、様々な気象条件での開催となったが、IPC、IF、会場チーム、FCCが連携し、臨機応変に競技日程変更（全4回）を行うなどして、大会期間中に全ての競技を終了
- 一方、車いすテニスにおいて、雨による競技の中断などにより、午前2時頃まで試合が継続されるケースもあり、アスリートファーストの観点から、翌日以降の競技スケジュールの変更を行った
- 練習会場は、各競技の開始5日前から計27会場が稼働
- リペアセンターは、選手村及び14競技会場に設置され、8/15～9/8まで25日間稼働し、総計2,083件の対応を行った

# 新型コロナウイルス感染症対策（水際対策）

## 徹底した水際対策（防疫措置）、海外の「バブル」方式を参考にした感染防止対策を実施。

- ・徹底した検査（入国前・入国時、入国後は定期的）
- ・徹底した行動管理（宿泊施設や競技会場などに用務先を限定、移動は専用車両に限定）
- ・ルール違反に対する厳格な対応



### ルール違反に関する処分件数

- 〔オリンピック期間〕（7/1～8/11）
- ・大会参加資格剥奪：15名
  - ・大会参加資格一時効力停止：9名
  - ・厳重注意：32名
- 〔パラリンピック期間〕（8/12～9/5）
- ・大会参加資格剥奪：3名
  - ・大会参加資格一時効力停止：1名
  - ・厳重注意：29名

- 来日する大会関係者について、大会運営の簡素化等により、**合計約4分の1程度**に合理化。  
 オリンピック 約14.1万人 ⇒ 約3.3万人 パラリンピック 約3.6万人 ⇒ 約1.0万人
- **ワクチン接種**（国内の選手・大会関係者約4万人分。IOC・ファイザー社から提供）
- パラリンピック期間中は、検査頻度の引き上げ等、追加の対策を実施。

38

TOKYO 2020

## 大会における医療体制

### □ 新型コロナの感染拡大により医療資源がひっ迫。 地域医療への支障を生じさせない対応が必要。

- ・医療体制の見直し（医師・看護師は1日当たりのピーク時で約700人⇒約540人に）。
- ・医師は**スポーツドクターや整形外科医を中心**、看護師は**潜在看護師を中心**にご協力。
- ・IOC、IPCからも医療スタッフの支援（療養施設）。

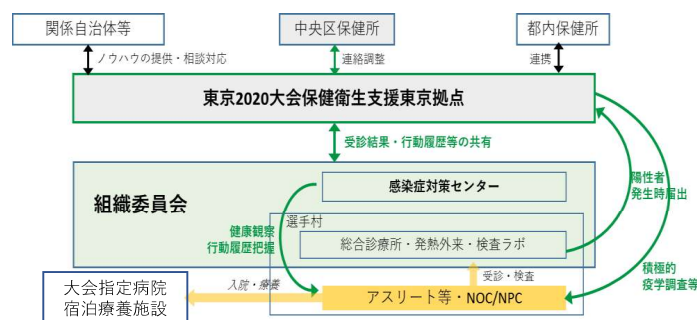
### □ 陽性者には、**組織委員会の感染症対策センター** **と東京2020大会保健衛生支援東京拠点**が連携して対応。

- 濃厚接触者は、選手等に限り一定の条件の下（毎日鼻咽頭PCR検査、厳格な行動監督など）で大会参加。

### 〔東京2020大会の医療サービス提供体制〕



### 〔新型コロナ対応の連携体制〕



39

TOKYO 2020

# 感染症対策の結果

- 保健所によりクラスターとされた事例はなし。  
大会関係者等から市中に感染が広がった事例の報告もなし。
- 海外からの入国者約5.4万人のうち、陽性者は261人（うち、入国後14日以内の陽性者は157人）、入院者は6人※（都内5人）、**重症者は0人**。
- **陽性率はオリパラ関係者以外の空港での検査陽性率と比べ低い水準**。  
・ 空港での検査陽性率：0.10%（55人/54,250人）  
【参考】オリパラ関係者以外の空港での検査陽性率：0.25%  
（同一期間。424人/170,320人）  
・ **スクリーニング検査数は100万回以上**（国内関係者を含む）。なお**陽性者の属性・状況などを大会期間中は原則毎日公表**。  
【参考】スクリーニング検査の陽性率：0.03%（299件/1,014,170件）
- **海外関係者の入院者、宿泊療養施設利用者も概ね大会前試算の範囲内**。



[空港における到着時の検査の様子]



[空港における動線分離]



[専用バスによる移動]

|            | 大会前試算         | 実績                                                       |
|------------|---------------|----------------------------------------------------------|
| 都内医療機関(入院) | ピーク時<br>8.5人  | 入院者数（ピーク時）： <b>2人</b><br>※大会指定病院への入院                     |
| 都内宿泊療養施設   | ピーク時<br>44.6人 | 入所者数（ピーク時）： <b>49人</b><br>※大会用に組織委が300室準備<br>余剰の部屋は都民に活用 |

※都内入院総数（新型コロナ:5件※、熱中症:0件）、療養施設への入所総数225名。

- 関係者の帰国に際しては、検査結果に基づき陰性の検査証明を発行。

※うち一名は別途の主訴で入院した患者についてコロナの陽性も判明したもの

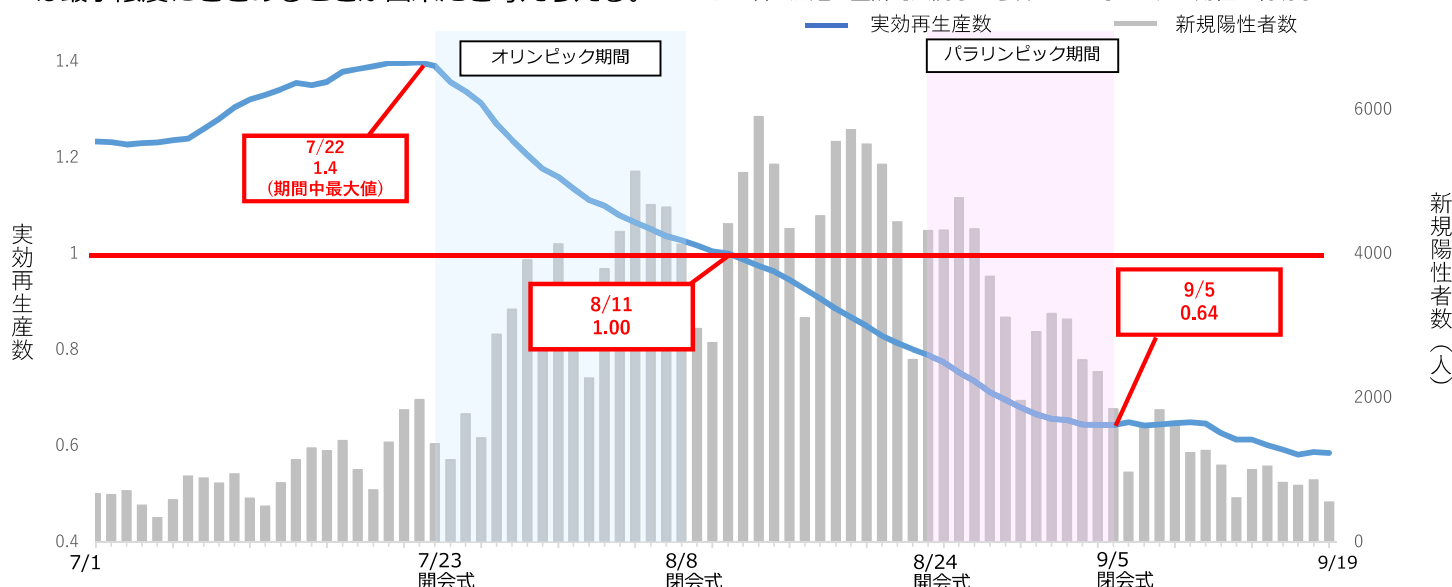
40

TOKYO 2020

## 都内の実効再生産数

再掲

- 感染の拡大や収束傾向を示す実効再生産数は、大会前の7月22日にピークとなったが、それ以降は大会後まで一貫して下落する収束傾向となった。
- 「大会が感染の拡大に繋がるのではないか」との懸念があったが、大会開始と期を一にして増加スピードにブレーキが効き始めていた。
- 収束の主因はワクチンの普及と考えられる。加えて、大会の原則無観客というアナウンスや度重なる自宅観戦の要請等による強いメッセージの効果等もあり、大会期間中の人流はコロナ前比で平均35%減、大会直前期比で平均15%減と低い水準であった。
- 医療への影響は重要な課題であり続け、5月には医療体制を徹底的に見直した。大会移行期間に新規感染者数はピークとなるが、訪日大会関係者の入院数は想定範囲内（ピーク時2名、全体で5名※（都内））であり、地域医療への影響は最小限度にとどめることが出来たと考えられる。 ※うち一名は別途の主訴で入院した患者についてコロナの陽性も判明したもの



○新規感染者数は東京都発表の数値をもとに作成。  
○実効再生産数は 厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード資料を参考に作成。

41

TOKYO 2020



## 全体総括

- コロナ禍における安全・安心な大会を実現するため、マスクや物理的距離の確保、三密の回避といった基本的コロナ対策の徹底に加え、海外入国者数の絞込み、入国前の2回の検査および入国後の定期的な検査の実施、厳格な用務先制限／行動管理、健康管理、陽性者が確認された場合の迅速な隔離等により、海外からの感染の持込を抑制し、選手村や競技会場における感染拡大を防止した。
  - これらの総合的な対策を講じたことにより、大会参加者の陽性率は、空港検疫0.10%・スクリーニング検査0.03%に留まり、選手村や会場でのクラスターの発生もなく、専門家からも「大会は安全に行われた」「行動管理や検査などの対策がうまく機能した」との評価をいただいた。
  - さらに、大会に伴う人流を抑制するため、ライブサイト等の中止、デジタル配信への転換、多くの会場で無観客開催としてステイホーム観戦を呼び掛けたことや交通需要マネジメントの効果もあり、人流の抑制が図られた。
  - なお、推定感染日ベースでの実効再生産数は、7月22日をピークに大会期間中は低下し続けた。
- ⇒ 世界が格闘を続けるコロナ禍において、安全・安心な環境で大会を完遂した東京・日本の実行力・総合力を世界に示し、世界からはポジティブなメッセージが寄せられた。
- 北京大会でもプレイブックが刊行されるなど、今後の世界における大規模イベントのスタンダードとなった。

42

TOKYO 2020

## 大会関係者への新型コロナワクチン接種（対象者）

- プレイブック等による強い意欲の結果、オリンピックに関する海外からの大会関係者の接種状況については、選手及び選手団役員は85%以上、メディアは70%以上（IOC発表）。また、パラリンピックに関する選手、競技役員のワクチン接種率は88%（IPC発表）。

- 国内の大会関係者のワクチン接種：約40,000人（IOC提供、ファイザー製）

|                             |           |    |
|-----------------------------|-----------|----|
| 日本選手団                       | 約 2,200人  |    |
| 競技役員                        | 約 1,300人  |    |
| 大会スタッフ（職員、ボランティア、コントラクターなど） | 約 30,000人 |    |
| メディア                        | 約 5,000人  | など |

### 参考① 大会スタッフのうち主な対象・人数（計画ベース）

- スタッフについては選手と接触のある者などを対象に実施。
- 接種は、1回目6/18～、2回目7/9～。都庁北展望室会場などで実施。
- 競技関連 約16,800
- 選手村 約 3,000
- NOC/NPCアシ、通訳 約 2,100
- 輸送、空港 約 3,000
- 医療、アンチドーピング 約 2,000
- 飲食 約 2,000
- セキュリティ 約 2,000
- 国内メディア 約 6,400
- など

### 参考② ボランティア等の接種状況

- ボランティアについては、選手と接触のある方などを対象に接種を実施
  - ・都庁北展望室会場や会場所在自治体を通じて約14,300人のボランティアを含む大会スタッフ等が接種
  - ・なお65歳以上や医療従事者の大部分は国や自治体による優先接種対象として、また、企業・団体等による職域接種（モデルナ製）においても一定程度が接種したものと考えられる
- IOCから提供されたファイザー製とは別に、東京都の協力により追加でワクチン（モデルナ製）及び接種会場を確保。この際、残りの全ボランティアへ声掛け
  - 1回目 6/30～7/3 築地市場跡地
  - 2回目 7/31～8/11 代々木公園

43

TOKYO 2020

## スクリーニング検査結果（国内外）

| 7月1日～8月11日     | 検査数      | 陽性者数 | 陽性率   |
|----------------|----------|------|-------|
| アスリート等（国内外以下同） | 298,950件 | 37人  | 0.01% |
| 大会関係者（国内外以下同）  | 407,435件 | 144人 | 0.04% |
| 計              | 706,385件 | 181人 | 0.03% |

| 8月12日～9月8日 | 検査数      | 陽性者数 | 陽性率   |
|------------|----------|------|-------|
| アスリート等     | 119,556件 | 16人  | 0.01% |
| 大会関係者      | 188,229件 | 102人 | 0.05% |
| 計          | 307,785件 | 118人 | 0.04% |

| 7月1日～9月8日 | 検査数        | 陽性者数 | 陽性率   |
|-----------|------------|------|-------|
| アスリート等    | 418,506件   | 53人  | 0.01% |
| 大会関係者     | 595,664件   | 246人 | 0.04% |
| 計         | 1,014,170件 | 299人 | 0.03% |

大会期間中、アスリート、大会関係者ともにいずれも低い水準

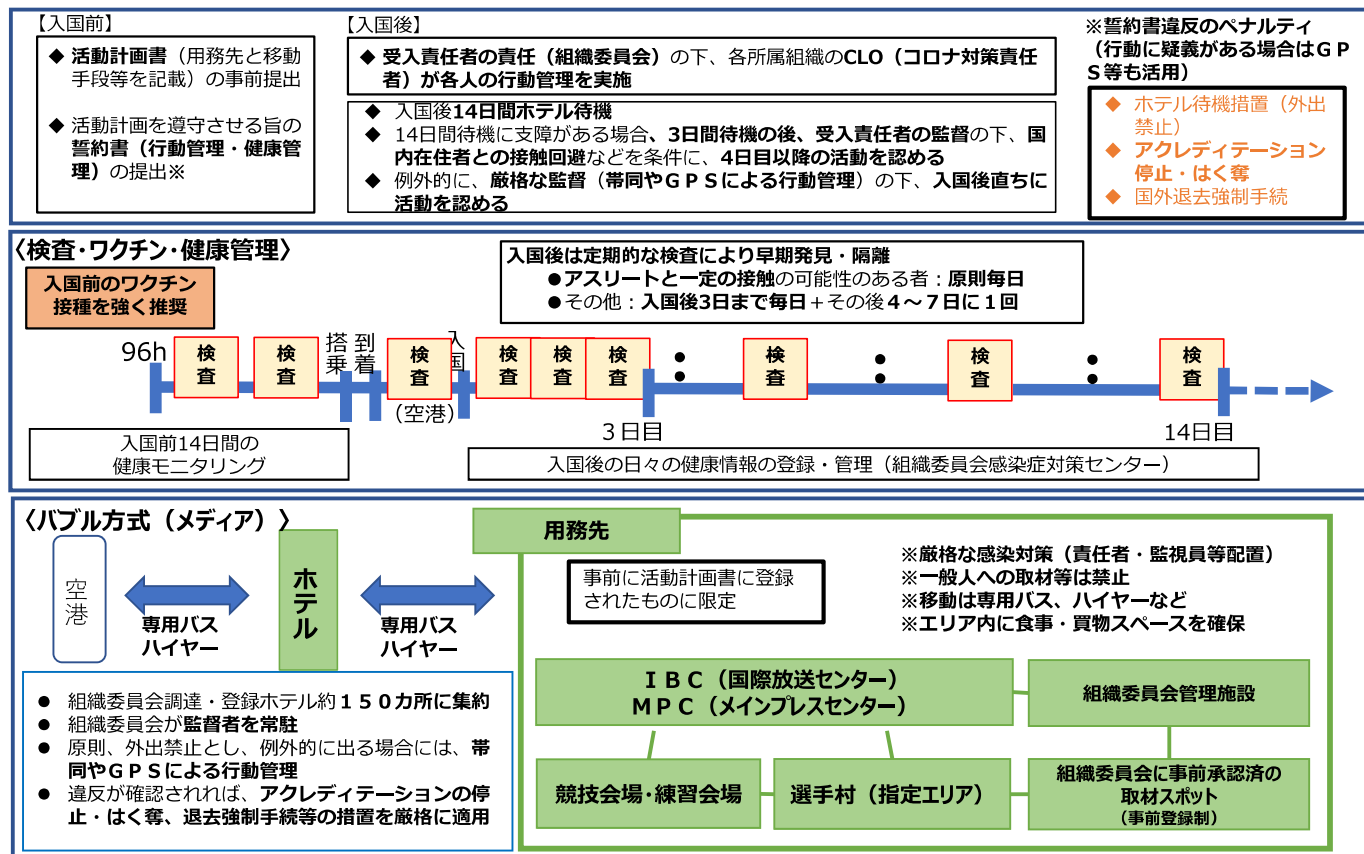
## 海外入国者の医療機関・宿泊療養施設利用数

|                | 大会前の試算               | 実 績                                                |
|----------------|----------------------|----------------------------------------------------|
| 都内医療機関<br>（入院） | 大会前の想定<br>ピーク時 8.5人  | 入院者数（ピーク時）：2人<br>※大会指定病院への入院                       |
| 都内宿泊療養施設       | 大会前の想定<br>ピーク時 44.6人 | 入所者数（ピーク時）：49人<br>※大会用に組織委員会が300室準備<br>余剰の部屋は都民に活用 |

（参考）訪日アスリート・大会関係者の都内療養者数の累計

|            | 入院者数 | 宿泊療養者数 |
|------------|------|--------|
| 7月1日～8月11日 | 2人   | 139人   |
| 8月12日～9月8日 | 3人   | 86人    |
| 合 計        | 5人   | 225人   |

# 海外関係者の対策について



46

TOKYO 2020

## 海外の大会関係者に関するコロナ対策遵守状況（まとめ）

### 【ルールの周知】

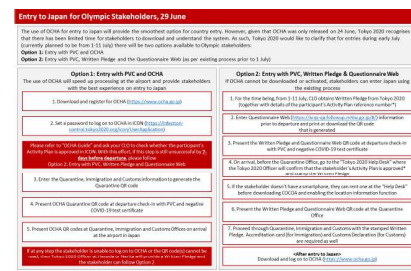
- 「プレイブック（PB）」は2月に初版を公表し、全参加組織の代表に対しオンラインで説明会を実施。4月にv2を公表時も同様の対応。6月には最終版。3回に渡るPBの発行と対話、数百に及ぶQAのやり取り等を通じ理解を促進。
- IOC・IPCと協力し「CLO News Letter」（メルマガ）を数日に一度のペースで発出海外の大会関係者が苦勞しがちな点をメルマガで何度も周知（6月中旬～）。CLO登録、入国前の検査証明の要件、本邦活動計画書、OCHAの導入、検査キットの入手と提出の場所、14日間の行動管理、出国前検査証明など
- 大会期も、毎日行われた選手団長会議やOBSブリーフィングなどで周知。

### 【ルールの順守状況】

- 報道等では違反事例が取り上げられがちだが、実際はほとんどの海外の大会関係者はルール遵守に協力的（違反者の割合は0.16%（89名/54,250名））。
- 日々の健康管理（合計178万回実施。一人当たり平均25日分）や検査（スクリーニング検査を合計100万回以上実施）の実施回数、OCHAの導入状況（7/1以降、海外5.4万人の来日に対し5.2万人が導入）から振り返っても、ほとんどの海外関係者はコロナ対策の実施に協力的であった。
- なお、隔離期間を過ぎていない大会関係者が市中に出ているのではないかと不安を煽る報道もあった。この対応の一つとして、メディアセンターの最寄駅で、連日、組織委員会職員が、海外からの関係者と見える者に対しOCHAの提示（14日間を経過しているか否か）を求めた。一日当たり概ね数十人に対応を求めたが、14日以内の者が出歩いている状況は確認されなかった。

### 【感染症対策の結果】（詳細は「感染症対策の結果」のページを参照）

- 海外の関係者が対策に協力的であったことの一つの証左として、**空港検査、スクリーニング検査ともに陽性率は低い水準。**
- **また、海外関係者の入院者はピーク時2名、合計6名※に止まった（宿泊療養施設利用者も含め、概ね大会前試算の範囲内）。** ※うち一名は別途の主訴で入院した患者についてコロナの陽性も判明したものと



**SCREENING TESTING AT THE GAMES**

Participants will need to undergo screening testing at the Games, as defined in the Playbooks (2)

| Category            | Screening Method | Frequency     | Location                | Notes                                |
|---------------------|------------------|---------------|-------------------------|--------------------------------------|
| International Staff | PCR Test         | Once per week | Designated Testing Site | Required for all international staff |
| Domestic Staff      | PCR Test         | Once per week | Designated Testing Site | Required for all domestic staff      |
| Volunteers          | PCR Test         | Once per week | Designated Testing Site | Required for all volunteers          |
| Media Personnel     | PCR Test         | Once per week | Designated Testing Site | Required for all media personnel     |

【CLO News Letterのイメージ】



【国際展示場前駅での対応】

47

TOKYO 2020

## プレイブック等違反の事例

### ・ IOC/IPC と協議の上、迅速に処分決定

|         | 厳重注意 | アクレディ 一時停止 | アクレディ 剥奪 |
|---------|------|------------|----------|
| オリンピック  | 32名  | 9名         | 15名      |
| パラリンピック | 29名  | 1名         | 3名       |

#### □ 厳重注意

- 大会関係者) 入国後14日間の隔離期間における、軽微な外出違反
- 大会関係者) ホテル内での集団飲食/飲酒
- 選手等) 観客席でのマスク未着用、選手村内での騒動 等

#### □ アクレディの一時停止

- 大会関係者) ホテル内での集団飲食/飲酒（複数回注意） 等

#### □ アクレディの剥奪

- 選手等) 観光目的等の外出違反
- 大会関係者) FOPへの無断侵入
- 選手等) 暴行事件、大麻所持等による刑法犯罪

### ・ プレイブックは v 1、v 2、v 3 とも全て公表しており、都民、国民にもルールは周知。違反事例も公表し、理解に務めた。

## 濃厚接触者対応

- ・ 大会期間中、保健所より一定数のアスリート等が濃厚接触者に指定された。（濃厚接触者＝定期的検査で陰性の者）
- ・ アスリート等の濃厚接触者に対し、国内ルールに整合した14日間完全隔離の厳しい対応とすることは、競技への出場機会を奪うこととなる。一方、一切適用外とすることは、理解が得られないことから、国・東京都・IOC/IPCと協議し、関係保健衛生当局とも連携して、感染拡大の防止とアスリートファーストを両立させるべく、一定の条件を満たすことを前提として競技や練習の参加を可能とし、プレイブック等で周知した。
- ・ 濃厚接触者の競技・練習への参加条件は以下とした。
  - 毎日の検査（鼻咽頭PCR）および競技・練習参加6時間前の検査で陰性であること
  - 個室で滞在・宿泊し、食事は自室で一人ですること
  - 移動は個別車両での移動とすること
  - 練習や試合を除き外出禁止、練習会場・試合会場における他者との物理的な距離を確保すること
- ・ 上記の対象となった濃厚接触者は以下の通り。

#### 【陽性事例からの濃厚接触者：374人】

|           |            |                      |
|-----------|------------|----------------------|
| オリンピック期間  | (7/1～8/11) | アスリート等：106人、関係者：116人 |
| パラリンピック期間 | (8/12～9/8) | アスリート等：102人、関係者：50人  |

#### 【入国時の機内濃厚接触者：861人】

|           |            |                      |
|-----------|------------|----------------------|
| オリンピック期間  | (7/1～8/11) | アスリート等：413人、関係者：242人 |
| パラリンピック期間 | (8/12～9/8) | アスリート等：167人、関係者：39人  |



## 濃厚接触者対応

### 輸送

移動時も通常のTA/バスとは別に個別車輛を確保



配車計画は極めて複雑

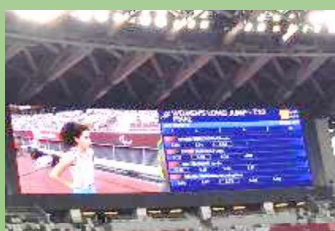


協力事業者の確保や、アクセシビリティ車輛の確保に苦労があった



### 競技参加

会場でも他の選手とは原則別動線とされ常に組織委員会の担当職員が行動監督を行った。また、競技や練習の参加前には毎日検査（原則鼻咽頭PCR）



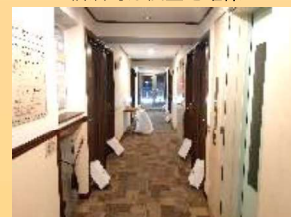
### 練習参加

濃厚接触者の練習は、他の選手と別の時間に行うか、動線を厳格に分離した



### 宿泊

宿泊時は個室を確保



村外宿泊でも極力従業員や一般の方と接触を避けた。  
(画像は鍵等の受け渡し)



## 間接的影響：大会の人流等への影響

### ■ 競技会場周辺、道路・鉄道の混雑箇所等の人流は、交通需要マネジメントの推奨やテレワークの呼びかけで減少

- ・ 交通需要マネジメントの重点取組地区では、平日の14時台で8～11%減、休日の14時台で9%減
- ・ 大会期間中の鉄道利用者数は、大会前から1～2割程度減

### ■ スイホーム観戦の呼びかけ等により、開閉会式等の時間帯の人流は減少傾向

- ・ 開閉会式等時間帯の主要繁華街等の人流は減少傾向
- ・ 同時帯のテレビ視聴率や水道使用状況から、在宅で観戦されていた方が多かったと推測

### ■ 実効再生産数は、大会前の7月22日をピークに下落傾向へ



## 大会中に生じた課題と対応（1/3）

### ○発生した課題

- ・ 想定より早く入村した選手団が多かったことに加え、大会参加者確定リストの入手が困難であったため、検査キットの不足・過剰配布が発生
- ・ 当初計画ではCLOによる検査キット発注および配布を想定していたが、CLOの来日が遅れたり、CLOが地方会場等での配布等が困難な状況が発生

### ○対応

- ・ 選手等の検査キット不足分をメールで発注できる仕組みを構築し、運営時間を延長し検査センターで随時配布
- ・ 配布数の抑制と余剰キット回収により在庫不足に対応
- ・ 3日間隔離でホテルから外出できないステークホルダーに対するオーナーFAによる検査キットの配布回収
- ・ 各会場回収場所の早期開設および新設（UAC、要人ホテル、練習会場 等）に加え、CLOによる配布以外にも回収場所での配布も開始



▲検査センター



▲競技会場回収場所

## ドーピング検査

### ○検査実績

■対象者 すべての参加選手

■実施検査数

■運営期間

【オリンピック】

7月13日（開村日）～8月8日（閉会式）

【パラリンピック】

8月17日（開村日）～9月5日（閉会式）

【オリンピック\*1】

合計6,200検体(OCT2,145検体 ICT4,055検体)

【パラリンピック\*2】

合計1,500検査(OCT 600検査 ICT 900検査)

### ○総括

- 検体採取に関して、選手の入村がプレイブック上競技日5日前からとなり、OCT\*3が相対的に減ったが、ICT\*4の増加により対応し、オリンピック6,200検体・パラリンピック1,500検査に到達。
- 大会専用ラバにおける検体分析業務は、24時間体制下で適正に遂行され、検体の到着後概ね24時間以内にITA/IPC に結果が報告された。
- 現時点でオリンピックでのアンチ・ドーピング規則違反は6件。（パラリンピックは未公表）

\*1メディア公表数値 (<https://ita.sport/event/olympic-games-tokyo-2020/>)

ITAは検体数による公表のため、検体数にて表記。

1検査(1対象者)から複数検体(血液検体含)採取することがある。（検体数 > 検査数）

\*2IPCが未公表のため速報値

\*3 OCT: Out-of-Competition Testing（競技会外検査）

\*4 ICT : In-Competition Testing（競技会検査）

# 暑さ対策等

## 暑さ対策

- 競技運営面の見直し
    - ① 競技開始時間の変更
      - ・テニス : 午前11/12時 ⇒午後3時開始に変更
      - ・マラソン(女子) : 午前7時 ⇒午前6時開始に変更
    - ② 休憩時間の設定(テニス)
    - ③ 競技運営方法の変更(ゴルフ)
  - アスリート、大会関係者の暑さ対策
    - ① アスリート、審判などへの対応(アイスバス、クールベスト 等)
    - ② 大会関係者への対応(シフト、水分や塩分の摂取)
  - 熱中症に対応した情報発信の強化、医療体制の構築
    - ① 暑さ指数(WBGT)等の情報発信
    - ② 競技会場の医療体制の構築
- ⇒ オリンピック期間中に214名、パラリンピック期間中に66名の熱中症患者(うち熱射病2名)



[アイスバス]



[クールベスト]



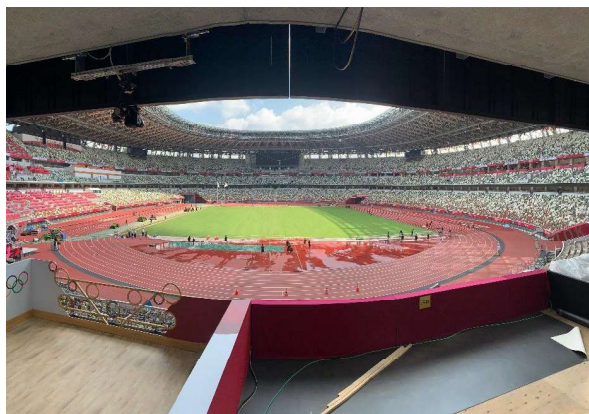
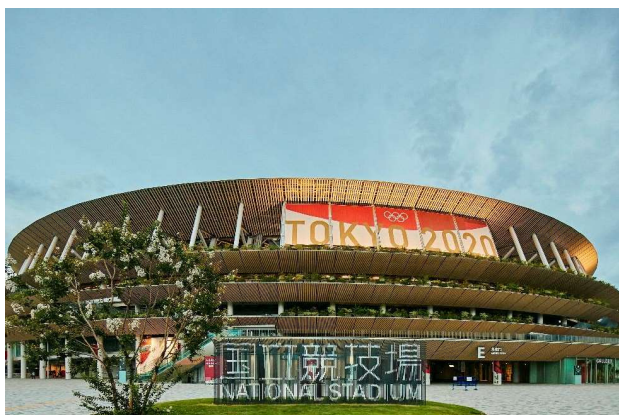
[WBGT表示盤]

## 受動喫煙対策

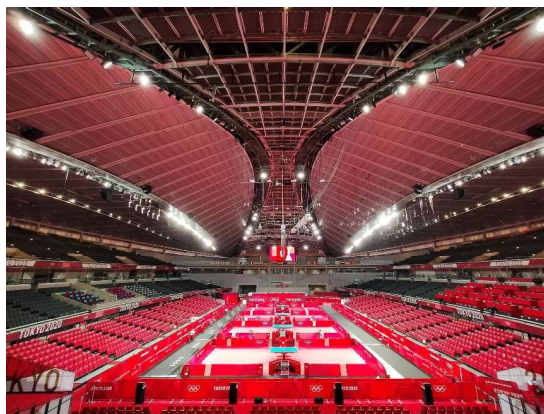
- IOCとWHOが推進する「たばこのないオリンピック」実現のため、競技会場敷地内(屋内・屋外)を完全禁煙。

# 会場写真

## 1. オリンピックスタジアム



## 2. 東京体育館





## 選手村（メインダイニングホール①）

### ○世界各地の“日頃食べ慣れた料理”をカフェテリア形式で提供

日本、ワールド、アジア、ハラール、ベジタリアン、グルテンフリー、ピザ・パスタ、サラダ、パン等のコーナー設置

### ○素材そのものを活かした調理とし、選手が自ら味付けできる多種類の調味料を用意

### ○日本コーナーでは寿司、餃子、たこ焼き、唐揚げ、カレー等を提供。

### ○選手がSNSで『世界一美味しい餃子が選手村にある』と発信するなど大きな反響

### ○人気のメニューは日本コーナー全般、グリル料理、ピザなど



## 大会中に生じた課題と対応

### ■プライベートスペース以外での選手団の飲酒

- ・村内の晴海ふ頭公園や居住棟周辺で複数の選手らが集まり飲酒したり大音量で音楽を流す等の騒動が発生
- ・初期対応として、組織委員会スタッフで現場に向かい、中止を要請。その後、集会については解散
- ・団長会議にて選手団に対し注意喚起
- ・夜間の村内の見回り体制を強化し、注意喚起を継続

### ■村内巡回バスの接触事故

- ・パラリンピック期間中に、村内巡回バスと歩行者（選手）の接触事故が発生
- ・負傷者を救急車にて村内の総合診療所へ搬送
- ・発生状況を分析し、安全対策の強化を行ったうえで運行を再開

# 選手村運営の総括

## 【スムーズな選手団の受入れ】

開村までに、必要な施設・設備の整備、備品の搬入・設置が完了し、選手団到着後の工事などもなくスムーズに選手団の受入をすることができた。

## 【くつろぎの場の提供】

村外への外出制限など様々な制約のある中、選手村という限られた空間において、晴海ふ頭公園や緑道公園、居住棟街区の中庭などを選手たちがリフレッシュする場や練習の場として活用するとともに、レクリエーションエリア、ビレッジプラザなどでは選手たちにくつろぎの場を提供することができた。

## 【好評だった飲食の提供】

ダイニングにおいては、味や見た目の良さの評価に加え、衛生的であることも評価された。

## 【安全な運営を実現した感染症対策】

混雑緩和対策やアクリル板の設置など感染症対策を適切に行うことで、メインダイニングホールやフィットネスセンターなど選手団が多く集まる場所でも安全な運営を行うことができた。

選手団にコロナ感染者が発生した際に、感染症対策センター及び関係FAとの緊密な連携を図ることで迅速かつ丁寧な感染者・濃厚接種者対応を行い、アスリートへの十分な配慮をしつつ、村内でのクラスター発生の防止などを実施することができた。

## 【総括】

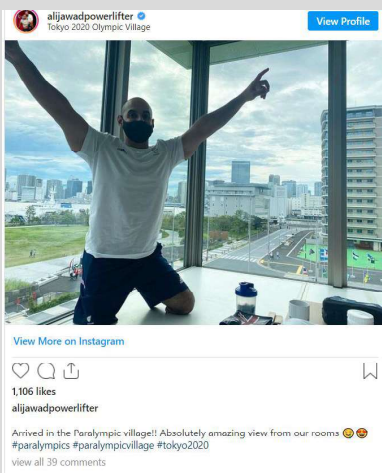
いくつかの課題が発生したが、団長会議で各国団長から選手村運営に係る要望があまり出なかったこと、選手が各自のSNSなどで選手村に対し前向きな評価をしている投稿が多いことを鑑みると、選手村として選手団に対し、コロナ禍においても満足度の高いサービスを提供することができた。これら様々な取り組みを実践し成果を上げた今回の選手村運営は、今後の大会における選手村運営におけるモデルケースとなったと考える。

## 選手の声（1／2）

### 居住棟の景色

■ パワーリフティング英国代表 アリ・ジャワード選手

[https://www.instagram.com/alijawadpowerlifter/?utm\\_source=ig\\_embed&ig\\_rid=dc28dfda-5a26-4a1f-a493-ac1a9a040434](https://www.instagram.com/alijawadpowerlifter/?utm_source=ig_embed&ig_rid=dc28dfda-5a26-4a1f-a493-ac1a9a040434)

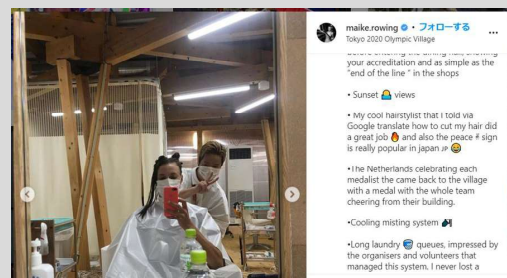


*"Absolutely amazing view from our rooms  
(部屋からの景色が本当に素晴らしい)"*

### スタッフへの感謝

■ ボート ナミビア代表 マイケ・ディークマン選手

<https://www.instagram.com/maike.rowing/>



*"My cool hairstylist that I told via Google translate how to cut my hair did a great job and also the peace sign is really popular in Japan JP"*

(グーグル翻訳で伝えたヘアスタイルにするため、クールなヘアスタイリストは素晴らしい仕事してくれました。また、ピースサインは日本でとても人気があります。)

- 入国にあたっては、入国審査、税関検査の前に、新型コロナウイルスの検査を受検
- 検査前には、本邦活動計画書の政府承認、出国前の陰性証明等を確認
- オリ・パラ関係者を他の入国者と交わらせない、いわゆるバブル形成の対応のため、動線の分離やリエゾンによる誘導を実施

## オリンピック アスリート等選手団の入国



オリンピック入国の状況（検査結果待機）



羽田空港の入国状況



成田空港の入国状況

## 輸送総括

- 複雑な大会輸送オペレーションのIT化を実現した。

大会関係者が来日し始め、輸送サービスの提供を開始した当初は、輸送運行支援システムを運用するスタッフ等の習熟不足などが原因で、一部の関係者の利用に混乱を招いた。

対応として、IOC・IPC・パートナー企業などと連携するとともに、スタッフやドライバーの習熟度が高まりシステムを適切に運用できるようになったことで、大会が開会する頃にはオペレーションの改善が図られた。

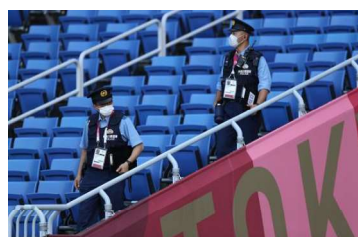
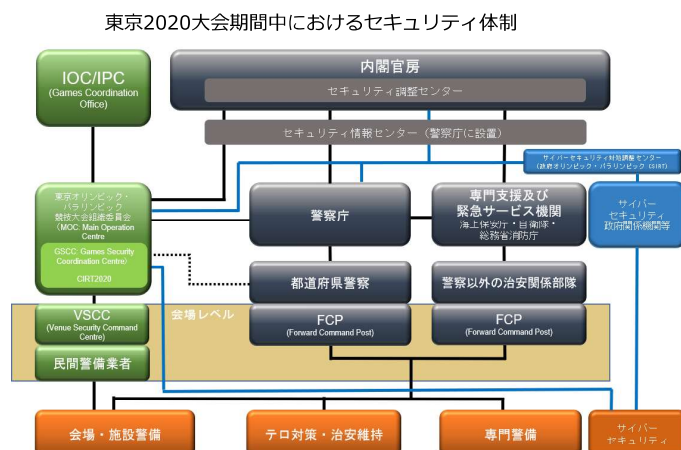
- 道路交通マネジメントの展開により、安全・円滑かつ効率的で信頼性の高い輸送を実現した。

交通需要マネジメント(TDM)、首都高速道路の料金施策、交通システムマネジメント(TSM)の3つの取組により、大会時には、道路交通状況が良好となった。



## 警備・セキュリティ対策（概要）

- 組織委員会、47都道府県553社が加盟した東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会警備共同企業体（警備JV）等の警備員（のべ51.7万人）、自衛隊（約7,600名）の協力を得て、自主警備体制を中心とした大会警備を実施。  
セキュリティカメラは約8,000台を運用。
- 内閣官房設置の「セキュリティ調整センター」において、警察、消防、海上保安庁等のセキュリティ関係機関間の必要な活動調整と情報共有を実施し、自主警備体制と関係機関の円滑な連携を実現。
- 大会関係施設等の警戒警備には、警察・消防・海上保安庁からも最大の人員装備が投入され、大会関係者及び観客等の安全・安心を確保。



## 競技会場内の警戒 [警察]



## FOPの救急車配置 [消防]

選手村外周の洋上警戒  
[海上保安庁]

会場における手荷物検査  
[自主警備]

## テクノロジー・サイバーセキュリティ総括

- いくつか大会期間中のトラブル・混乱はあったが、いずれも迅速な対応・解決を行い、総じて大会期間中を通してテクノロジーの安定運用を実現した。
  - コロナ禍での開催をうけて、過去大会以上に大会運営にはテクノロジーやデジタルツールの活用が求められ、その都度、比較的短期間での導入・活用を実現した。
  - 急遽導入した一部の業務支援システムで、運用面での習熟不足・準備不足による初期の混乱はあったが、システム自体は終始安定して稼働していたこともあり、迅速な混乱回避・トラブル対応を実現できた。
- サイバーセキュリティ対策の成功は、何年にもわたる専門人材やパートナー・サプライヤー・政府等による知恵と努力により実現できた。
  - 結果的に大会運営に影響を及ぼすインシデントが観測されなかったことは、決して偶然ではなく、① 何年もかけて構築・浸透させてきた情報セキュリティのガバナンス・ルール、② パートナー・サプライヤー・政府等とともにプロアクティブに実施してきたセキュリティ対策、③ 繰り返し実施してきたIT環境の棚卸し監査と実践演習、④ 大会期間中のグローバルなステークホルダの協力（インシデント発生時の迅速な対応）、といった成功要因が寄与していると考えられる。

# 東京2020大会でのイノベーションへの取組の考え方

ビジョンを実現するためのイノベーションの視点として、大会ビジョンの「世界にポジティブな改革をもたらす」を実現するために、三つの視点で企画・実施

視点1

スポーツのイノベーション

- ・スポーツの新しい観方
- ・スポーツの新しい楽しみ方
- ・デジタル技術を使った判定



例) アーバンスポーツエリアなど従来の会場とは異なる観方等

視点2

参画におけるイノベーション

- ・大会への新しい参画の仕方
- ・若者の新しい参画の仕組み



例) 小学生投票によるマスコット選定、小型家電から回収したリサイクル金属によるメダル製作 等

視点3

社会の未来を変えるイノベーション

- ・大会を契機としたバリアフリーな社会の構築
- ・持続可能性への配慮
- ・安心・安全な社会の整備



例) 大会関係者の入場における顔認証システムの導入、燃料電池自動車、自動運転 等

- 新しい映像技術を使った競技観戦、SNSなどを使った応援など、イノベーションを駆使した新しいスポーツの楽しみ方を提供。
- コロナ禍で、会場外からの応援メッセージ。
- オンサイト、リモート双方での新しい楽しみ方の提示は、コロナ後も含めた今後の様々な選択肢の提供に結びつくもの。

## 大会ボランティア数

フィールドキャスト（大会ボランティア）は8万人の内、約1万人が大会前までに辞退  
結果 **70,970人** が活動  
※オリンピック：51,672人、パラリンピック：24,514人、延べ76,186人（両方で活動する方5,216人）  
幅広い年代、性別、国籍など多様な方が活動に参加

◆年代

|    | 10代   | 20代    | 30代   | 40代    | 50代    | 60代    | 70代   | 80代 | 90代 | 合計     |
|----|-------|--------|-------|--------|--------|--------|-------|-----|-----|--------|
| 人数 | 2,112 | 17,354 | 8,112 | 11,972 | 16,815 | 11,640 | 2,823 | 139 | 3   | 70,970 |

◆性別

|    | 男性     | 女性     | X | 総計     |
|----|--------|--------|---|--------|
| 人数 | 29,677 | 41,289 | 4 | 70,970 |

◆国籍

| 外国籍   | 日本国籍   | 総計     |
|-------|--------|--------|
| 7,092 | 63,878 | 70,970 |





# 大会ボランティアへの称賛の声

## 【アスリートより】

- ・みなさんの支えなしには、この大会は成立しません。みんなで取ったメダルです。
- ・日本のボランティアはただただ最高。Arigato。
- ・会場や選手村で、ボランティアのみなさんがいつも笑顔で迎えて入れてくださり、私たちにとって大きな力となりました。たくさんのサポートをありがとうございました。
- ・チームJAPAN一丸となり挑んだ東京大会は世界中に笑顔と感動を届けることができた最高の舞台でした。日の丸を背負い、この舞台に立てたこと、私たちアスリートが最後まで戦い抜くことができたのもボランティアのサポートのおかげです。ありがとうございました。
- ・アリガトウゴザイマス日本！最も困難な状況下で本当に信じられないほどのゲームを準備してくれた。パラリンピックの開催に関わった全ての方、特に素晴らしいボランティアに感謝します。本当に特別な経験でした。



## 【メディアの反応】

- ・真面目な話、ここのボランティアはアメージングだ。彼らの活動は、どれだけ称賛しても称賛しきれない。
- ・大会をフィールド内外で円滑に進めたボランティアやスタッフの懸命な働きも、メダルに値するのではないだろうか。
- ・ボランティアの丁寧さや親切さは、どの大会よりもずば抜けている。彼らは東京オリンピックのスターと呼ぶべき日本人だった。
- ・彼らはあらゆる場面でとても親切に歓迎してくれました。彼らが手を振って別れを惜しんでいるのを見て、私は涙が出てしまいました！



## 大会ボランティアの皆さんの活動の様子のほんの一例



# 都市ボランティア

- ・シティキャスト（都市ボランティア）は、開催都市・関係自治体あわせて 15,698人が活動
- ・観客案内の活動に加え、無観客開催の自治体も含め、選手の出迎え・見送り、SNSを活用した地域の情報や魅力の発信、感染防止の呼びかけなど開催都市・関係自治体の「顔」として様々な活動を実施
- ・年齢、性別、障がいの有無等に関わらず、多様な方が活動に参加
- ・今後、ボランティア文化の定着に向けた取組も検討

## ＜各自治体の活動例＞

- ・【札幌市】マラソン・競歩の開催時に、まちなかコンシェルジュとして通行人に対し交通規制の状況や迂回路等を案内
- ・【宮城県】駅・空港、競技会場周辺における観光・交通案内や直行・直帰の呼びかけ、東日本大震災の記録・記憶の語り部など
- ・【福島県】観光情報など福島県の様々な魅力や、県内で開催された野球・ソフトボールをはじめとした大会情報をSNSから発信
- ・【茨城県】学校連携で来場した児童・生徒をサッカー競技会場まで案内・誘導、見守りなど
- ・【埼玉県】競技会場周辺における選手や大会関係者の応援・歓迎、清掃活動、県内おすすめスポットの紹介など
- ・【千葉県】空港におけるオンラインを活用した選手・大会関係者の見送り、ワラインバーチャルツアーの実施、ニュースレターの作成など
- ・【東京都】空港における選手の出迎え・見送り、学校連携観戦に参加する児童・生徒の案内、パラマラソンの観戦自粛呼びかけなど
- ・【藤沢市】セーリング競技会場に入る選手や関係者の出迎え、大会関係者への応援メッセージをSNSから発信
- ・【静岡県】シャトルバス発着駅や主要乗換駅における交通・観光案内、シャトルバス乗り場の案内、美化活動など

＜宮城県＞



＜茨城県＞



＜埼玉県＞



＜東京都＞



＜静岡県＞



## 関係自治体との連携

●東京2020大会は多くの競技が開催都市以外で開催されたことが特徴。開催都市のみならず、競技会場が所在する道県及び市町村（関係自治体）と組織委員会及び国が緊密に連携するため「関係自治体等連絡協議会」を設置

（関係自治体 31団体）

| 道県・政令市                                                      | 政令市以外の基礎自治体                                                           |
|-------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 北海道、札幌市、宮城県、福島県、茨城県、埼玉県、さいたま市、千葉県、千葉市、神奈川県、横浜市、相模原市、静岡県、山梨県 | 利府町、福島市、鹿嶋市、一宮町、川越市、狭山市、朝霞市、和光市、新座市、藤沢市、山北町、伊豆市、裾野市、御殿場市、小山町、道志村、山中湖村 |

●協議会において、大会準備・運営のために必要なこと、各主体の役割分担、大会機運の醸成など協議を進め、それに基づき各関係自治体では大会に向け様々な取組を実施

⇒大会競技の準備・運営への協力に加え、大会に向けた機運醸成イベント、都市装飾・スペクタキュラーの設置、シティキャストの募集・運営 など

●特に、新型コロナウイルス感染症対策については、関係自治体の保健衛生部局との連携・協力が必要なことから、保健所との連絡体制、検査、入院医療機関や療養等について各関係自治体と緊密に連携・調整

⇒万全の体制の下、安全・安心な大会の開催を実現



# オリンピック/パラリンピックファミリー及び要人の対応

## メダルプレゼンター・ギフトプレゼンター

- ・表彰式 オリンピック339回、パラリンピック539回
- ・プレゼンターの情報伝達に、大会で初めて表彰式プレゼンターアプリを正式に活用した。過去大会に比べ、IOC/IPC⇄組織委員会⇄会場の間での情報伝達に係る業務が大幅に軽減された。
- ・パラリンピックでは、国内要人及びパートナーにプレゼンターを務めていただくことでアスリートの栄えある場面を共有いただき、パラリンピックムーブメント及び共生社会づくりへの理解と支持を得る意義深い機会とした。

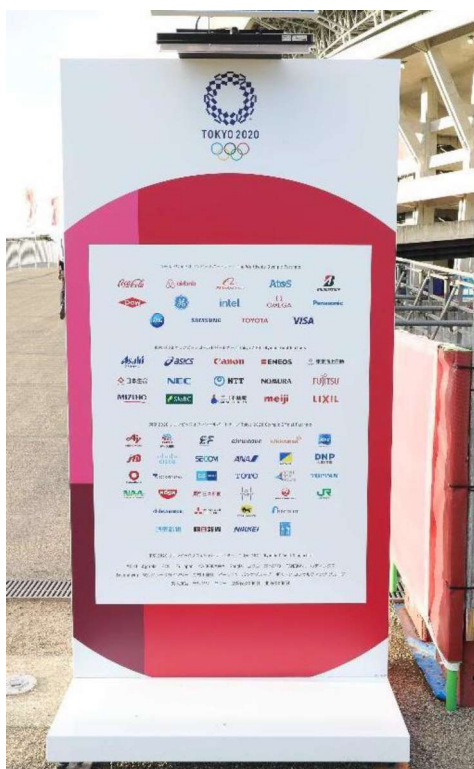


70

TOKYO 2020

## パートナー一覧(オリンピック全81社)

オリンピック・パラリンピック史上最大規模のスポンサー収入



### ワールドワイドオリンピックパートナー

|           |        |               |           |             |         |
|-----------|--------|---------------|-----------|-------------|---------|
| Coca-Cola | airbnb | Alibaba Group | At&S      | BROUCCSTONE | DAEW    |
| GE        | intel  | OMEGA         | Panasonic | PIG         | SAMSUNG |
| TOYOTA    | VISA   |               |           |             |         |

### 東京2020ゴールドパートナー

|       |       |        |         |        |      |
|-------|-------|--------|---------|--------|------|
| Asahi | asics | Canon  | ENEOS   | 東京海上日動 | 日本生命 |
| NEC   | NTT   | NOMURA | FUJITSU | MIZUHO | SMBC |
| 三井不動産 | meiji | LIXIL  |         |        |      |

### 東京2020オフィシャルパートナー

|       |       |        |          |          |       |
|-------|-------|--------|----------|----------|-------|
| Aj    | Asahi | EF     | airzeave | kikkoman | AME   |
| cisco | SECOM | ANA    | ALSON    | DNP      | ARROW |
| DAI   | TOTO  | TOU    | TOPPAN   | NAA      | MSDN  |
| 読売新聞  | 朝日新聞  | NIKKEI |          |          |       |

### 東京2020オフィシャルサポーター

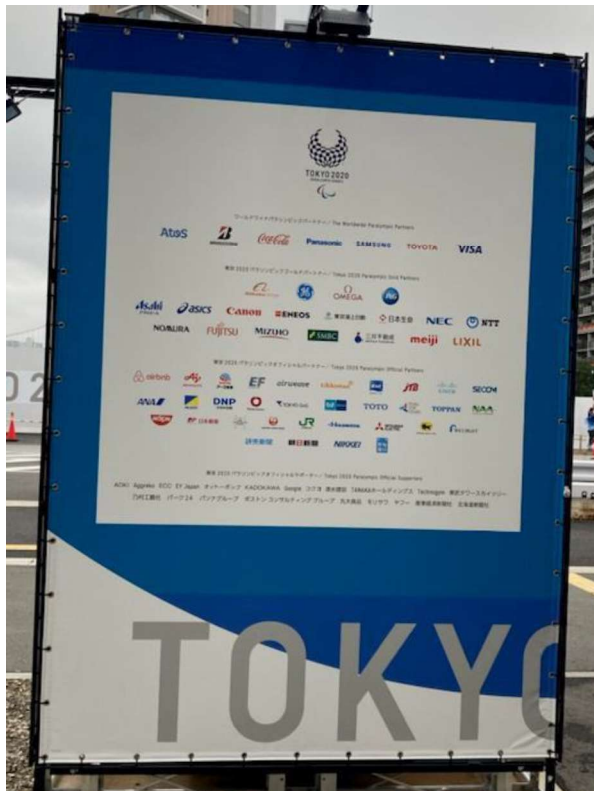
|                  |         |           |          |          |        |         |
|------------------|---------|-----------|----------|----------|--------|---------|
| AOKI             | Aggreko | ECC       | EY Japan | KADOKAWA | Google | コグヨ     |
| 清水建設             | TANAKA  | Technogym | 東武グループ   | 乃村工務社    | パーク24  | パソナグループ |
| ボストンコンサルティンググループ | 丸大食品    | モリサワ      | ヤフー      |          |        |         |
| 産業経済新聞社          | 北海道新聞社  |           |          |          |        |         |

71

TOKYO 2020



# パートナー一覧（パラリンピック全80社）



## ワールドワイドパラリンピックパートナー



## 東京2020ゴールドパートナー



## 東京2020オフィシャルパートナー



## 東京2020オフィシャルサポーター



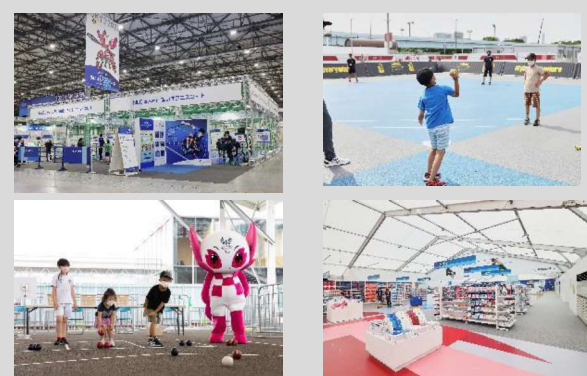
# パートナーサポートによる主な事業

Photo by Tokyo2020

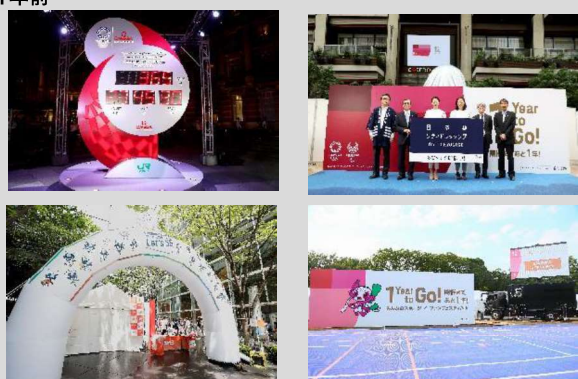
## TOKYO 2020 Let's 55



## 2020 FAN PARK/2020 FAN ARENA



## 1年前



## 東京2020 みんなのフードプロジェクト



# パートナーアンケート

パートナー及び経済界からのアンケート等から見えた評価点と課題の分類

パートナー及び経済界協議会からの意見を集約した結果、TOKYO2020大会について評価を受けた点、課題・改善点として多く挙げられたものとして以下に大別される。  
また、それぞれについて今後の大会運営等に活かすべき提言もあわせて寄せられた。

## 評価を受けた点として多く挙げられたもの

スポーツの力を  
示すことができた

安全安心な  
大会運営の実現

テクノロジーを  
活用した  
大会運営への参画

アクティベーション  
における一定の成果

組織委/パートナー間の  
コラボレーション

ボランティア  
・人材育成

D&I、共生社会の推進

## 課題・改善点として多く挙げられたもの

対外発信・  
コミュニケーション

パートナーとの対話

組織委員会の  
意思決定

アクティベーションへの  
制約、機会損失

アンブッシュ  
マーケティング

調達・納入  
における改善点

大会収支の透明性と適  
切な執行

パートナー等から示された上記の意見・提言については、  
大会の総括やレガシー形成、今後のオリンピック・パラリンピックへの提言に活かしていくとともに  
大阪・関西万博をはじめとする国家的イベントの運営主体等への継承に努めるものとする。

## 開閉会式

### ○ 開閉会式概要

|         | オリンピック<br>開会式        | オリンピック<br>閉会式       | パラリンピック<br>開会式       | パラリンピック<br>閉会式          |
|---------|----------------------|---------------------|----------------------|-------------------------|
| 日時      | 7月23日<br>20:00～23:51 | 8月8日<br>20:00～22:21 | 8月24日<br>20:00～22:53 | 9月5日<br>20:00～22:03     |
| 選手団     | 約6,000名              | 約4,500名             | 約3,400名              | 約2,000名                 |
| 共通コンセプト | Moving Forward       |                     |                      |                         |
| コンセプト   | United by<br>Emotion | Worlds we share     | WE HAVE<br>WINGS     | Harmonious<br>Cacophony |





## オリンピック聖火リレーの実施状況

公道での聖火リレー（4月25日 宮崎県延岡市）



サバニによる海上の聖火リレー（5月2日 沖縄県 座間味村）



点火セレモニー（5月17日 広島県広島市 平和記念公園）



聖火を見守る奇跡の一本松（6月17日 岩手県陸前高田市）



## 難民選手団

### 【概要】

- 国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）が認定した難民で、IOC/IPCが認めた特定のスポーツで一定の能力を有する選手達により結成される。
- 2015年10月の国連総会でIOC会長が「難民選手団」の創設を宣言し、リオ2016大会から初めて参加。

### 【大会実績】

- 2019年6月20日の「世界難民の日」に合わせてIOCが東京2020大会の参加を目指すスカラシップ対象者37名のリストを発表したことを受けて、東京2020でもリオ2016大会に引き続き難民選手団を歓迎する旨表明し、受入れを行った。
- オリンピック参加：29名（12競技）
- パラリンピック参加：6名（4競技）の難民選手団がIPCから派遣

### （参考）

- リオ2016大会：オリンピック10名、パラリンピック2名
- オリンピックの難民選手団は大会に先立って、早稲田大学の協力を得て、7月14日～同大学の早稲田及び戸山の両キャンパス内のトレーニング施設（新宿区）、7月21日～青木町公園総合運動場（川口市）において、IOC難民選手団の事前キャンプが実施された。



## 復興の取組概要

- 「復興オリンピック・パラリンピック」は招致段階からの基本理念の一つであり、地元では十分に反映されていないとの声もあったが、以下の通り**東日本大震災の被災地の復興を後押しし、被災地が復興を成し遂げつつある姿を世界に発信**

- ① 聖火リレー
  - ・ **福島県のJヴィレッジからグランドスタート**
  - ・ 聖火の燃料に、**福島で製造されたクリーンな水素**を活用
- ② 被災地でのオリンピック競技開催
  - ・ 野球・ソフトボールを**福島県（福島あづま球場）**で開催
  - ・ サッカーを**宮城県（宮城スタジアム）**で開催
- ③ 「**復興ありがとうホストタウン**」の推進（岩手、宮城、福島）
- ④ 被災地産品の活用
  - ・ 選手村で**被災地産食材を活用した料理**を提供
  - ・ ビクトリーブーケに**被災地の花**を活用
- ⑤ 復興の情報発信など
  - ・ メインプレスセンターの復興ブースにおける情報発信
  - ・ 東日本大震災からの復興の取組に関するメディアガイドを制作し、国内外メディアに配信
  - ・ 仮設住宅のアルミを利用した復興モニュメントを制作、被災3県にレガシーとして継承

- 復興は震災という自然災害を絆の力でどう乗り越えたかというメッセージであり、同じくコロナという自然災害を人類が連帯して乗り越える大会となった東京2020において、一層の重みをもった。



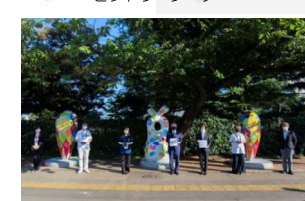
聖火リレーグランドスタート



福島県福島市・広野町  
アルゼンチン5人制サッカーの共同応援



ビクトリーブーケ



復興モニュメントの寄贈

## 福島あづま球場

2021年7月21日、震災から復興した被災地の姿を伝えるべく、東京2020大会全競技の先頭を切って大会ルックに包まれた福島あづま球場の姿が世界中に放映、配信された。北京2008以来3大会ぶりにオリンピックに帰ってきたソフトボール6試合と野球1試合が行われ、ソフトボールと野球の開幕戦ではそれぞれ被災地の女子中学生、男子中学生のバッテリーが始球式を行った。



Photo courtesy of the WBSC



Photo courtesy of the WBSC



Photo courtesy of the WBSC



# パラリンピックの価値・共生社会の実現

- 夏季としては史上初の二回目のパラリンピック大会開催。パラアスリートの競技が多くの人の目に触れ、多様性の意識を醸成。競技に加え、パラリンピックの開閉会式も多様性に向けたメッセージを発出。国連、IPCのWe the 15とのコラボレーション。社会変革のムーブメントの萌芽。
- 視覚障がい者への情報保障等により、より多くの方にスポーツを楽しむ環境を提供。
- 引き続きパラリンピックスポーツの普及を、障がい理解や心のバリアフリー等、多様性ある社会や共生社会の進展につながるものとしても位置づけ、オリンピックスポーツや文化イベント等とのコラボレーションも行っていくことが望ましい。
- ジェンダーイコリティの取組として陸上、水泳、トライアスロン、卓球、柔道、アーチェリーの6競技で男女混合種目を新規導入、史上最高の女性アスリート率（48%）。女性アスリートの活躍。
- 大会前のジェンダー・多様性に関する議論をきっかけに、理事の男女割合を約4割に、加えて「東京2020D&Iアクション」の取組。
- 大会を契機に、多様性と包摂（ダイバーシティ&インクルージョン、D&I）を備えた社会へと確かな一歩を踏み出すためのアクションである「東京2020D&Iアクション」を実施。しました。8月18日の発表時には、日本オリンピック委員会（JOC）、日本障がい者スポーツ協会（JPSA）日本パラリンピック委員会（JPC）、日本スポーツ協会（JSPO）及び大会パートナー25社が、組織委員会と同時に宣言。また、他のスポーツ団体や、アスリートや大会ボランティア等の個人のアクションもSNS等で発信され、大会後も市民の方々に広がっている。

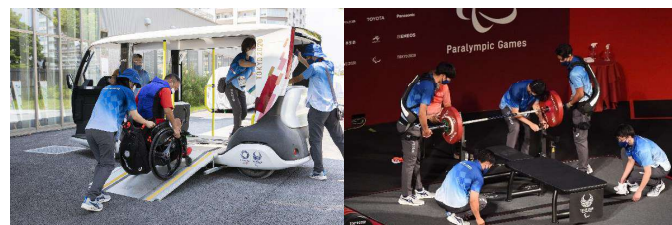
## ジェンダー平等／多様性と調和の実践と社会への発信

### ○大会におけるジェンダー平等の推進

- ・ 史上最高の女子選手割合達成 オリ約48%、パラ約42%
- ・ 開会式の入場行進では男女共同旗手を実現
- ・ オリンピックにおいて男女混合種目を過去最多の18種目実施
- ・ 選手村総合診療所には大会史上初「女性アスリート科」設置
- ・ アスリート等への性的ハラスメント目的の撮影等を禁止行為に明記
- ・ 大会のジェンダー平等の取組を、国連女性機関（UN Women）のフォーラムにおいて発表
- ・ IOCの「ジェンダー平等、公平性の確保のためのポートレイヤル（表象）ガイドライン」を通じて、メディアにジェンダー平等に配慮した報道を呼びかけ
- ・ 大会を間近に控えた時期のジェンダーを巡る議論・言動は、「多様性と調和」の大会ビジョンを掲げる大会において、改めてジェンダー平等や多様性の社会的課題としての重要性を再認識する契機となり、東京2020D&Iアクションにつながった。



### ○パラリンピックにおける選手の奮闘やボランティアの心あるおもてなしが、多様性と調和のメッセージをより強く社会に発信



# ジェンダー平等／多様性と調和の実践と社会への発信

## ○オリンピック・パラリンピック移行期間中に、「東京2020D&Iアクション」を公表

組織委員会のほか、世界中の組織や個人がD&Iに関するアクションを宣言  
誰もが生きやすい社会に向けたムーブメントへ

\* IOC、IPC、東京都、国、パリ2024組織委員会も取組に賛同

\* JOC、JPSA/JPC、大会パートナー、JSPOなどの大会関係者やスポーツ団体のほか、  
アスリートやボランティア等にも宣言が広がっている



## ○大会のジェンダー平等／多様性と調和に関する報告書が活用され、将来大会やスポーツ界での取組が進展することを期待

82

TOKYO 2020

## 持続可能な社会の実現に向けた取組

### ○排出CO2をゼロ以下にする「カーボンマイナス大会」を実現

- ・ 聖火台やトーチ、大会用車両での水素の活用
- ・ 大会時の運営電力の全量を再生可能エネルギーで供給
- ・ 既存会場の活用や再エネの活用等によりCO2を約28万t削減
- ・ それでもなお排出されるCO2はカーボンオフセットを実施



### ○参加型の取組等による資源循環の推進

- ・ 金銀銅メダルを全量リサイクル金属で製造（携帯電話等の回収）
- ・ 選手村ビレッジプラザでの「日本の木材活用リレー」
- ・ 使用済みプラスチック等で製造した表彰台（空き容器等の回収）
- ・ 復興仮設住宅のアルミ建材を再生利用したトーチ
- ・ 調達物品の99%をリユース・リサイクル
- ・ 分別区分を示すピクトグラム等により廃棄物を分別。選手村で使用された紙皿をトイレトーパーに再生するなどリサイクルを推進し、大会運営時の廃棄物を62%リサイクル



リサイクル金属により製造された金銀銅メダル



木材活用リレーにより建築された選手村ビレッジプラザ



使用済みプラスチックを再生利用した表彰台



選手村メインダイニングの分別の様子



メインプレスセンターの持続可能性情報ブース

### ○持続可能性に関する情報発信

- ・ メインプレスセンターに持続可能性情報ブースを設置し、国内外のメディアに取組を発信（来場者合計1,189人） など

### ○他方、大会時に食品ロスや医療用消耗品廃棄などの課題も発生

83

TOKYO 2020

## 持続可能性に配慮した調達コード

東京2020組織委員会は、大会のために調達するモノやサービスのサプライチェーンにおける環境保全や人権の尊重、適切な働き方等を推進するため、「持続可能性に配慮した調達コード」を策定・運用した。

様々な認証制度の活用や通報受付窓口の設置を含め、日本ではまだ発展途上の取組だが、大会をきっかけに同様の取組がレガシーとして広がることを期待。

### <主な取組>

- ✓ サプライヤーに対してチェックリストの提出を求めるとともに、ヒアリングや注意喚起等により、問題の事前予防に取り組み。
- ✓ 選手村や会場での飲食提供において、GAP認証品や水産エコラベル認証品などの食材を使用。
- ✓ 交通案内等に関する各種ポスターやチラシ、観戦チケット等に森林認証紙を使用。
- ✓ 調達コードの不遵守に関する通報受付窓口を設置。18件の通報を受け付け、その対応状況の概要も公開。



飲食提供の様子



森林認証紙を使ったリーフレット

## 大会中に生じた課題と対応

### ○ 食品ロスの発生

- ・ 会場スタッフ等の弁当について、大会関係者の注文に基づき行った発注と実需に差が生じ、食品ロスが発生
- ・ そのため、発注量の管理・精査を徹底の上、喫食の呼びかけ・喫食時間の延長等による喫食数の改善を図り、食品ロスの削減に努め、その結果、7月には24%であった非喫食率は8月には15%、9月には8%にまで改善。更に、パラリンピック期間は、消費期限の比較的に長いパンの余剰分について、フードバンクに提供
- ・ 上記対策を実施しても、消費期限を過ぎ、処分せざるを得ない弁当は、飼料化・バイオガス化に努めた

スタッフ等への食事提供実績

| 期間<br>(2021年) | 提供数<br>(万食) | 非喫食数<br>(万食) | 非喫食率<br>(%) |
|---------------|-------------|--------------|-------------|
| 7月            | 81          | 19           | 24          |
| 8月            | 69          | 10           | 15          |
| 9月            | 10          | 0.8          | 8           |
| 期間合計          | 160         | 30           | 19          |

(参考) 弁当のデータとは異なるが、近年の国際大会の処分率事例：約26%、約38% ※  
ただし、当該データは宿泊ホテルでビュッフェ形式による特定期間のサンプル調査であり、前提条件が異なることに留意。  
(※令和元年度農水省委託事業報告書より)

### ○ 医療用消耗品の廃棄

- ・ オリンピックの会場撤収にあたり、施設の引渡時期や保管場所の制約から、残存した消耗品の一部を廃棄
- ・ そのため、パラリンピック期間中は、会場間での有効活用を徹底するとともに、大会後に残存した消耗品についても、医療施設などで有効活用できるよう、東京都はじめ関係機関に可能な限り無償譲渡を実施中

### ○ 無観客措置等に伴う余剰消耗品の有効活用

- ・ 消耗品は、必要最小限の量としたうえで調達をしているが、無観客措置等に伴い、大会中に判明した余剰消耗品については、一時的に確保した保管場所等を活用のうえ、有効活用を図るべく自治体等に譲渡

これらは、フードロス、消耗品の有効活用等、社会の抱える課題でもあり、大会で生じた課題とその対応を通じて、今後の取組の参考となることを期待



## 主な認証事例①

### 文化



|     |                                             |
|-----|---------------------------------------------|
| 主催  | 内閣官房、公益財団法人アイヌ民族文化財団                        |
| 事業名 | 東京オリンピックの際のアイヌ文化とウポポイの発信                    |
| 概要  | マラソン・競歩の会場付近の札幌大通り公園等にて実施されたアイヌ文化への国民理解促進事業 |
| 期間  | 2021/5/22～2021/9/5                          |

### 街づくり・持続可能性



|     |                                            |
|-----|--------------------------------------------|
| 主催  | 東京2020組織委員会/環境省/東京都/NTTドコモ/日本環境衛生センター      |
| 事業名 | 都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト                    |
| 概要  | 使用済み携帯電話等の小型家電等から希少金属を集め、東京2020大会の入賞メダルを製作 |
| 期間  | 2017/4/1～2019/3/31                         |

## オリンピック・パラリンピック教育



### 学校事業認証（ようい、ドン！スクール）概要

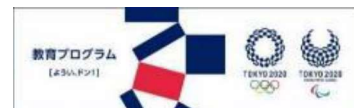
- 東京2020教育プログラムの一環として、オリンピック・パラリンピック教育に取り組む学校の教育事業を、「東京2020オリンピック・パラリンピック教育実施校」（愛称：「ようい、ドン！スクール」）として認証
- 2016年10月に東京都等において認証開始。2017年4月から全国展開開始。総計19,005校。
- 認証対象校は、日本全国の幼稚園、幼保連携型認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校、高等学校、特別支援学校、高等専修学校及び各種学校として認可を受けた外国人学校並びに日本国外の日本人学校
- ようい、ドン！スクールは、ロゴマークやマスコットイラスト等を、学校の教育活動等において活用可能

### マスコット投票

- 16,769校、205,755学級が投票を実施（対象校の8割）
- 207の全国の自治体が、マスコット投票を応援する「マスコット投票宣言」に参加

### オリンピック・パラリンピック教材

- IOC公認教材「オリンピック価値教育の基礎」（OVEP）教材や指導案等を含め、東京2020教育特設サイトより約24,000件ダウンロードされた。
- IPC公認教材『I'm POSSIBLE（アイムポッシブル）』日本版について全国約36,000の小中高及び特別支援学校に製本版が無償配布された。
- オリンピック・パラリンピック学習読本：東京都教育委員会が作成。都内約2,600校の小中高及び特別支援学校に配布された。
- 算数ドリル：スポーツの魅力を感じながら算数を学べるよう、全55競技を題材にした算数ドリルを作成。都内の全公立小学校1,273校の6年生に配布。
- その他、学校連携観戦や聖火リレー、オリンピック休戦など、多様なテーマに応じた教師用指導案や児童・生徒が自主的に取り組めるワークシートなど様々な教材を東京2020教育プログラム特設サイト「TOKYO 2020 for KIDS」に掲載。





## 第138次IOC総会冒頭行事（映像、展示による日本文化紹介）

第138次IOC総会冒頭行事（2021年7月20日）において

日本・東京の文化を紹介する映像を上映し、伝統工芸品を展示

### 表彰状（和紙）

入賞者（1位から8位）に美濃手すき和紙を使用した表彰状を進呈

### 選手団記念品（陶磁器）

各国選手団に、日本ならではの記念品として、陶磁器で制作した記念品を贈呈

・ 贈呈方法：選手村入村受付時に各選手団へ贈呈

※ 協力：日本陶磁器卸商業協同組合連合会、日本陶磁器工業協同組合連合会

### 大会関係者への記念品（風呂敷）

開催都市東京の文化的魅力や環境問題等に取り組むメッセージを世界に発信するため、

選手を含む関係者に「風呂敷」を贈呈（東京都が実施）

### メインプレスセンター展示（いけばな）

メインプレスセンターのエントランスに、「いけばな」による装飾を展示し、世界から集まるメディアへの「おもてなし」とするとともに、日本の伝統であるいけばな文化の素晴らしさを発信

※ 協力：農林水産省、日本花き振興協議会（（公財）日本いけばな芸術協会）

### 認識デバイス（真珠）

開閉会式等の要人識別アイテムとして真珠を活用した認識デバイスを使用

※ 協力：経済産業省、水産庁、（一社）日本真珠振興会、（一社）日本ジュエリー協会



## アイヌと沖縄に関する取組

○札幌のマラソンの競技会場周辺においてアイヌ民族文化財団によるアイヌ文化とウポポイの発信（2021/5/22～2021/9/5）

マラソン・競歩の発着点となる札幌市の大通公園で、約80人が北海道各地のアイヌ民族に伝わる15のアイヌ舞踊を披露。自然との関わりや精神性を重んじるアイヌ文化を世界に発信。

○東京2020公式ライセンス商品で伝統的工芸品コレクションとして二風谷イタ「メノコイタ」を販売。



○オリンピック閉会式におけるアイヌの踊りの紹介



○喜友名選手が金メダル

空手発祥の地といわれている沖縄出身の喜友名選手が、今大会で新しく競技に加わった空手競技において、日本選手初、沖縄県勢初の金メダルを獲得。空手の源流である沖縄空手の魅力を世界に発信。

○東京2020公式ライセンス商品で伝統的工芸品コレクションとして「琉球びんがた」ストールを販売。

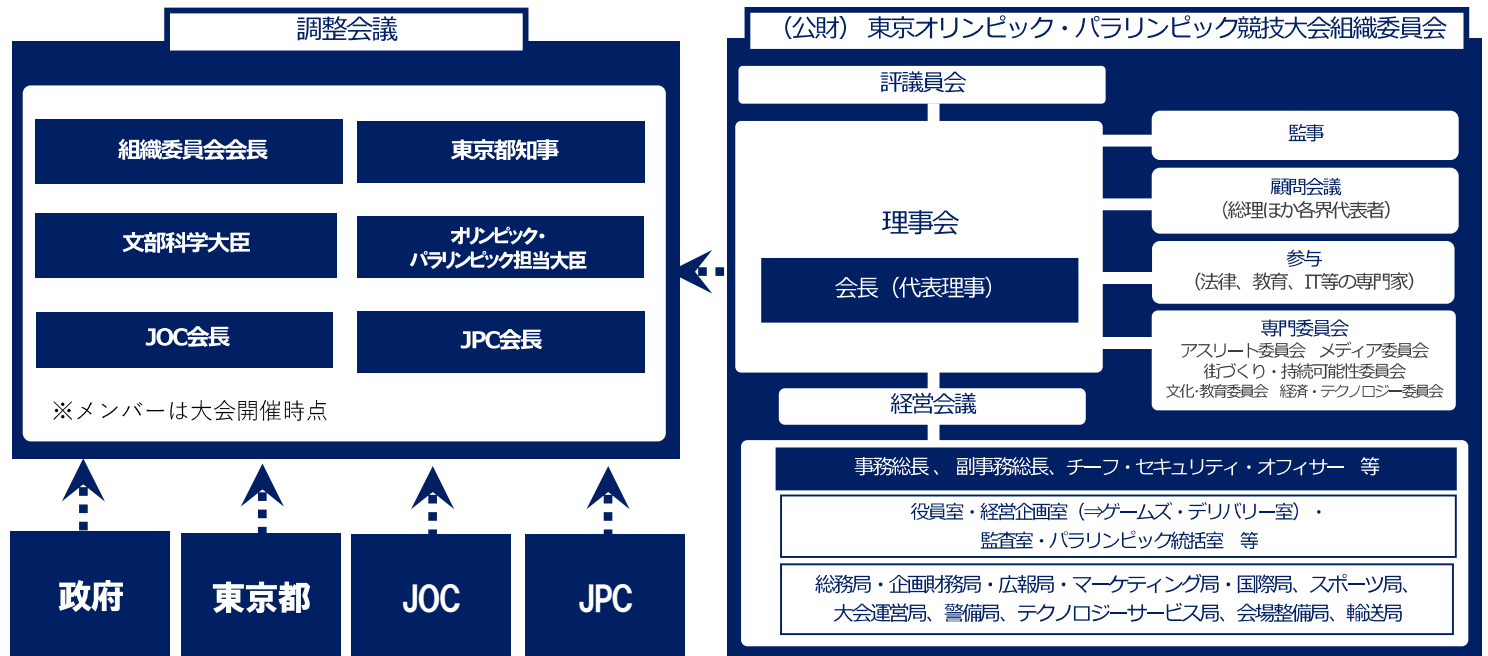


○オリンピック閉会式における沖縄のエイサーの紹介



# 大会準備におけるガバナンス体制（国内側）

- ・ 6 者（オリパラ大臣・文科大臣・JOC・JPC・都知事・組織委会長）からなる調整会議において重要事項を調整
- ・ 一般法人法に基づき評議員会・理事会を設置。エンブレム撤回事案以降は、経営企画や内部統制を強化（経営企画室の設置、一定金額以上の契約案件などについて経営会議に付議、外部機関の助力を得て大会準備の進捗管理<PMO>を実施。）
- ・ 大会準備がFA主体から会場主体へ移行する中、大会開催を統括する組織としてゲームズ・デリバリー室を設置



90

TOKYO 2020

## 組織委員会内のガバナンス（特徴）

### 【意思決定の透明性】

- 組織委員会の最高意思決定機関は理事会であり、これまで約50回を開催
- 重要案件や契約金額が2億円以上（物品購入等は6,000万円以上）の調達などについては、全局長が出席する経営会議において検討
- 日常的な意思決定は事案決定細則に基づいて運用

### 【適切な予算執行体制】

- 会計処理規程等に基づき、支出については金額の多寡にかかわらず全て執行承認の決裁が必要
- 全ての案件について仕様や予算規模の妥当性、適正性等を企画財務局で審査
- 外部委員（弁護士、会計士）を含む調達管理委員会で調達方式、契約締結他の妥当性を審議（一定額以上の案件について約140回、延べ約1,200回件を実施）

### 【監査の実施】

- 組織委員会において実施する内部監査、外部監査のほか国や都の会計検査等も受検

### 【説明責任、情報公開】

- 公益財団法人法に定める以上の情報をホームページで公開（各種規程、調達情報ほか）
- 理事会やラウンドテーブルなどの非公開重要会議については、開催後に資料公開の上、記者会見を実施
- 専門委員会などは可能な限り一般公開
- 定例的な会長の記者会見や、総長による記者ブリ等を実施
- プレイブックをはじめとした大会運営に関する計画・戦略の策定に当たっては、IFなどステークホルダーとの双方向のコミュニケーションを重視

91

TOKYO 2020

## 適正な調達の実施

### 3. 調達管理委員会について（2017年3月設置）

(1)目的：最適調達の実現と、調達活動の公平性、公正性及び透明性の担保。

(2)調達管理委員会での審議事項

◇調達関連規程等の制定及び変更に関すること。

◇調達方針（年度方針・品目別方針等）に関すること。

◇予定価格2億円(当初は3,000万円)以上の調達案件の調達手続（調達方式/予定価格の決定・指名競争入札参加者の選定・特別契約の適否）及び契約締結に関すること。

◇調達コードに抵触する場合及び談合情報等公正な調達を妨げる恐れのある場合への対応に関すること。など

(3)委員：副事務総長を委員長に局長4名、外部2名(弁護士・会計士)の計7名で構成

※財務・総務(コンプライアンス)・法務・リスクマネジメント・持続可能性・マーケティングの関係部長がオブザーバーとして出席

(4)開催頻度：原則、隔週(2回/月)で開催。（全137回/延べ約1,200件・契約金額約5,600億円）

(5)下部の審議機関として、上記オブザーバーをメンバーとする「調達会議」を設置。

◇予定価格2億円未満の調達案件の調達方式等を審査。原則、毎週開催。

## 効率化・簡素化について②

### □ 延期後の大会簡素化

- ✓ 2021年3月24日、大会の延期が発表。その後、26日は新たな出発本部を組織委員会の中に設置。4月以降、簡素化の項目等について検討に着手。
- ✓ 6月 IOC・IPC理事会等で取組を決定。
- ✓ 8月の調整委員会、NOC/NPC、IF、メディア・パートナー等への説明・議論を経て、**9月24日**、25日のIOC調整委員会において、52の見直し項目に合意（会参加者総数の削減方針、大会直前に行われるIOC総会のセレブレーション事業の取り止め、競技会場ラウンジの合理化、UACの施設変更と使用料抑制、MPC等の運営期間の短縮、ロックダウン期間の短縮とセキュリティスイープスケジュールの見直し等）。コロナ禍の下にあって、都民・国民のご理解を得やすい大会となるよう、**会場運営の簡素化や、競技に直接関係のない華美な事業の削減・廃止等**を実施。

【簡素化の目指すもの】

- ・ 簡素化の目的は、延期による追加費用が不可避な中、できるだけトータルのコストを縮減しようという点にあるが、そのみにとどまるものではない。
- ・ 世界中がコロナという共通の危機にあり、社会や経済が大きく変化した以上、オリンピック・パラリンピックもこうした状況に合わせて、変革していく必要がある。
- ・ 来年の東京2020大会は、簡素化とコロナ対策を通じて、シンプルで安心・安全なオリンピック・パラリンピックとなる。
- ・ 社会全体がシンプルで安全・安心な社会を求めている中、このオリンピック・パラリンピックの変革は、社会に対して大きなメッセージにもなるとともに、新たなスタンダードを提供することになる。

- ✓ **10月7日**、IOC理事会に対し、**削減効果はおおよそ300億円**となることを報告・公表。

⇒ 以上の**簡素化・効率化の成果は、2021年3月のIOC総会で改正された「アジェンダ2020+5」等のかたちで今後の大会にも継承。**



オリンピック・アジェンダ2020+5  
15の提言



# 大会資産の継承

## ●アーカイブ組織への継承（IKM）

- ・2021年8月8日付で「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会アーカイブ資産協定」を締結（IOC、IPC、JOC、JPC、東京都、組織委による6者協定）
- ・競技備品等を「東京2020アーカイブ資産」として大会中に収集、国内承継のため整理中
- ・国内各承継先に向けた「アーカイブ方針」を策定（12月）

## ●GEP（Games Experience Programme）（IKM）

- ・将来の組織委員会（Beijing2022, Paris2024, Milanocortina2026, Los Angeles2028）に、会場や競技運営に関する視察・講義を通じて大会運営に関する知識、情報を継承
- ・GEPには、延べ318人が参加

## ●「アクション&レガシー」の推進（LGY）

- ・スペクタキュラー・銘板等の大会を開催した証を自治体等において、大会後にレガシーとして残していくための手続きの推進
- ・大会までの取組をレガシーとして継承・発展させるため、大会後も継続的に取り組む永続的な主体による枠組みづくりの推進

## ●東京大会で獲得した大会資産（Tokyo 2020 ID：約812万件）、ボランティアデータ：約27万件）等のレガシー継承

- ・継承団体の確定、オプトイン取得方式 等





# 東京2020アクション&レガシーレポートについて

2021年12月22日

## 1 東京2020アクション&レガシープランとは

- 2016年に東京都や政府、日本オリンピック委員会、日本パラリンピック委員会、経済界等（以下「関係団体」）と連携し、「東京2020アクション&レガシープラン」を策定
- 「スポーツ・健康」、「街づくり・持続可能性」、「文化・教育」、「経済・テクノロジー」、「復興・オールジャパン・世界への発信」の5本の柱のアクションの検討を進める5つの専門委員会を設置し、取組を推進

## 2 東京2020アクション&レガシーレポート

- 上記プランに基づき実施された取組の成果と何がレガシーとして継承されていくかを取りまとめたものとして、関係団体や5つの専門委員会からの意見も踏まえ作成
  - 名 称：「東京2020アクション&レガシーレポート」（日英）
  - 公表日：2021年12月22日 理事会報告後、弊社ウェブサイトにて公表
  - ※ IOCウェブサイトでの公表も調整中
- 本レポートには、このような厳しい状況下で大会を開催出来たこと自体、一つのレガシーとなり得る観点についても記載するとともに、大会資産の活用についても記載

### 3 アクション&レガシーレポートの概要

- 「アクション&レガシープラン」に基づいたアクションを取りまとめることから、プランの章構成を基本としつつ、大会延期に伴う取組や東京大会における象徴的な取組である、「ジェンダー平等／多様性と調和」についても記載（第四章）。また、これまでの取組への総括として、5つの専門委員会の委員長からのメッセージを、それぞれの柱の章（第三章～第七章）の巻頭に掲載

#### 第一章：東京2020大会

- ・大会の準備・開催
- ・大会の延期と新型コロナウイルス感染症対策

#### 第二章：アクション&レガシー

- ・アクション&レガシープランとレポート
- ・東京2020組織委員会及び各関係団体の取組
- ・各柱を横断する視点

#### 第三章：スポーツ・健康

#### 第四章：街づくり・持続可能性

#### 第五章：文化・教育

#### 第六章：経済・テクノロジー

#### 第七章：復興・オールジャパン・世界への発信

- ・専門委員会委員長メッセージ
- ・基本的な考え方
- ・主な実績・成果
- ・事例紹介
- ・アクション
- ・レガシー

同じ構成

#### 第八章：東京2020参画プログラム

- ・東京2020参画プログラムとは
- ・プログラムの仕組み
- ・東京2020参画プログラムの歩み
- ・数字で見る東京2020参画プログラム
- ・東京2020参画プログラムの実績報告
- ・プログラム参加団体・アクションに参加した皆さんの声

#### 第九章：大会資産の活用

- ・基本的な考え方
- ・新規に建設された施設の活用
- ・大会プロパティの活用（スペクタキュラー、銘板等）

※大会延期や新型コロナウイルス感染症の影響によって取組にどのような変化が見られたのかについても追記

TOKYO 2020

## 第一章 東京2020大会

### 目次と主な内容

#### 1 オリンピック・パラリンピックと東京・日本の歩み

- 1964年の東京大会は、戦後から復興・復活した東京・日本の姿を世界の人々に知ってもらう機会であった。
- 東京2020大会に向けては、スポーツが復興・社会に寄与する姿をどう発信するかなどを常に考えてきた。

#### 2 東京2020大会の準備

- 2013年9月7日に2020年の大会開催都市が東京に決定し、翌年1月に、組織委員会を設立。当初は44名、大会開催に向けて、最大7000名となり、さらに7万人のボランティア、コントラクターも加わって、大きな一つのチームとして、大会準備を行った。

#### 3 東京2020大会の延期と新型コロナウイルス感染症対策

- 2020年3月24日、新型コロナの世界的な感染拡大を受け、大会開催をオリンピック・パラリンピック史上初めて延期することが決定。延期に伴う、大会の位置付け、ロードマップ等を公表。
- 感染症対策のためのプレイブックを取りまとめた。海外からの観客の受入れについては、世界におけるコロナ禍の状況により断念し、国内観客も多くの会場で無観客での開催となった。

#### 4 東京2020大会の開催

- 新型コロナ対策が大きな課題となったが、IOC、IPC、国、東京都、関係自治体などの協力もあり、安全最優先の開催を実現。多くの会場で無観客での開催となったが、デジタルで人々と大きく繋がる大会となった。

TOKYO 2020

## 第二章 アクション&レガシー

### 目次と主な内容

#### 1 アクション&レガシープランとレポート

- 東京2020大会までの間に実施された取組（アクション）を整理し、未来に何を残すか（レガシー）をとりまとめるため、2016年にアクション&レガシープランを策定。
- アクションの成果やレガシーについて、アクション&レガシーレポートとしてとりまとめた。東京2020大会後も、東京都や国、JOC、JPC等の様々なレガシーの担い手がそれぞれの取組を実施し、発展、継承させていくことが期待されている。

#### 2 東京2020組織委員会及び各関係団体の取組

- アクション&レガシープランを推進するため、5本の柱を立て、それぞれの検討を進める5つの専門委員会で議論。委員会では、各分野で、現状と課題、大会がきっかけとなって残すべきレガシーは何かということや、アクション等について検討。
- 組織委員会だけでなく、東京都、国、経済界、JOC、JPCをはじめ、地方自治体や関係団体等において、大会前からそれぞれ取組が進められた。

#### 3 各柱を横断する視点

- 「参画」は5本の柱の共通した理念であることから、「東京2020参画プログラム」を開始。
- 東京2020大会は同一都市で2回目のオリンピック・パラリンピックを開催する初の大会となった。パラリンピックを通じた共生社会の実現は、誰もが持てる力を発揮して、ともに社会に参加し、皆でより良い未来をつくるために不可欠。

TOKYO 2020

## 第三章 スポーツ・健康

| レガシーコンセプト                                                                                                                               | 主なアクション&レガシー                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 誰もがスポーツを「する・観る・支える」社会の実現</li> <li>・ アスリートが活躍する社会の実現</li> <li>・ パラリンピックを契機とした共生社会の実現</li> </ul> | <p>&lt;東京2020みんなのスポーツフェスティバル&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業概要<br/>全国の学校を対象に、運動会等でのオリンピック・パラリンピックに関連した取組を公募し、審査のうえ、優れたものを表彰、全国に内容を展開していくアクション。</li> <li>・ 主な実績<br/>春の運動会80校125プログラム、秋の運動会48校118プログラムの申請があった。優れた学校を合計20校表彰した。優れた取組を公式サイト等で紹介した。</li> <li>・ レガシー<br/>全国の学校に様々なプログラムを共有し、創意工夫を凝らした運動会の演目の実施が促進されている。今後も学校での取組が継続され、スポーツを楽しむきっかけづくりに繋がることを期待している。</li> </ul>  <p>&lt;東京2020・JOC・JPC 3団体合同アスリート委員会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業概要<br/>オンライン形式で開催された委員会には、3団体会長やアスリート委員会委員長らが参加し、初めて3団体のアスリート委員会が一堂に会し、組織を超えた連携・発信につなげていく活発な意見が交わされた。</li> <li>・ 主な実績<br/>東京2020・JOC・JPC 3団体アスリート委員会の連携による情報発信、アスリートのモチベーションアップに向けた取組について意見交換を行った。</li> <li>・ レガシー<br/>各アスリート委員会の連携のスキームが今後の取組にも活かされることを期待している。</li> </ul>  <p>&lt;オンライン交流イベント～みんながつながるトークイベント～&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業概要<br/>組織委員会、JOC、JPC合同で、それぞれの委員会のアスリート委員と武蔵野東小学校の児童によるオンライン交流イベントを開催した。</li> <li>・ 主な実績<br/>児童が自ら考えた運動会演目のプレゼンテーションを行い、アスリート自身の競技経験を児童に伝え、児童の大会への参画意識を向上させることができた。</li> <li>・ レガシー<br/>オンラインを活用した新しい交流の形が定着し、アスリートと児童との交流の場がさらに広がることを期待している。</li> </ul>  |

## 第四章

## 街づくり・持続可能性

|       | レガシーコンセプト                                                                                                                                                                     | 主なアクション&レガシー                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 街づくり  | <ul style="list-style-type: none"> <li>ユニバーサル社会の実現・ユニバーサルデザインに配慮した街づくり</li> <li>魅力的で創造性を育む都市空間</li> <li>都市の賢いマネジメント</li> <li>安心・安全な都市の実現</li> </ul>                           | <p>&lt;アクセシビリティに関する取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>事業概要</b><br/>東京2020大会が、障がいの有無に関わらず、すべての人々にとってアクセシブルでインクルーシブな大会となるような取組を推進した。</li> <li><b>主な実績</b><br/>組織委員会では、国の関係行政機関、東京都、関係地方公共団体、障がい者団体等の参画を得て、「Tokyo 2020 アクセシビリティ・ガイドライン」を策定し、IPCの承認を得た。ガイドラインは、東京2020大会の各会場のアクセシビリティに配慮が必要なエリアと、そこへの動線となるアクセシブルルート、輸送手段、組織委員会による情報発信・表示サイン等のバリアフリー基準、ならびに関係者の接遇トレーニング等に活用する指針となった。</li> <li><b>レガシー</b><br/>大会会場へのアクセスの機会を確保すべく環境整備を図ったことで、障がいの有無に関わらず、すべての人々が相互に人格と個性を尊重し合う共生社会の実現に貢献した。</li> </ul>  |
| 持続可能性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>持続可能な脱炭素都市の実現</li> <li>持続可能な資源利用の実現</li> <li>水・緑・生物多様性に配慮した快適な都市環境の実現</li> <li>人権・労働慣行等に配慮した社会の実現</li> <li>持続可能な社会に向けた参加・協働</li> </ul> | <p>&lt;都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>事業概要</b><br/>使用済み携帯電話等の小型家電等から金属を集め、東京2020大会でアスリートに授与された入賞メダルを製作した。</li> <li><b>主な実績</b><br/>2017年4月から2019年3月までの2年間で、オリンピック・パラリンピックの金・銀・銅あわせて約5,000個のメダルに必要な金属量を100%回収できた。</li> <li><b>レガシー</b><br/>組織委員会では、必要金属量回収後も回収ボックスを継続して設置し、回収を行った。プロジェクトの成果のアピール等を通じて小型家電リサイクルを定着させ、資源の有効活用を今まで以上に重視する、環境にやさしい持続可能な社会の実現に寄与した。</li> </ul>                                                                                                 |

6

TOKYO 2020

## 第五章

## 文化・教育(文化)

|  | レガシーコンセプト                                                                                                                                               | 主なアクション&レガシー                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>日本文化の再認識と継承・発展</li> <li>次世代育成と新たな文化芸術の創造</li> <li>日本文化の世界への発信と国際交流</li> <li>全国展開によるあらゆる人の参加・交流と地域の活性化</li> </ul> | <p>&lt;組織委員会のアクション&gt;</p> <p>文化オリンピックの全国各地での展開を目指して、キックオフや1000日前など節目となる機会に文化オリンピックのムーブメントを喚起する事業を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>キックオフプログラム「幕開き 日本橋 ～東京2020文化オリンピックキックオフ～」(2016年10月実施)<br/>江戸の文化の発信地であり、五街道の起点にもなった日本橋から、文化オリンピックのキックオフを宣言し、全国津々浦々での参画を呼びかけた。</li> <li>1000日前イベント「文化オリンピックナイト」(2017年11月実施)<br/>文化オリンピックをテーマにしたトークセッションや被災地を「音楽で繋ぐ」コンサートを通じて、東京2020 NIPPONフェスティバルに向けての期待感を醸成した。</li> </ol> <p>&lt;東京都のアクション&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オリンピック・パラリンピックを契機に「芸術文化都市 東京」の魅力を世界に発信しようと、2016年から様々な文化プログラムを展開し、2017年からは、東京都の文化プログラムを「Tokyo Tokyo FESTIVAL」と銘打ち、多彩な文化プログラムを展開した。</li> </ul> <p>&lt;国のアクション&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東京2020大会を契機として、総合テーマ「日本人と自然」の下に、縄文時代から現代まで続く「日本の美」を国内外へ発信し、次世代に伝えることで、更なる未来の創生を目指して、「日本博」を2019年から開始した。</li> </ul> <p>&lt;レガシー&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会場所在都市以外でも全国津々浦々で文化イベントが開催され、人々の交流を通じて、新たな表現や文化が創出されたと同時に、日本文化の再認識や世界への発信へとつながることができ、その継続・発展が期待される。</li> <li>国、東京都、組織委員会が一体となり取り組んだ結果、新しい事業はもちろん、既存事業を発展させたプログラムが様々な場所で創造された。文化芸術団体や自治体等の新たなパートナーシップが全国各地でみられ、今後も新たな取組が見込まれる。</li> </ul>   <p>東京キャラバンin北海道(2019/2020) 撮影：篠山紀信</p>  |

TOKYO 2020



## 第五章

## 文化・教育(東京2020 NIPPONフェスティバル)

### 概要

「Blooming of Culture 文化は、出会いから花開く。」をキャッチフレーズに、あらゆる境界を超えた連帯の象徴となるよう、公式文化プログラムを全国で展開



### ◆主催プログラム

| 事業名                                                                                                               | 日程・参加者数                                                                                                      | イベント内容                                                                                                                |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【東北復興】<br>しあわせはこぶ旅<br>モッコが復興を歩む東北から<br>TOKYOへ<br>Presented by ENEOS                                               | ①5/15(土):岩手県(有観客約600人)<br>②5/22(土):宮城県(無観客)<br>③5/29(土):福島県(無観客)<br>④7/17(土):新宿御苑(無観客、オンラインライブ配信:視聴者数約102万人) | 岩手県、宮城県、福島県の各会場で東北の人々のメッセージを預かった巨大人形「モッコ」が、東京を目指して旅をしながら国内外へ東北の現在の姿を発信                                                |
| 【参加と交流】<br>わっさい                                                                                                   | 7/18(日)<br>オンラインライブ配信<br>(視聴者数約85万人)                                                                         | 「世界はもう一度『わ』になれる。」をコンセプトにバーチャルなオリンピックスタジアムを舞台にオンラインのお祭りを開催                                                             |
| 【共生社会の実現に向けて】<br>ONE-Our New Episode-<br>Presented by Japan Airlines<br>①MAZEKOZEアイランドツアー<br>②Our Glorious Future | オンライン配信<br>①8/22(日)オンラインライブ配信<br>(視聴者数約116万人)<br><br>②8/16(土)から随時配信                                          | ①9つの個性的な島を旅することで、まぜこぜのおもしろさや心地よさを体験<br>エンターテインメントの力によって多様性や共生社会の魅力をユニークに表現<br><br>②障がい者が参加するダンス映像、音楽公演及び演劇等(神奈川県との共催) |

### ◆共催プログラム

東京2020大会を契機に実施される日本を代表する特別な文化プログラムを全国で展開し、日本が誇る文化・芸術を国内外に発信した。

【開催日:2021年4月1日(木)~9月12日(日)、実施事業:26事業(コロナ禍により6事業中止)】

TOKYO 2020

## 第五章

## 文化・教育(教育)

### レガシーコンセプト

### 主なアクション&レガシー

- ・オリンピック・パラリンピックやスポーツの価値の理解
- ・多様性に関する理解~障がい者への理解・国際理解~
- ・主体的・積極的な参画と大学連携

#### 事業概要・主な実績

##### <オリンピック・パラリンピック教育の全国への展開>

- ・組織委員会をはじめ、国、東京都や全国の自治体等が児童・生徒に対するオリンピック・パラリンピック教育に取り組めるようできるよう推進した。
- ・組織委員会のオリンピック・パラリンピック教育に取り組んだ学校を認証する学校事業認証においては全47都道府県等で合計19,005校の学校が参加。
- 政府や東京都等においてもオリンピック・パラリンピック教育の推進事業を実施。

##### <『I'mPOSSIBLE(アイムポッシブル)』日本版の活用による障がい者理解の推進>

- ・パラリンピックの価値とパラリンピック教育を普及することを目的とした教材『I'mPOSSIBLE』日本版の活用を支援した。
- ・東京2020教育プログラム特設サイトにおいて『I'mPOSSIBLE』日本版の各教材を掲載・周知して日本全国での授業実施を推進、日本財団パラリンピックサポートセンターにおいては教員研修が実施された。

##### <学校連携観戦の実施>

- ・子供たちが観戦を通して一生の財産として心に残るような機会を提供するため、自治体や学校単位に低廉な価格で購入できる「学校連携観戦チケット」を企画。事前事後学習に資する教材を無償配布。
- ・限定的な実施ではあったが最終的にはオリンピック約4,700人/パラリンピック約15,700人の子供たちが競技会場に足を運び、観戦した。

##### <東京2020大会への参画機会の提供>

- ・大会運営や選手への応援メッセージなど東京2020大会への各種参画機会を提供した。競技運営の支援やスポーツプレゼンテーション等により大会参加を実現した。
- ・全国の大学・短期大学との連携協定を締結するとともに出張講座や地域巡回フォーラムを実施。
- ・また、ボール等の競技用備品等を全国の教育委員会を通じ学校に寄贈。

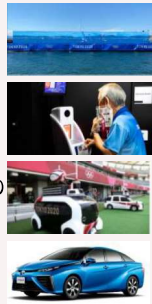
#### レガシー

- ・オリンピック・パラリンピック教育を通して全国の児童・生徒の心に「自信と勇気」「多様性の理解」「主体的・積極的な社会参画」というレガシーを残すことができた。
- ・児童・生徒の大会競技やスポーツへの興味関心だけでなく多様性の理解に繋げることができ、ボランティアなどの参画に関心を広げることができた。
- ・大学連携は若者たちにとって実践の場となり、自由な発想による思考と行動を支えることになった。



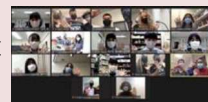
TOKYO 2020

## 第六章 経済・テクノロジー

|        | レガシーコンセプト                                                                                                                                                                          | 主なアクション&レガシー                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 経済     | <ul style="list-style-type: none"> <li>高性能な経済の構築</li> <li>地方や中小企業、多様な人材等の底力の発揮</li> <li>高齢化先進国への挑戦</li> </ul>                                                                      | <p>&lt;ホストタウン事業と連携した地方の魅力発信に向けた取組&gt;<br/>政府と連携し日本各地の魅力を映像と言葉で世界に発信するプロジェクトに10自治体16校の若者が参加し、相手国の選手や文化団体等と交流(取材・撮影)を行った。</p> <p>&lt;言語のバリアフリー化に向けた取組&gt;<br/>多言語翻訳アプリ「おもてなしガイド」による競技会場内アナウンス等の多言語での文字配信を約40の大会会場で提供した。</p> <p>&lt;2020TDM推進プロジェクトをはじめとする交通マネジメント&gt;<br/>円滑な大会輸送と都市活動の安定との両立を図るため、TDM、首都高速道路における料金施策、及びTSMからなる交通マネジメントを実施した。TDMについては、東京2020大会時の交通混雑緩和を目指し、多くの関係先と大会前から連携を図り、混雑回避の取組、テレワーク、オフピーク通勤を呼びかけた。</p> <p>・レガシー<br/>小中高生が地域の魅力を再認識し、将来にわたり地域活性化に向けて自ら取組を考えるきっかけとなった。多くの選手や関係者による翻訳アプリの利用を通じて、今後に向けた言語のバリアフリー化を促進した。今後、災害時や大規模イベント等にも活用できる混雑緩和に向けた行動計画作成のノウハウを各企業に提示した。</p>  |
| テクノロジー | <ul style="list-style-type: none"> <li>映像や多言語対応等による感動の共有</li> <li>障がいや年齢、性別、国籍を超えた、人に優しいバリアフリー(For All)</li> <li>防災・防犯・サイバーセキュリティ等における高信頼・高品質の安全</li> <li>環境に優しい水素社会の構築</li> </ul> | <p>&lt;5G技術の活用&gt;<br/>5Gの高速大容量性を活かした超高解像度映像および同時多地点映像のライブストリーミングや、低遅延性を活かしたAR(拡張現実)観戦体験を提供した。</p> <p>&lt;安全・安心な大会運営に向けた取組&gt;<br/>大会期間中の全ての関係者に対するアクセスコントロールにおいて顔認証を導入、また選手村エリアの密回避のため不特定多数が訪れる各施設に混雑検知センサーを設置した。</p> <p>&lt;人に優しいロボットの活用&gt;<br/>車いす使用者の競技観戦支援や、競技運営において輸送等を力強くサポートするなど、人に寄り添った実用的なロボットを大会に実装した。</p> <p>&lt;大会運営における水素の活用&gt;<br/>聖火台・聖火トーチに水素技術を導入、大会関係車両等に水素燃料電池車を活用した。</p> <p>・レガシー<br/>5G、安全・安心に向けた技術の活用を通じて、世界中の人々に新たな技術の可能性を提示した。共生社会実現に向けたロボット技術や環境に優しい技術の大会での活用を通じて、今後の大会の1つのモデルを構築した。</p>                                                                             |

TOKYO 2020

## 第七章 復興・オールジャパン・世界への発信

|         | レガシーコンセプト                                                                       | 主なアクション&レガシー                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 復興      | 被災地復興への後押し                                                                      | <p>&lt;復興情報の発信&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業概要<br/>メディアガイド、復興ブースを通じて復興の情報や、被災地産品の魅力等を発信した。</li> <li>主な実績<br/>東京2020大会に関連した復興の取組等をまとめた「東日本大震災からの復興の取組に関するメディアガイド」を作成・配布、オンライン配信した。大会期間中、メインプレスセンター内に復興ブースを設置し、被災地の復興状況や被災地の魅力等についてPRを行い、延べ1,150人の国内外メディアが来場した。</li> <li>レガシー<br/>復興しつつある被災地の姿や、被災地産品の魅力の情報発信を行い、風評被害の払拭と産業振興につなげた。</li> </ul>     |
| オールジャパン | オールジャパンでの参画                                                                     | <p>&lt;東京2020大会に向けたポスター募集企画&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業概要<br/>小・中学生及び特別支援学校の小・中学生から、東京2020大会に関するポスターを募集し、優秀作品の表彰を行い、大会関連施設等へ掲出した。</li> <li>主な実績<br/>5年間で延べ約12万点の応募があり、子供たちの東京2020大会への興味関心の向上に繋がった。大会時には、羽田空港等の大会関連施設等への掲出を行った。</li> <li>レガシー<br/>子供たちのスポーツへの興味関心の向上に繋がるとともに、大会時に大会関連施設等に掲出され、世界各国のアスリート等を勇気づけたことが、一人一人の心のレガシーとなった。</li> </ul>  |
| 世界への発信  | <ul style="list-style-type: none"> <li>観光の活性化</li> <li>日本の魅力等の世界への発信</li> </ul> | <p>&lt;ホストタウンの海外への情報発信&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業概要<br/>相手国・地域を同じくするホストタウンが連携して相手国・地域と交流を行った。</li> <li>主な実績<br/>2024年パリ大会開催国であるフランスや2028年ロサンゼルス大会開催国である米国にホストタウンの取組についてPRを行った。</li> <li>レガシー<br/>同じ国・地域をホストタウンとする自治体が連携し、今後の国内外での国際スポーツ大会や2025年大阪・関西万博に向けて、交流を継続する機運が高まった。</li> </ul>                                                         |

TOKYO 2020

## 第八章 東京2020参画プログラム

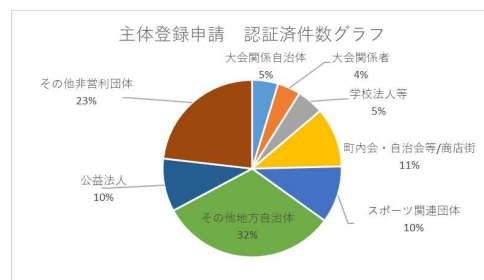
### プログラムの趣旨

- 東京2020大会の機運醸成・盛り上げ等に向けて、多くのアクションが実施され、できるだけ多くの方々や団体が主体的に参画できるよう推進する。
- レガシー創出につながるアクションを日本全国で推進するために、コンセプトを共有し一定の基準を満たす取組を認証する。それらをきっかけに、アクションの主体者及び参加者を通じて社会にポジティブな成果が生まれるよう促進する。

| 項目                          | 内容                                                             |
|-----------------------------|----------------------------------------------------------------|
| 1.東京2020参画プログラムとは           | 参画プログラムの意義・成果                                                  |
| 2.プログラムの仕組み                 | 参画プログラムの対象団体・構成・マーク・実施利点・認証要件・特設サイト                            |
| 3.東京2020参画プログラムの歩み          | ホストタウンアクション・祭りプログラム等の特別プログラム及びカウントダウン連携企画の歴史・成り立ち              |
| 4.数字で見る東京2020参画プログラム        | 全申請データ(認証件数・参加者数推移)から読み取れる参画プログラムの成果・レガシー                      |
| 5.東京2020参画プログラムの実績報告        | アクション実施後の主体者へのアンケート結果や、実際のアクション実施風景について紹介                      |
| 6.プログラム参加団体・アクションに参加した皆さんの声 | 参画プログラム参加者へのインタビュー<br>効果・反省点・レガシーとして次世代に残したいこと等、参加者の立場からの意見を掲載 |



「4.数字で見る東京2020参画プログラム」のデータ例



TOKYO 2020

## 第九章 大会資産の活用

### 基本的な考え方

- オリンピックは、42会場、パラリンピックは21会場で競技が実施された。競技会場には、1964年東京大会でも使用された既存会場、新たに建設された新規恒久会場、大会時の使用を目的として設置された仮設会場があり、大会終了後も、様々な競技大会、イベント等での活用が検討されている。
- 大会プロパティを活用したスペクタキュラーや銘板等については、IOCやIPCによって承認されることでレガシーとして残すことができ、開催都市や関係自治体等によって制作され、大会のストーリーとして後世に継承される。そのほか、競技用備品や大会準備運営用の物品、各種公表資料などの東京2020アーカイブ資産についても、保存・管理・利活用される。

| 新規恒久施設     | 内容                                                                                                  |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 国立競技場      | 2022年4月以降は、日本におけるスポーツ振興の中核拠点として、国際大会や全国大会の決勝戦が開催される予定。東京2020大会の聖火台や優勝者銘板等を適切に保存・展示し、レガシーの継承に貢献していく。 |
| 東京都の新規恒久施設 | 開催都市である東京都は、東京2020大会に向けて、新たに6つの競技会場を整備。大会後も東京2020大会のレガシーとして、多くの都民に利用され、親しまれる施設となる。                  |



| 知的財産                                      | 設置主体      | 設置場所(予定)                                                                                             |
|-------------------------------------------|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 大会名称<br>「オリンピック」<br>「パラリンピック」             | 東京都       | 〈有明オリンピック・パラリンピックパーク(仮称)〉<br>有明アーバンスポーツパーク、有明親水海浜公園 一帯<br>〈武蔵野の森オリンピック・パラリンピックパーク(仮称)〉<br>武蔵野の森公園 一帯 |
| スペクタキュラー<br>シンボルマーク<br>(5 Rings/3 Agitos) | 東京都       | 有明オリンピック・パラリンピックパーク(仮称)<br>東京国際クルーズターミナル<br>TAKAO599ミュージアム                                           |
| マスコット                                     | 東京都、関係自治体 | 大会関連施設等                                                                                              |
| 銘板<br>スタンプ<br>エンブレム                       | 東京都、関係自治体 | 競技会場(スタンプ+エンブレム等)<br>聖火リレー通過場所、事前キャンプ実施場所、練習会場(エンブレム等)                                               |



# 数字で見る東京2020大会のアクション例

「東京2020アクション&レガシープラン」に基づいて、全国の様々な組織や団体と連携し、機運醸成やレガシー創出に向けたアクションを実施しました。その成果の一部を紹介します。



## スポーツ・健康

### スポーツ実施率

59.9 %

成人の週 1日以上スポーツ実施率  
(2016年度 42.5%)

### スポーツフェスティバル

243プログラム

「東京2020みんなのスポーツ  
フェスティバル」の実施プログラム数

### 運動・スポーツの認識

74.9 %

自分にとって運動・スポーツは大切  
とする人の割合

### 障がい者スポーツ実施率

24.9 %

障がい者（成人）の週1回以上の  
スポーツ・レクリエーション実施率  
(2017年度 20.8%)

### スポーツフェスティバル

128 校

「東京2020みんなのスポーツ  
フェスティバル」の参加校

### 健康経営に取り組む企業

約95 %

従業員等の運動習慣定着を  
支援している企業の割合

## 街づくり・持続可能性

### 再生可能エネルギー

100 %

大会運営時の再生可能エネルギー  
使用率

### 表彰台

24.5 t

表彰台を製作するために回収した  
使用済みプラスチックの量

### バリアフリー化

95.9%

都内の鉄道のバリアフリー化により進め  
られた、エレベーター等による段差解消

### 無電柱化

99 %

センター・コア・エリア内の  
都道の無電柱化率

### メダル

100 %

5,000個の入賞メダル製作に必要な  
金属量を使用済み小型家電から回収

### 木材提供

63 自治体

選手村ビレッジプラザに  
木材を提供した自治体の数

## 文化・教育

### 主催プログラム

300 万人以上

東京2020 NIPPONフェスティバル「しあわせ  
はこぶ旅 モッコが復興を歩む東北からTOKYO  
へ」「わっさい!」「MAZEKOZEアイランドツアー」  
のオンラインライブ配信視聴者総数

### 共催プログラム

約11 万人

東京2020 NIPPONフェスティバルの  
共催プログラムの参加者数  
(オンラインライブ配信視聴者含む)

### 学校連携観戦

約2 万人

学校連携観戦チケットによる  
児童・生徒等数  
(当初計画は128万人)

## 経済・テクノロジー

### 低公害・低燃費車

95 %

大会関係車両(乗用車)に占める  
燃料電池自動車(FCV)や  
プラグインハイブリッド車(PHV)の比率

### 顔認証技術

48箇所  
303レーン  
約30万人

関係者の入退場用に導入した  
顔認証システムの数・使用人数

### 若者の地域の魅力発信

10 自治体  
16 校

ホストタウンの海外選手と交流し  
映像等を製作した自治体・学校の数

## 復興・オールジャパン・世界への発信

### 復興の発信

1,150 人

大会期間中メインプレスセンター内の  
復興ブースを訪問したメディア数

### ボランティア活動

83 %

フィールドキャストのうち、大会後も、  
スポーツボランティアの活動を  
続けていきたいと思う人の割合

### 世界からの関心

823 億

全世界でオリンピック大会期間中に  
ツイートされた #Tokyo2020 関連の  
会話のインプレッション数

### 東京2020文化オリンピアド

約3,700万人

東京2020文化オリンピアドの  
参加者数

### 東京2020マスコット小学生投票

205,755 学級

対象校の約 8 割の学校が参加

### オリンピック・パラリンピック教育

19,005 校

ようい、ドン! スクール認証学校数  
教育プログラム特設サイトも  
総アクセス数約152万回の利用

### ロボットプロジェクト

12 種類  
73 台

大会に導入した自走式案内ロボット・  
追従型搬送ロボット等の台数

### 2020TDM推進プロジェクト

910 団体  
52,202 社・事業所

大会期間中の交通混雑緩和に協力・  
参加した団体・企業の数

### 水素技術

3 都県

福島県浪江町の再生可能エネルギー由来の水素  
を、福島県、愛知県、東京都の一部で聖火リ  
レートーチに活用(聖火台にも活用)

### スポーツの力と被災地

867 人

「オリンピックデー・フェスタ」に  
協力いただいたアスリート数

### ポスター募集企画

約12 万点

2015年度から2019年度までの  
5年間に児童・生徒から応募された総数

### ホストタウン

533 自治体

ホストタウンに登録いただいた  
自治体数

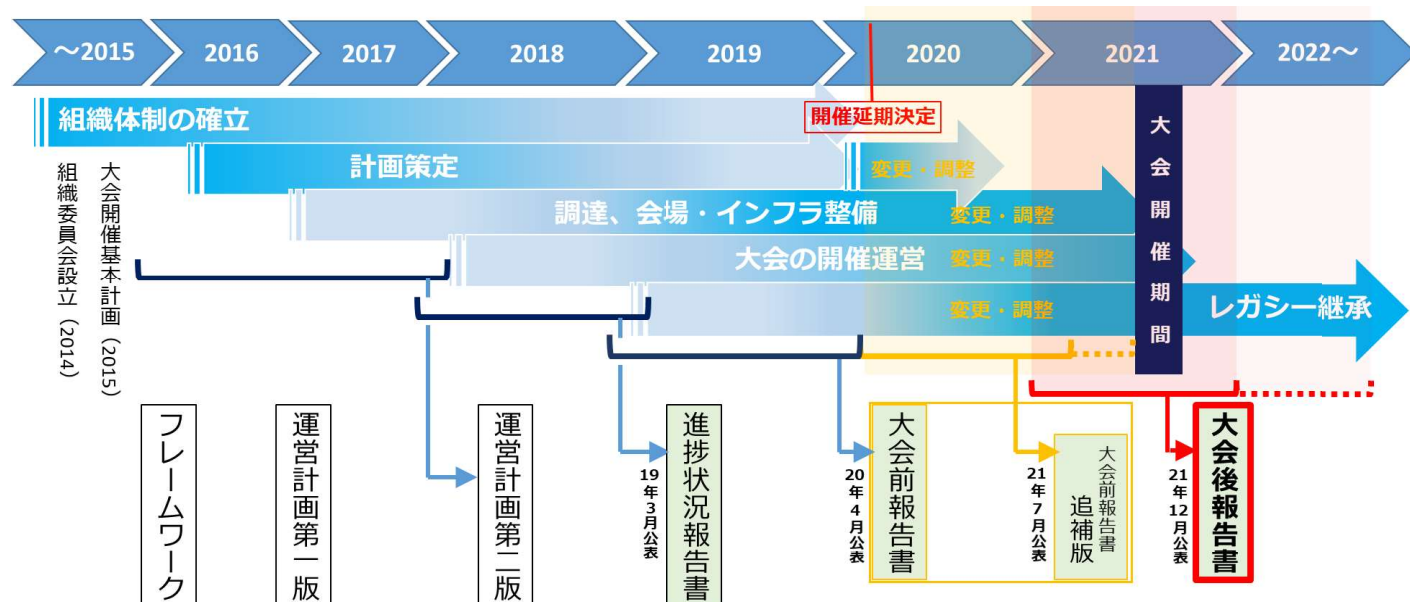


# 持続可能性大会後報告書について

2021年12月22日

## 東京2020大会の持続可能性報告の体系

- 大会の準備・開催のフェーズの進行に沿いながら、運営計画及び3つの報告書により大会の持続可能性の全体像を提示
- 持続可能性大会後報告書は、大会後に明確になる取組結果や大会から得た学び・気づき等を報告し、大会の持続可能性を総括



# 東京2020大会の持続可能性の概要

持続可能な社会の実現に向け、多様な主体と連携し、課題解決のモデルとなる取組を推進

東京 2020 大会の持続可能性コンセプト

## Be better, together

より良い未来へ、ともに進もう。

### <5つの主要テーマと大目標>



#### 気候変動

脱炭素社会の実現に向けて



#### 資源管理

資源を一切ムダにしない



#### 大気・水・緑・生物多様性等

自然共生都市の実現



#### 人権・労働、公正な事業慣行等

多様性の祝祭



#### 参加・協働、情報発信

パートナーシップによる大会づくり



TOKYO 2020

## 数字で見る東京2020大会の持続可能性



TOKYO 2020

# 東京2020大会の主な取組結果

## ・カーボンマイナス大会を実現

- ・バイオマスや太陽光による電力の調達や、東京都及び横浜市の協力によるグリーン電力証書により、**大会期間中の再生可能エネルギー電力100%を実現**。福島県内の太陽光発電施設で発電された電力も使用し、復興を後押し
- ・燃料電池自動車475台の導入や、聖火台や聖火リレートーチの一部の燃料に**水素を使用**。東京都の取組として、選手村内の宿泊施設の一部や選手の休憩施設の電気を、純水素型燃料電池により供給。オリンピックスタジアムの聖火台や選手村においては、福島県で製造された再エネ由来水素を使用
- ・全競技会場の約6割について既存会場を活用するとともに、**都市鉱山をはじめとする環境配慮物品の調達や、省エネ対策、低公害・低燃費車両の利用等のCO<sub>2</sub>回避・削減対策を実施**
- ・東京都・埼玉県を通じた**217事業者の参加**により、大会に関連したCO<sub>2</sub>排出量（196万t-CO<sub>2</sub>）を242万t-CO<sub>2</sub>超過する438万t-CO<sub>2</sub>のクレジットによるカーボンオフセットを行い、**カーボンマイナス大会を実現**

## ・調達物品、運営時廃棄物の3Rの推進

- ・レンタル・リースや関係機関との連携による後利用の推進により、**調達物品の99%をリユース・リサイクル**
- ・コロナ禍において多くの会場で無観客となり、廃棄物の組成が変化する中、分別を徹底し、ペットボトル、プラスチック、紙などの素材リサイクルを進め、**大会運営時に排出された廃棄物の62%をリサイクル**
- ・大会中に生じた食品ロスや医療用消耗品の廃棄等の課題については、大会期間中に改善の取組を実施

## ・参加型プロジェクトを通じた市民参加の創出

- ・市民参加により都市鉱山から製作されたメダル、使用済みプラスチックから製作された表彰台で選手を表彰
- ・各自治体から借り受け、大会後に活用される木材で建てられた選手村のビレッジプラザで選手の生活を支援

TOKYO 2020

# 東京2020大会の主な取組結果

## ・競技会場における自然環境等への配慮

- ・雨水等の循環利用や在来種による植樹など、新規恒久会場の整備において水循環や緑化を推進
- ・オリンピックスタジアムの大屋根トラスや軒庇、有明体操競技場の梁や内外装など、会場建設において多くの木材を使用

## ・ジェンダー平等／多様性と調和の推進

- ・研修等を通じて**ダイバーシティ&インクルージョンの浸透**を図るとともに、アクセシビリティの確保や、選手村総合診療所「女性アスリート科」の設置、宗教や多様な食習慣に配慮した食事の提供など、「**多様性と調和**」を大会運営に反映
- ・女性理事割合**42%**を達成するとともに、**ジェンダー平等推進チーム**を立ち上げ、関係者や市民に誰もが生きやすい社会に向けた行動を呼びかける「**東京2020D&Iアクション**」など、更なる取組を推進

## ・持続可能性に配慮した調達

- ・大会のために調達するモノやサービスのサプライチェーンにおける環境保全や人権の尊重、適切な働き方等を推進するため、「**持続可能性に配慮した調達コード**」を策定・運用。木材や食材等は個別の調達基準も策定
- ・調達コードの不遵守に関する通報受付窓口を設置。助言委員会の助言も得ながら通報に対応し、対応の概要はウェブサイトで公表

## ・ISO20121の第三者認証に基づく大会運営

- ・大会の開催期間も含め、イベントの持続可能性をサポートするためのマネジメントシステムである**ISO20121**に基づく大会運営を実施

**持続可能性について大会で成し得たことや、直面した課題、得られた学びといった大会の無形の価値が、レガシーとして多くの人々に伝わることを期待**

TOKYO 2020



# 東京2020大会の「多様性と調和」におけるジェンダー平等報告書について

2021年12月22日

## 本報告書のポイント

○本報告書では、組織委員会が当初より進めてきた「多様性と調和」の取組にも言及しながら、ジェンダー平等の取組を中心に振り返り、その成果や残された課題について記載

○最大の特徴は、2018年にIOCが公表した「ジェンダー平等再検討プロジェクト報告書」に示された25の提言という**明確な枠組みに沿って、大会の取組の進捗を整理したこと**（上記提言に基づく整理は東京大会が初）

※来田享子理事と井本直歩子ジェンダー平等推進チームアドバイザーの協力を得て作成

### 【提言に基づいた進捗確認（抜粋）】

#### 提言 1：オリンピック大会への参加

→女子選手参加割合**オリ約48%、パラ約42%**（大会史上最高）

#### 提言 2：競技形式及び技術的ルール

→男女混合種目が、前回大会に比べて**オリ9種目から18種目に、パラ38種目から40種目に増加**

#### 提言 3：ユニフォーム

→大会スタッフや技術役員のユニフォームに、性別・国籍・年齢を問わず着用できる**デザインを採用**

#### 提言 8：競技スケジュール

→**男女の決勝を種目別に交互に設定したり、5つの競技で女子の決勝を最終に実施**

#### 提言 9：医療

→大会史上初めて、選手村の**総合診療所内に女性アスリート科を設置**

#### 提言10：スポーツにおけるハラスメント・虐待から選手を守る

→会場入場者の禁止行為に**アスリート等への性的ハラスメント目的の撮影の禁止を明記**



# 本報告書のポイント

【提言に基づいた進捗確認（抜粋） 続き】

**提言12：両性のバランスの取れたメディア表象**

- 開会式で男女1名ずつのアスリートが旗手を務めるよう奨励され、多くの国が遂行
- IOCの「ジェンダー平等のための表象ガイドライン」を和訳し、メディアブリーフィング実施

**提言18：ガバナンスにおける女性リーダーシップ育成**

- 女性の橋本聖子氏が会長に就任。理事における女性の割合を42%に引き上げ

**提言22：排除のない組織文化と多様性に関するリーダーシップ**

- 「多様性と調和」の大会を担う「組織づくり」「人づくり」を一貫して実施  
(アクションワード「Know Differences, Show Differences ～ちがいを知り、ちがいを示す」、  
D&I宣言、LGBTQ当事者との交流会、「PRIDE指標」のゴールド受賞、東京2020D&Iアクション等)

**提言25：広報計画**

- ウェブサイトでジェンダー平等などの専用ページを開設し、情報発信
- 「多様性と調和」の取組を競技会場のパネル展示やメインプレスセンター持続可能性ブースで発信

**○大会の開催を契機に、計画段階からジェンダー平等の課題を体系的に整理し、明確な枠組みを提示のうえ、戦略的に取り組むことができているれば、より多くのインパクトを社会に残せた可能性**

**○本報告書に記した具体的な進捗とその過程で浮き彫りになった課題が、国内外のジェンダー平等の達成に向けた国、開催都市、スポーツ関係団体による今後の体系的・戦略的取組やモニタリングの促進に活用されることを期待**

TOKYO 2020

## その他の主な論点

### ○ジェンダー平等リーダーシップ

- ・普段から多様な分野で活躍する男性と女性の理事が、各自の立場からの視点や経験を踏まえた意見を提示することにより理事会が活発化
- ・「東京2020D&Iアクション」実施に際して、新任理事、アスリート出身理事、アドバイザー等の自主的グループによる活発な意見交換

⇒多様な意見を尊重し、理解し合うことからより良い取組や変化が生まれるという考え方が当たり前となり、より女性の登用、人材育成が推進されることに期待

### ○性の多様性が表現された東京2020大会

- ・LGBTQアスリートであることを公表したオリンピックが186名、パラリンピアンが36名  
\*【いずれも大会史上最多】 (\*LGBTQアスリートのWeb専門誌アウトスポーツ (Outsports)より)
- ・オリンピック史上初めて、男性から女性に性別を変更したウェイトリフティングのニュージーランド代表選手の出場にも注目

⇒身体の性別と性自認をめぐり、スポーツにおける公平と平等とは何かを考える場に

### ○選手のメディア表象をめぐる課題

- ・「スポーツにおけるジェンダー平等、公平でインクルーシブな描写のための表象ガイドライン」の和訳を国内外メディアに配布し、ネットメディアを中心にその存在が報じられ、スポーツだけでなく、社会一般、教育の分野でも参考になると評価
- ・選手の描写を性的視点で捉える問題に対し、JOC等7団体は声明を出し、組織委員会では性的ハラスメント撮影を大会における禁止行為に。ドイツ女子体操チームは足首まで覆う「ユニタード」を着用し、誰の目にもつく形でこの問題への発信の場に

TOKYO 2020



# TOKYO 2020

東京2020 第48回理事会 資料

## 配付資料

---



# 仮設オーバーレイ整備の契約状況について

2021年12月22日

## 報告事項

- ✓ 各会場の仮設オーバーレイ整備契約は、2020年9月第38回理事会で、実施設計後の変更及び大会延期対応に係る整備費用の見込額を上限額として、契約手続を開始することを承認いただき、変更手続きを順次進めてきた。
- ✓ 会場の撤去・復旧工事を年度内に完了すべく執行管理を徹底しているところ。  
(選手村の工事は継続)
- ✓ 2021年11月30日時点の契約状況について報告する。

# 仮設オーバーレイ整備の契約状況

【単位：億円】

金額は税込で百万円以下を切り上げ

| 会場名 |                | 当初契約 | 変更後  | 契約相手方                                                    |
|-----|----------------|------|------|----------------------------------------------------------|
| 1   | 有明アリーナ         | 23.7 | 24.1 | 大和ハウス工業株式会社                                              |
|     | 有明体操競技場        | 10.0 | 12.6 |                                                          |
|     | 有明テニスの森        | 49.9 | 56.0 |                                                          |
| 2   | 大井ホッケー競技場      | 44.2 | 59.4 | 大和ハウス工業株式会社                                              |
|     | 海の森クロスカントリーコース | 15.6 | 18.3 |                                                          |
|     | 海の森水上競技場       | 42.9 | 59.3 |                                                          |
|     | カヌー・スラロームセンター  | 25.7 | 33.5 |                                                          |
| 3   | 夢の島公園アーチェリー場   | 36.4 | 40.3 | ピコ・日本建設共同企業体                                             |
| 4   | さいたまスーパーアリーナ   | 11.9 | 11.7 | 2020仮設オーバーレイ（その4）<br>整備事業共同企業体<br>（株式会社電通ライブ・株式会社ムラヤマJV） |
|     | 茨城カシマスタジアム     | 12.9 | 12.4 |                                                          |
|     | 埼玉スタジアム2002    | 18.1 | 18.2 |                                                          |
|     | 横浜国際総合競技場      | 12.5 | 15.2 |                                                          |

TOKYO 2020

# 仮設オーバーレイ整備の契約状況

【単位：億円】

金額は税込で百万円以下を切り上げ

| 会場名 |                       | 当初契約  | 変更後   | 契約相手方                                                                   |
|-----|-----------------------|-------|-------|-------------------------------------------------------------------------|
| 5   | 幕張メッセ（Aホール）           | 33.0  | 42.5  | 株式会社乃村工藝社                                                               |
|     | 幕張メッセ（Bホール）           | 23.7  | 31.2  |                                                                         |
|     | 幕張メッセ（Cホール）           | 7.5   | 5.8   |                                                                         |
| 6   | 陸上自衛隊朝霞訓練場            | 57.8  | 98.8  | NES Overlay Ltd<br>（ES Global Ltd、株式会社イーエスエスジャパン、<br>株式会社日本ステージ、株式会社シマ） |
|     | 霞ヶ関カンツリー倶楽部           | 29.9  | 45.5  |                                                                         |
| 7   | 東京アクアティクスセンター         | 64.5  | 86.8  | 株式会社大林組                                                                 |
|     | 東京辰巳国際水泳場             | 27.5  | 28.4  |                                                                         |
| 8   | 横浜スタジアム               | 21.2  | 23.3  | 清水建設株式会社                                                                |
| 9   | 馬事公苑                  | 114.2 | 136.8 | 大成建設株式会社                                                                |
| 10  | オリンピックスタジアム 内部        | 32.0  | 56.8  | 大成建設株式会社                                                                |
| 11  | オリンピックスタジアム 周辺の神宮外苑地区 | 30.8  | 31.4  | 株式会社電通ライブ                                                               |
|     | 東京体育館                 | 11.7  | 16.2  |                                                                         |
|     | 皇居外苑                  | 14.3  | 0.7   |                                                                         |

TOKYO 2020



# 仮設オーバーレイ整備の契約状況

【単位:億円】

金額は税込で百万円以下を切り上げ

|    | 会場名            | 当初契約 | 変更後  | 契約相手方                          |
|----|----------------|------|------|--------------------------------|
| 12 | 日本武道館          | 18.3 | 27.2 | 株式会社竹中工務店                      |
| 13 | 国立代々木競技場       | 21.8 | 28.6 | 株式会社乃村工藝社                      |
| 14 | お台場海浜公園        | 23.6 | 35.2 | 大和リース・TSP太陽<br>特定建設工事共同企業体     |
|    | 潮風公園           | 40.4 | 62.7 |                                |
| 15 | 有明アーバンスポーツパーク  | 37.0 | 54.9 | 大和リース・TSP太陽<br>特定建設工事共同企業体     |
| 16 | 釣ヶ崎海岸サーフィンビーチ  | 26.7 | 34.5 | 前田・GLイベント<br>仮設オーバーレイ整備業務共同企業体 |
| 17 | 江の島ヨットハーバー     | 19.3 | 26.2 | TSP太陽株式会社                      |
| 18 | 武蔵野の森総合スポーツプラザ | 10.4 | 9.8  | 大和ハウス工業株式会社                    |
|    | 東京スタジアム        | 28.7 | 27.3 |                                |
|    | 武蔵野の森公園        | 3.5  | 3.5  |                                |
| 19 | 青海アーバンスポーツパーク  | 26.5 | 37.4 | TSP太陽・大和リース<br>特定建設工事共同企業体     |
| 20 | 福島あづま球場        | 18.5 | 19.2 | 株式会社奥村組                        |

TOKYO 2020

# 仮設オーバーレイ整備の契約状況

【単位:億円】

金額は税込で百万円以下を切り上げ

|    | 会場名                             | 当初契約 | 変更後  | 契約相手方                                              |
|----|---------------------------------|------|------|----------------------------------------------------|
| 21 | 札幌ドーム                           | 13.4 | 12.5 | 大成建設株式会社                                           |
| 22 | 宮城スタジアム                         | 12.8 | 12.3 | 大和リース・橋本店<br>特定建設工事共同企業体                           |
| 23 | 伊豆ベロドローム 整備工事                   | 23.9 | 26.0 | 清水建設株式会社                                           |
| 24 | 伊豆ベロドローム 仮設建築物<br>(伊豆MTBコースと共用) | 23.8 | 26.3 | 大和リース株式会社                                          |
| 25 | 伊豆MTBコース 整備工事                   | 6.3  | 7.0  | 株式会社NIPPO                                          |
| 26 | 伊豆MTBコース コース周辺整備                | 4.6  | 4.5  | 東亜道路工業株式会社                                         |
| 27 | 東京国際フォーラム                       | 37.3 | 39.6 | 戸田建設株式会社                                           |
| 28 | 富士スピードウェイ                       | 11.0 | 13.0 | 株式会社博報堂・GL events Japan<br>株式会社・株式会社オサコー建設         |
| 29 | 国技館 館外                          | 12.4 | 14.8 | 株式会社電通ライブ                                          |
| 30 | 国技館 館内                          | 11.9 | 11.1 | 株式会社大林組                                            |
| 31 | 札幌大通公園                          | 11.2 | 10.9 | 仮設オーバーレイ (SOP) 整備業務共同企業体<br>(株式会社西岡国昭建設・株式会社電通ライブ) |

TOKYO 2020

# 仮設オーバーレイ整備の契約状況

【単位：億円】

金額は税込で百万円以下を切り上げ

| 会場名 |                    | 当初契約    | 変更後     | 契約相手方                                                                                                                    |
|-----|--------------------|---------|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 32  | IBC／MPC            | 283.1   | 364.7   | 大和ハウス工業株式会社                                                                                                              |
| 33  | 選手村宿泊棟             | 445.0   | 464.0   | 三井不動産レジデンシャル株式会社、エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社、新日鉄興和不動産株式会社、住友商事株式会社、住友不動産株式会社、大和ハウス工業株式会社、東急不動産株式会社、東京建物株式会社、野村不動産株式会社、三菱地所レジデンス株式会社 |
| 34  | 選手村商業棟 躯体          | 27.9    | 29.8    | 三井不動産株式会社                                                                                                                |
| 35  | 選手村商業棟 内装          | 15.7    | 15.7    | 株式会社エムクリエイツ                                                                                                              |
| 36  | 選手村メインダイニング        | 56.8    | 56.8    | 大和ハウス工業株式会社                                                                                                              |
| 37  | 選手村チームプロセッシングセンター等 | 28.0    | 25.1    | 東急建設・東急リニューアル建設共同企業体                                                                                                     |
| 38  | 選手村ビレッジプラザ         | 24.3    | 25.7    | 熊谷組・住友林業<br>特定建設工事共同企業体                                                                                                  |
| 合計  |                    | 2,093.8 | 2,489.0 |                                                                                                                          |

※百万円以下切り上げのため、合計欄の数値と内訳を足し上げたものが一致しない。

TOKYO 2020



## IOC理事会について

2021年12月22日

### IOC理事会（東京2020報告）

- 1 日 時：2021年12月8日（水）
- 2 場 所：ローザンヌ（スイス） ※テレビ会議形式により参加
- 3 出席者：  
IOC側：バッハ会長、コーツIOC調整委員会委員長、IOC理事 ほか  
東京側：橋本会長、武藤総長、山下副会長/IOC委員、中村GDO
- 4 内 容：東京大会の総括についてのプレゼン等  
コロナ禍での大会開催、大会の価値／東京2020モデル／競技・会場／  
コロナ対策／大会運営総括

※IPCに対しても、同趣旨の橋本会長、武藤総長のプレゼンを収録し、12月10日（金）に提供。IPCからNPCやIF等の加盟団体へ提供